

添 付 資 料

現地調査日程

小林 裕三（総括／農業政策／農産物生産）

月日	曜日	業務実施場所	業務内容
11/5	月	アビジャン	日本発/コ国着
6	火	アビジャン	日本大使館訪問、JICAコートジボワール事務所訪問
7	水	アビジャン	農業省企画局訪問、商業省官房訪問
8	木	アビジャン	ANADER訪問、CNRA訪問
9	金	アビジャン	FIRCA訪問、INS訪問
10	土	アビジャン	データ・資料整理
11	日	アビジャン	データ・資料整理
12	月	ヤムスクロ	アビジャン-ヤムスクロ移動、PASEA事務所見学
13	火	ヤムスクロ	農業省ヤムスクロ地区事務所訪問、ANADERヤムスクロ地区事務所訪問、PASEAサイト見学（セマン、ダコナンクロ）、ONDRヤムスクロ地区事務所訪問、種子調整センター見学
14	水	ヤムスクロ	農業省地区事務所にてヤムスクロでの活動について打合せ、ONDRにて精米業者の会合に参加、精米業者2軒見学（精米業者見学からJICA本部鍋屋参事・JICA-CI藤野氏合流）
15	木	ヤムスクロ	PASEA事務所、PASEAサイト、種子調整センター訪問（JICA本部鍋屋参事・JICA-CI藤野氏に同行）
16	金	ヤムスクロ	卸業者CDCi店舗視察、ヤムスクロ市場米屋調査、パーボイラー訪問、農業省ヤムスクロ地区事務所にて農業協同組合へのヒアリング
17	土	ヤムスクロ	データ・資料整理、ローカルコンサルタントと流通調査の打合せ
18	日	ヤムスクロ	データ・資料整理
19	月	トゥムディ	トゥムディ農村調査、組合訪問聞き取り（COPRORIZ、ENTENTE）
20	火	ヤムスクロ	Union Covidy訪問・聞き取り、組合員圃場視察、団内協議
21	水	ヤムスクロ・ザッタ	Zatta精米所視察、Zatta地区の灌漑地訪問
22	木	ブアケ	Koriakro精米所訪問、Koriakro灌漑地区視察・農家聞き取り、Bouake卸売市場視察
23	金	ブアケ	Bouake小売市場調査
24	土	アビジャン	ヤムスクロ-アビジャン移動、データ・資料整理
25	日	アビジャン	データ・資料整理
26	月	アビジャン	ANARIZCI訪問、内部打合せ、ANADERスタッフと生産者インタビューについての打合せ
27	火	アビジャン	ANOPACI、ARECA訪問
28	水	アビジャン	OCPB、OBAMCI訪問
29	木	アビジャン	CCC訪問、CAPS訪問
30	金	アビジャン	港湾局、商工会議所訪問
12/1	土	アビジャン	収集資料の分析
2	日	アビジャン	追加情報の収集
3	月	アビジャン	AiPH（パームオイル業界団体）訪問調査 野菜生産者からの聞き取り調査
4	火	アビジャン	中間報告書作成 ANADER果樹分野調整員からのヒアリング
5	水	アビジャン	APROMAC（天然ゴム業界団体）訪問調査 中間報告書作成
6	木	アビジャン	中間報告書作成 マンゴー生産者からの聞き取り調査

7	金	アビジャン	中間報告書作成 カシューナッツ生産者からの聞き取り調査	
8	土	アビジャン	資料整理・作成	
9	日	アビジャン	資料整理・作成	
10	月	アビジャン	調査団内ミーティング 資料提供依頼 (INS、PAA) のフォローアップ	
11	火	ベンジャビル	ANADER-Bingerville研修センター訪問・研修事業に関する調査	
12	水	アビジャン	GIZ訪問・聞き取り調査 中間報告書作成	
13	木	グラン・ラウ	アブラヤシおよび天然ゴムならびにカカオ生産地訪問・聞き取り調査	
14	金	アビジャン	日本大使館にて中間報告 コラ生産者からの聞き取り調査	
15	土	アビジャン	資料整理・作成	
16	日	アビジャン	資料整理・作成	
17	月	アビジャン	出国	
18	火	パリ (経由)	移動	
19	水	東京	日本着	
2/1	金		HND/01:30/AF283→CDG/06:20	CDG/13:45/AF702→ABJ/19:05
2	土	アビジャン	JICA民間セクター調査団との意見交換	本邦研修員同窓会、調査準備
3	日	アビジャン	通訳との打合せ	ローカルコンサルタントと調査結果内容と追加調査の確認
4	月	アビジャン	調査準備、PASEA事務所で打合せ	JICA事務所訪問・第2次調査内容の確認
5	火	アビジャン	農業省計画局 (稲作以外の農産物振興政策に係る情報収集)	ドラフト・FR原稿作成
6	水	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	商業省 (農産物輸入関税等調査)
7	木	アビジャン	安全対策ブリーフィング (JICA)	ドラフト・FR原稿作成
8	金	アビジャン	運輸省 (国内外農産物運送の現状と課題に係る情報収集)	ドラフト・FR原稿作成
9	土	アビジャン	収集資料整理	ドラフト・FR原稿作成
10	日	ボングアヌ	ABJ→Bongouanou	Conseil Généralにて打合せ
11	月	ボングアヌ	Kotobi集荷場・小売市場の視察、ANADER-Kotobi研修センター視察	Conseil Général de Bongouanouで会長と会談
12	火	ボングアヌ	M'Battoの女性キャッサバ加工販売グループおよび稲作組合 (COODERIZ) からヒヤリング	Bongouanou→ABJ
13	水	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	今後の方針についてJICAで打合せ
14	木	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	ドラフト・FR原稿作成
15	金	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	民間企業NOVELから稲作分野への投資に関しヒヤリング
16	土	アビジャン	収集資料整理・第2次調査中間レビュー	
17	日	アビジャン	収集資料整理・第2次調査中間レビュー	
18	月	アビジャン	OLAM社 (稲作に関するヒヤリング)	JICA事務所にてプログラム協力案の協議
19	火	アビジャン	CIC社 (稲作に関するヒヤリング)	TV会議用資料作成
20	水	アビジャン	JICA事務所でTV会議、BFA (農業金融機関としての役割等ヒヤリング)	APSFD-CI (農業金融機関としての役割等ヒヤリング)

21	木	アビジャン	YANOVEL稲作責任者との面談、MI NAGRI大臣官房訪問	BNETD訪問調査
22	金	アビジャン	ローカルコンサルタントと調査結果の検討	UNACOOPEC（農業金融機関ヒヤリング）
23	土	アビジャン	ローカルコンサルタントと調査結果の検討	JICA農村開発部出張者（中村職員）との打合せ
24	日	アビジャン	ABJ→Yamoussoukou、PASEA関連施設見学、YAANOVEL種子圃場見学	Yamoussoukou→ABJ
25	月	アビジャン	JICA事務所とまとめ資料について打合せ	
26	火	アビジャン	JICA事務所とまとめ資料について打合せ	
27	水	アビジャン	JICA事務所で打合せ	先方政府（農業省、商業省、ONDR）への調査結果発表・協議
28	木	アビジャン	ドナーへの調査結果発表・協議	JICA事務所、日本国大使館への報告、ABJ/22:40/AF703→
3/1	金		→PAR-CDG/05:55、PAR-CDG/11:00/AF282→	
2	土		→NHD/06:55	

日	曜日	業務実施場所	業務内容
10/23	火	アビジャン	日本発/コ国着
24	水	アビジャン	日本大使館、農業省訪問
25	木	アビジャン	アフリカライスセンターアビジャン事務所、世銀訪問 調査目的の説明と協力依頼
26	金	アビジャン	ローカルコンサルタントと農家経営調査の概要についての打ち合わせ
27	土	アビジャン	ローカルコンサルタントと農家経営調査の時期・方法・契約金額についての打ち合わせ
28	日	アビジャン	JICA事務所員と調査内容の打ち合わせ
29	月	アビジャン	農業省(PASEA事務局)にて資料収集先の確認及び関係部署のアポ取り
30	火	アビジャン	ローカルコンサルタントと稲作農家経営調査の対象地区に関する打ち合わせ 農業省(プロジェクト評価・監督局)にて資料収集先の確認及び関係部署のアポ取り
31	水	アビジャン	ONDR(国家稲作開発事務局)にて聞き取り調査、資料収集先の確認及び関係部署のアポ取り 農業機械輸入販売業者(DTE)訪問
11/1	木	アビジャン	祝日のためデータ・資料整理
2	金	アビジャン	農業省企画局にてコメ以外農産物の統計データ収集依頼・流通関係情報については関係部署とのアポ取りを依頼 JICA事務所にて現在までの業務報告及び今後の業務日程についての打ち合わせ
3	土	アビジャン	データ・資料整理
4	日	アビジャン	データ・資料整理
5	月	アビジャン 郊外/アビジャン	汜濫原稲作農家経営調査 農業省PASEA事務局にて訪問先打ち合わせ
6	火	アビジャン	ONDRにて収集資料の打ち合わせ 日本大使館訪問、JICAコートジボワール事務所訪問
7	水	アビジャン	農業省企画局訪問、商業省官房訪問
8	木	アビジャン	ANADER訪問、CNRA訪問
9	金	アビジャン	FIRCA訪問、INS訪問
10	土	シケンシ	稲作農家経営調査
11	日	アビジャン	データ・資料整理
12	月	ヤムスクロ	アビジャン-ヤムスクロ移動、PASEA事務所見学
13	火	ヤムスクロ	農業省ヤムスクロ地区事務所訪問、ANADERヤムスクロ地区事務所訪問、PASEAサイト見学(セマン、ダコナンクロ)、ONDRヤムスクロ地区事務所訪問、種子調整センター見学
14	水	ヤムスクロ	農業省地区事務所にてヤムスクロでの活動について打合せ、セマンにて農家経営調査、精米業者2軒見学(精米業者見学からJICA本部鍋屋参事・JICA-CI藤野氏合流)
15	木	ヤムスクロ	PASEA事務所、PASEAサイト、種子調整センター訪問(JICA本部鍋屋参事・JICA-CI藤野氏に同行)
16	金	アビジャン	ヤムスクロ-アビジャン移動、農業省・JICA協議に出席
17	土	ヤムスクロ	アビジャン-ヤムスクロ移動、データ・資料整理
18	日	ヤムスクロ	データ・資料整理
19	月	トゥモディ	稲作農家経営調査
20	火	ヤムスクロ	食用作物・野菜栽培協同組合連合からの聞き取り調査

21	水	ザッタ	精米業者・稲作農家からの聞き取り調査
22	木	ブアケ	卸売市場視察
23	金	トゥモディ	稲作農家経営調査フォロー
24	土	ヤムスクロ	資料整理
25	日	ヤムスクロ	稲作農家経営調査票回収及び確認
26	月	ヤムスクロ	灌漑稲作圃場視察
27	火	トゥモディ	灌漑稲作圃場視察
28	水	ブアケ	アフリカライス訪問
29	木	ヤムスクロ	ANADERにて稲作プロジェクト情報収集
30	金	ヤムスクロ	資料整理
12/1	土	アビジャン	移動 ヤムスクロ→アビジャン
2	日	アビジャン	データ・資料整理
3	月	アビジャン	稲作農家経営調査票回収及びローカルコンサルタントと打ち合わせ、農業省計画局と今後の調査計画の打ち合わせ
4	火	アビジャン	農家経営調査費用精算及び支払い 農家経営調査データ入力作業
5	水	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
6	木	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
7	金	アビジャン	ONDRにて稲作プロジェクト情報収集 ANADERにて食用作物生産費の情報収集
8	土	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
9	日	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
10	月	アビジャン	中間報告書作成
11	火	ベンジャビル	ANADER研修センター訪問
12	水	アビジャン	JICA事務所にて中間報告打ち合わせ
13	木	アビジャン	中間報告書作成
14	金	アビジャン	日本大使館にて中間報告
15	土	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
16	日	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
17	月	アビジャン	ローカルコンサルタントへ農家経営調査票誤記入箇所の再調査依頼
18	火	アビジャン	農家経営調査データ入力作業及びJICA事務所にてボングアヌ調査に関わる打ち合わせ
19	水	アビジャン	農家経営調査データ入力作業及びビザ延長に関わる手続き
20	木	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
21	金	アビジャン	農家経営調査データ入力作業及びONDR請求資料の確認
22	土	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
23	日	アビジャン	農家経営調査データ入力作業
24	月	アビジャン	農業省計画局にてボングアヌプロジェクト資料収集
25	火	アビジャン	農家経営調査データ分析作業
26	水	アビジャン	農家経営調査データ分析作業
27	木	アビジャン	農業省PASEA事務局にてプロジェクト実施体制の打ち合わせ 農家経営調査データ分析作業
28	金	アビジャン	農業省PASEA事務局にてプロジェクト実施体制の打ち合わせ 農家経営調査データ分析作業
29	土	アビジャン	農家経営調査データ分析作業
30	日	アビジャン	農家経営調査データ分析作業
31	月	アビジャン	資料整理、作成
1/1	火	アビジャン	資料整理

2	水	アビジャン	月報作成
3	木	アビジャン	農家経営調査データ分析 PASEA事務局にてボングアヌ調査計画の打合せ
4	金	アビジャン	農家経営調査票誤記入箇所の確認作業及びローカルコンサルタントに再調査依頼
5	土	アビジャン	資料・データ整理
6	日	アビジャン	資料・データ整理
7	月	アビジャン ボングアヌ	移動／農業省提案のプロジェクト候補地視察
8	火	ボングアヌ	農業省提案のプロジェクト候補地視察
9	水	ボングアヌ アビジャン	農業省提案のプロジェクト候補地視察／移動
10	木	アビジャン	農業省PASEA事務局にてボングアヌ調査結果について協議
11	金	アビジャン	ボングアヌ調査報告書作成
12	土	アビジャン	資料・データ整理
13	日	アビジャン	資料・データ整理
14	月	アビジャン	農業省PASEA事務局にてボングアヌ調査結果について協議
15	火	アビジャン	帰国報告会用資料作成
16	水	アビジャン	農業省PASEA事務局にてボングアヌ調査結果について協議 帰国報告会用資料作成
17	木	アビジャン	JICA事務所にて調査結果中間報告
18	金	アビジャン	農業省計画局にて調査結果中間報告 「コ」国出発
19	土	パリ（経由）	移動
20	日	東京	帰国

日	曜日	業務実施場所	業務内容
11/5	月	アビジャン	日本発/コ国着
6	火	アビジャン	日本大使館訪問、JICAコートジボワール事務所訪問
7	水	アビジャン	農業省企画局訪問、商業省官房訪問
8	木	アビジャン	ANADER訪問、CNRA訪問
9	金	アビジャン	FIRCA訪問、INS訪問
10	土	アビジャン	データ・資料整理
11	日	アビジャン	データ・資料整理、流通調査の準備
12	月	ヤムスクロ	アビジャン-ヤムスクロ移動、PASEA事務所見学
13	火	ヤムスクロ	農業省ヤムスクロ地区事務所訪問、ANADERヤムスクロ地区事務所訪問、PASEAサイト見学(セマン、ダコナンクロ)、ONDRヤムスクロ地区事務所訪問、種子調整センター見学
14	水	ヤムスクロ	農業省地区事務所にてヤムスクロでの活動について打合せ、ONDRにて精米業者の会合に参加、精米業者2軒見学(精米業者見学からJICA本部鍋屋参事・JICA-CI藤野氏合流)
15	木	ヤムスクロ	PASEA事務所、PASEAサイト、種子調整センター訪問(JICA本部鍋屋参事・JICA-CI藤野氏に同行)
16	金	ヤムスクロ	卸業者CDCi店舗視察、ヤムスクロ市場米屋調査、パーボイラー訪問、農業省ヤムスクロ地区事務所にて農業協同組合へのヒアリング
17	土	ヤムスクロ	データ・資料整理、ローカルコンサルタントと流通調査の打合せ
18	日	ヤムスクロ	データ・資料整理
19	月	トゥムディ	トゥムディ農村調査、組合訪問聞き取り(COPRORIZ、ENTENTE)
20	火	ヤムスクロ	Union Covidy訪問・聞き取り、組合員圃場視察、団内協議
21	水	ヤムスクロ・ザッタ	Zatta精米所視察、Zatta地区の灌漑地訪問
22	木	ブアケ	Koriakro精米所訪問、Koriakro灌漑地区視察・農家聞き取り、Bouake卸売市場視察
23	金	ブアケ	Bouake小売市場調査、流通調査の準備
24	土	アビジャン	ヤムスクロ-アビジャン移動、データ・資料整理
25	日	アビジャン	データ・資料整理
26	月	アビジャン	ANARIZCI訪問、内部打合せ、ANADERスタッフと生産者インタビューについての打合せ
27	火	アビジャン	ANOPACI、ARECA訪問
28	水	アビジャン	OCPB、OBAMCI訪問、流通調査の詳細準備
29	木	アビジャン	CCC訪問、CAPS訪問
30	金	アビジャン	港湾局、商工会議所訪問、流通調査の詳細準備
12/1	土	アビジャン	資料整理
2	日	アビジャン	資料整理、「コ」国出発
3	月	パリ(経由)	移動
4	火	東京	帰国
2/1	金		HND/01:30/AF283→CDG/06:20
2	土	アビジャン	JICA民間セクター調査団との意見交換
3	日	アビジャン	通訳との打合せ
			CDG/13:45/AF702→ABJ/19:05
			本邦研修員同窓会、調査準備
			ローカルコンサルタントと調査結果内容と追加調査の確認

4	月	アビジャン	調査準備、PASEA事務所で打合せ	JICA事務所訪問・第2次調査内容の確認
5	火	アビジャン	農業省計画局（稲作以外の農産物振興政策に係る情報収集）	ドラフト・FR原稿作成
6	水	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	商業省（農産物輸入関税等調査）
7	木	アビジャン	安全対策ブリーフィング（JICA）	ドラフト・FR原稿作成
8	金	アビジャン	運輸省（国内外農産物運送の現状と課題に係る情報収集）	ドラフト・FR原稿作成
9	土	アビジャン	収集資料整理	ドラフト・FR原稿作成
10	日	ボングアヌ	ABJ→Bongouanou	Conseil Général打合せ
11	月	ボングアヌ	Kotobi集荷場・小売市場の視察、ANADER-Kotobi研修センター視察	Conseil Général de Bongouanouで会長と会談
12	火	ボングアヌ	M'Battoの女性キャッサバ加工販売グループおよび稲作組合（COODERIZ）からヒヤリング	Bongouanou→ABJ
13	水	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	今後の方針についてJICAで打合せ
14	木	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	ドラフト・FR原稿作成
15	金	アビジャン	ドラフト・FR原稿作成	民間企業NOVELから稲作分野への投資に関しヒヤリング
16	土	アビジャン	収集資料整理・第2次調査中間レビュー	
17	日	アビジャン	収集資料整理・第2次調査中間レビュー	
18	月	アビジャン	OLAM社（稲作に関するヒヤリング）	JICA事務所にてプログラム協力案の協議
19	火	アビジャン	CIC社（稲作に関するヒヤリング）	TV会議用資料作成
20	水	アビジャン	JICA事務所でTV会議、BFA（農業金融機関としての役割等ヒヤリング）	APSPD-CI（農業金融機関としての役割等ヒヤリング）
21	木	アビジャン	YANOVEL稲作責任者との面談、MINAGRI大臣官房訪問	BNETD訪問調査
22	金	アビジャン	ローカルコンサルタントと調査結果の検討	UNACOOPEC（農業金融機関ヒヤリング）
23	土	アビジャン	ローカルコンサルタントと調査結果の検討	JICA農村開発部出張者（中村職員）との打合せ
24	日	ヤムスクロ	ABJ→Yamoussoukou、PASEA関連施設見学、YAANOVEL種子圃場見学	Yamoussoukou→Bouake
25	月	ブアケ	Bouake市場内BVP視察、精米所視察	YamoussoukouのOCPV訪問、Yamoussoukou→ABJ
26	火	アビジャン	FENACOVICI精米所見学	資料整理
27	水	アビジャン	JICA事務所で打合せ	先方政府（農業省、商業省、ONDR）への調査結果発表・協議
28	木	アビジャン	ドナーへの調査結果発表・協議	JICA事務所、日本国大使館への報告、ABJ/22:40/AF703→
3/1	金		→PAR-CDG/05:55、PAR-CDG/11:00/AF282→	
2	土		→NHD/06:55	

面談者一覧

(敬称略)

(1) 日本の機関、団体、関係者

日本大使館

井上 進/特命全権大使

胡摩窪淳志/参事官

徳若正純/一等書記官

JICA コートジボワール事務所

畠山敬/所長

藤野浩次郎/Adjoint au Representante Resident

金子万里子/企画調査員

JICA 民間セクター調査団

小林邦康 (コンサルタント)

川原恵樹 (IDCJ)

西山あけみ (通訳)

(2) 「コ」国政府、関係機関本部

農業省計画局 (MINAGRI-DPPF)

Dr.Nouhoun COULIBALY/DG Planification, Contrôle des Projets et des Statistique

Dr.Soumaïla K.BREDOUMY/DG Productions et de la Sécurité Alimentaire

M.Comoe Bernard/Directeur, Contrôle des Projets et des Statistique

M.Kouakou Kan S./Chef Service, DPV

M.Kouassi N'guessan/SD DPCA

Mme.Karamo Mireille/Chef Service DC

M.Djile Adamo /CE,DPPF

Mme.Kouassi Sonia/CE DPPF

Melle.KOUASSI Jeannine/農業金融担当官

ONDR

M.Yacouba DEMBELE /DG ONDR、

ONDR 本部 APRAO (Amélioration de la Produntion du Riz en Afrique de l'Ouest)」事務局

M. GLOUNAHO DANIEL/プロジェクトコーディネーター

PASEA 事務所

M. Boua Becoin Lazar/PASEA

M.Yavo Abel/PASEA

商業・手工芸・中小企業振興省（商業省）大臣官房

M.Loba Mobio Marc/Directeur des organisations de commerce International et Regional,
DOCIR-MC

Mme.Coulibaly Jeannette/Directeur de l' Approvisionnement de la Distribution et de la
Consommation,DADC

M.Alexis Amichia/Directeur de Cabinet Adjoint

M.Ouloupohi Victor(Inspecteur de Inspection Générale)

M.Traore Mamadou(Directeur de DPME)

M.Kouadjo Edmond/CT-Matiers Premiers

M.Djacore Max-Bertin/Charge d' etude, Coordonnateur de DOCIR

Mme.Essi Aya Sabine epuse Kouakou/Chef de service des Manifestations commerciales

M.N' kon Minanou/ Directeur de DECC

M.Kouame Kouakou Narcisse/Charge d'etude, DOCIR

OCPV (Office d'aide a la Commercialisation des Produits Vivriers)

Kouable Noel/Conseiller technique (information des marches)

Mengagbeu Phillipe/ Conseiller technique (certificats de provenance)

Doue Thierry/SDOM, Boue Yode Coasiou/DAAF

Abakou Jules

Kakou Mah Aya

運輸省

M.Konate Lamine/Directeur Cabinet Adjoin

M.Abdouale Toure/Couseiller Technique(GR)

Teya Yao Pascal/ Couseiller Technique(Maritime)

Baffah Kone/Couseiller Technique(Trasnports)

国立統計局（INS）

M.KOUASSI Lucien/Chef de Département de la Démographie et des Statistiques Sociales

Dr.N' GORAN Kouassi/Chef de Département Statistiques et Synthèses Economiques

アビジャン港湾局(PAA :Port Autonome d'Abidjan)

M. SERY Drepoba Léandre/Directeur Commerce et du Marketing

M. Bile Koffi Jean/Chargé de Statistiques

M. VOHO Sahi Emmanuel/Assistant Directeur Commerce et du Marketing,

コートジボワール商工会議所(CCI-CI : Chambre de Commerce et d'Inductrie de Côte d'Ivoire)

Mme. Marie-Gabrielle Boka Varlet/Managing Director

M. Yao Kouakou Germain/Director of Studies and Economic Information

M. Desire K. Konan/Manager Business Development and Promotion of the Private Sector

M. Yai Alexandre/Chef Département Promotion, Mme. Dainhi Chatherine/Action Internationale

(3) 「コ」国政府、関係機関地方支部

農業省ヤムスクロ支所

M. Kouablan Dongo/Chef de Régional Coopérative

M.Zadi Richard/Directeur Adjoint

ONDR ヤムスクロ支所

M.Moussa Traore/Chef de Antenne,ONDR

OCPV ヤムスクロ支所

M. Ohoussan/Chef

農業省ブアケ支所

Mme.Bleou/Director of Collaboration Dept.

Conseil Général Bongouanou

M. Koua Brou Paul, President, Conseil Général Bongouanou

M. Kanga Koffi Arbert/Directeur Cabinet Développement, Conseil Général Bongouanou

農業省ボングアヌ支所

Mme. Koffi Adjoya Emma/ Directrisme de la Direction de Département-Bongouanou

OCPV-Kotobi

M. Agnero Lath/Responsable OCPV

M.Digbeh Abib Ismael/OCPV,

(4) 普及機関・研究機関・公社

農村開発支援公社 (ANADER) 本部

Dr.N'degbeu N'dri/Conseiller Spécial du DG

M.Yao Attoh Augustin/Directeur de DAFPVA

M.Nguessin Kakou

M.Ouile Ba/Conseiller Technique de DFC

M. Bassoumori Traore/Chargé de la filière de fruits-ANADER

M. Adjiri Eby/Coordonnateur National des Filières Hévéa et Palmier à huile-ANADER

ANADER ヤムスクロ支所

M.Koffi Kouakou/Chef de Zone Yamoussoukro, ANADER

ANADER - CFBM (Bingerville-Lame 研修センター)

M. Diomandé Lassina/Directeur de la Formation et de la Documentation(DFD)

M. Soro Bakary/Chef de Division Formation(CDF), DFD

M. Koffi Kouassi/Formateur

M. Kouiti Diomandé/Assistant CDF-DFD

M. Topé Kadjo Ivon/Chef de Division Documentation(CDD), DFD

Mme. Nangboto N'Guessan Lucio/Assistant CDD-DFD

M. Kouagbeu Oueli Alsen/Coordonnateur de Formation Pédagogique

Mme. Abby Carolle/Assistant CDF-DFD

ANADER-Centre de Formation- Kotobi (Kotobi 研修センター)

M. Kouadio N'Guessan/Directeur de Centre

国立農業研究センター (CNRA)

Dr.Nicodème A.ZAKRA/Directeur Général Adjoint

Dr.Martin KEHE/Conseiller du Directeur Général

Dr.N'guessan Sekou/Chargé impact-transfert de technologie

Fonds Interprofessionnel pour la Recherche et le Conseil Agricoles (FIRCA)

M.ATSIN Yao Léon/Directeur Exécutif Adjoint

Dr.TACLE Mamadou/Chargé de Programme Elevage et Pêche

Mme.Goulivao Audo Vivian/ Chargé de Programme culture vivrières

M.Ndiaye Oumar

BNETD

Mme. Kone Karidjatou/Director of Agri. Dept.

Mme. Kakou-Djety Anastasie

M. Mariko Drissa

(5) 業界団体

ARECA (Autorité de Régulation du Coton et de l'Anacarde)

M. Sanogo Malamine/Directeur Executif

OBAMCI (Organisation des producteurs-exportateurs, de Bananes, d'Ananas, de Mangues et autres fruits de Côte d'Ivoire)

M. ANO Jean/Secrétaire Général

M. Dolly Emmanuel/Ingénieur Agro-Economiste

CAPS (Cellule d'Appui au Programme Sucre)

M. YAO Kouassi Jean Claude /Secrétaire Exécutif

KOUASSI Sidoine Herve/Assistant Secrétaire Exécutif,

Conseil du Café-Cacao(CCC)

M. Yapo Assamoi Robert/ Director of Sustainability, Project and Perspective
Dr. Atta Brou Noel/Agricultural Economist & Technical Advisor
M. Kakou, M. Koffi/Directeur de Vent

AiPH (Association Interprofessionnelle de la filière Palmier à Huile)

M. BERTE Abdoulaye/Secrétaire Exécutif
M. LOUO Guy Marcel/Coordonnateur Pistes
M. BROUZRO Hermann/Responsable des opérations

APROMAC (Association des Professionnels du Caoutchouc Naturel de Côte d'Ivoire)

M. ATTOBRA Akpangni/Secrétaire Général d'APROMAC
M. KOFFI KONAN Albert/Secrétaire Exécutif de FDH
M. WADJAS Honest/Président d'APROCANCI

(6) ドナー・国際機関等

アフリカライスセンター ブアケ研究ステーション

Dr. AMADOU MOUSTAPHA BEYE/アビジャン事務所プロジェクトコーディネーター
M. JUSTIN BELEMKOUABGA・アビジャン事務所スーパーバイザー

GIZ

Mme. Andrea Wilhelmi-Somé/Programme Développement Economique en Milieu Rural
(PRODEMIR),Chargée de Programme

(8) 農家・農業協同組合

[全国組織]

ANARIZ-CI (Association Nationale des Rizculturs de Cote d'Ivoire)

M. Kouadio Tiacoh Thomas/President, N'gadi Etowa Jacqueline (resp.comptable),
M.Laurent A. Amani –Golly/ Conseller technique
Mme.Ossoue Else N'guessou (CODERIZ, Gagnoa)
M.Kouadio Yao Joan (CODERIZ, Toumodi)

ANOPACI (Association Nationale des Organisations Professionnelles Agricola de Cote d'Ivoire)

Amoikon Dihye/ Secetaire General
Ando Yao/ V.P, Dago Dadie/ Administeur
Oussou Gasbou/Directeur Executif (Coovafcci)
Aman Segire/ President (COJACI)

FENACOVICI (Federation National des Cooperative de Vivries Cote d'Ivoire)

M. Clotaire Allegra/managing Director

M. Goly Jean Louis/Production, M. Boti/Commercialization

[ヤムスクロ]

Union Coomatrice

Mme. Kondo Ahuyé Josephine

Mme. Don Adrienne

M. Kouadio N'Guessan

Mme. Kouadio Madeleine

Mme. Doré Dnamane

COPRORIZ

M. N'Dah Clément

M. Kouakou Yao Florent

Coopérative ENTENTE

Mme. N'Guessan Akissi Rose/組合長

M. Kyere Kouakou Joseph/技術サービス担当

M. N'Guessan N'goran Thomas Afeno/執行役員

M. Bonny Edi Thierry

M. Bonny N'Guessan Hanrie

M. Yao Mathios

M. Yao Kouakou Marcel

COPRORIZ-Yamoussoukro

M. N'dah Clement

M. Kouakou Yao Florent

Union COVIDY

M. Kouassi Benjamin

M. Dore Dramane

旧 PASEA プロジェクト・サイト

M. Kouakou Konan/ Djamarabo 組合長

M. Bodoko Ziqbi/Chef de Régional Coopérative

[グラン・ラウ]

M. Kra Alain/オイルパーム生産者

M. Kouadio N'Guessan Francis/ゴム生産者

M.Kouame Brou Jean-Louis/カカオ生産者

M.ILBOUD Koudtiga dit Joenmy/コーヒー生産者

[ンバト]

Mme. Kaku/M’Batto キャッサバ女性組合

M. Bende Yao/CODERIZ

M. Amakua/CODERIZ,

[コトビ]

Mme. Brou Yah/Producer, Mme. Brou Akoua/Producer

M. Bobochi/Transporter, M. Kouadio N’Guessan/Directeur de Centre,

[その他地域]

M. COULIBARY Souleyman/Sinématiali のマンゴー生産者 (COPROMASI 理事)

M. KOUAKOU Konan Raphaël/Directeur Général, Cajou de FASSOU (カシューナッツ生産者/
加工所 Cajou de FASSOU 社経営者)

M. Assemien KOFFI/コラ生産者、Sikensi 近隣 Gomon 村

M. Attioua Koffi/president- (FENACOVICI 傘下生産者組合)

Mr. Yao Koffi/Diretor- (FENACOVICI 傘下生産者組合)

(9) 精米業者

[ヤムスクロ]

M.N’guenan Konan/Gérant décortiqueuse, Zatta

M.Mangoua Koffi/Promoteur microrizerie

M.N’guessan Mourice/Mécanicien

M.Alvne N’gbani Yao/Machinist

M.Coulibaly Charls Kakpe/Moulin Kpoussoussou (ANARIZ-CI)

M.Koffi Kouamé Lucien/SG,CGA (Souzoulè), Koriakro

M.Konan Kouakou Guillaus/Responsable materiel, Koriakro

[FENACOVICI-Tiassale]

M. Aka Kodjane/Rep. Commercialization

M. Bouazo Touali/Mechanic

(10) NGO 等

Plate-Forme de Services (PFS) - M’Batto

M. Akun/PFS

M.Afian/PFS

BVP(Bureau de Vente de Productur)

M. Nguessan Alexis/Director
M. Egau Kakou/Resp. of Mobilization,
M. Yao Bekanti Bonespour/resp. information
M. Trabi Soli/Animatour

(11) 民間企業

NOVEL 社 (YAANOVEL)

M. Albert C. DIADHIOU, Directeur General
M. Denis Y. KOKO, Chef du Projet-YAANOVEL

OLAM 社

M. Bhuwan Saurav/Vice President, Head of Food Staples
M. Augustin Kouassi APETÉY/General Manager, Strategic Investments

CIC 社

Mme. Fortune TE/アビジョンマネージャー

(12) 金融機関

BFA (Banque pour Financement de l'Agriculture)

M. Yebouet Yao Barnabe/Directeur General Adjoint par Interim
M. Kouatelay Albert Junior/Directeur de l'Exploitation
Mme. Annette Bakouka/ Chef de Service Marketing & Communication
M. Miah/Agropastoral

UNACOOPEC

M. Kassoum Coulibaly / Directeur Commercial & Marketing
M. Alma/Directeur Regional

APFSD-CI

M. Coulibaly Kassoum /General par Interim
M. Kouassi
Mme. You

訪問メモ

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、■JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	JICA コートジボワール事務所で調査内容の意見交換		
日時	2012年11月6日(火) 16:30~17:30	場所	JICA 事務所会議室
主要参加 機関(者)	先方：畠山所長、藤野所員、金子企画調査員 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通		
配布資料	□無、■有（インセプションレポート和文2部、仏文9部）		
収集資料	■無、□有		

●概要：

参加者紹介後、小林総括が本調査の概要を説明。

1. 意見交換（Mは mission 側、Jは JICA-CI 側の意）

J—JICA 事務所は人員を強化している最中で、民間セクター支援の企画調査員（金子）が着任したばかり。農業は「コ」国では重要な産業なので関わりが深い。

M—アグリビジネスは「コ」国だけでなく西アフリカ域内流通として考えるべき。シアバターやオーガニックコットンは可能性がある。サヘルの乾燥地帯ではゴマやワタだろう。南部で主産品となっているヤム、食用バナナは北部周辺国（マリ、ブルキナファソ等）では生産できないが市場はある。従来の換金作物だけでなく、食用作物も立派な域内流通産品である。これらの作物についても域内流通（輸出）を前提とした増産が可能と思われる。

J—農業では生産物を流通させる機能が重要で、そのためには若干の付加価値が必要。流通範囲も「コ」国に限定する必要はない。

J—日本の支援として稲作はやる。だが、プラスアルファが必要。コメの支援も西アフリカの他国への波及効果を構想として持っている。

M—かつての PASEA にも西アフリカ広域支援構想はあったが実現しなかった。

J—来週には本部から鍋屋参事役が来訪し、稲作を中心に議論する予定である。稲作が G8 の New alliance、PNIA などの大きな枠組みの中でどの位置にあるのか、その他の協力枠組みとの関係でも稲作支援の立場に一貫性を持たせなければならない。この点についてミッションからのアイデアが欲しい。

2. その他

(1) 鍋屋参事役を交えて、14日午後または15日午前にヤムスクロで話し合いを持つ予定。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	■日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	日本大使館で調査内容の意見交換		
日時	2012年11月6日(火) 15:00~16:00	場所	日本大使館会議室 alpha 2000
主要参加 機関(者)	先方：胡摩窪淳志/参事官、徳若正純/一等書記官 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

参加者紹介後、小林総括が本調査の概要を説明。特に稲作振興支援の再開を考えていることから、灌漑整備（既存施設のリハビリ）や天水田整備が支援内容に含まれる可能性が高い事が説明された。

1. 意見交換（Mはmission側、Eは大使館側の意）

（1）ONDRについて

E-ONDRは昨年まで見返り資金を使ったコメ強化計画の窓口だったが、実施能力には疑問が残る。また、コメが流通網に乗った後は知らない様子だった。だが、コメに関しては流通への対応が重要。他機関がC/Pになる可能性は？

M-ONDRは前身のPNR（Projet National Riz）時代には2KRの受け入れ機関であり、活動内容が不透明との非難があった。コメの関税もPNRが決めていた（現在は商業省）。現在ONDRは流通には関わっていない。実際、日本が稲作プロジェクトを実施する際のC/PがANADER、ONDR、PASEA等のどれになるかは全く分からない。

E-ONDRは2KR見返り資金を利用して、近年では稲作評価と小規模取水口整備事業を実施している。KRもONDRが担当しているが、コメを民間市場に流すだけで戦略的展開がない。

（2）灌漑について

E-灌漑施設のリハビリ案件には現実性があるが、リハビリ後の水管理等で技術協力を実施することも重要である。

E-灌漑施設のリハビリについては、どんなポテンシャルがあるのか確認して欲しい。「コ」国は整備水田が少ないので、水や肥料の利用法の改善などでも変わるのではないかと。10年前のWFPのFood for Work手法は評価されているようである。WFPには日本の農水省が拠出していたので興味がある。

M-WFPとは10年前に一緒に仕事をした経験がある。この国では女性が熱心なので、プロジェクト規模が小さくとも住民を巻き込む形の案件があってもよい。こうした手法はJICAの得意分野でもある。

E-東アフリカでは日本の稲作協力が目立つ。

M-元々コメを主食としてこなかった国で稲作をすれば生産量も単収も飛躍的に伸びたように感じられることだろう。西アフリカ、とくにコ国にとってコメは食料安全保障上、最重要作物であるが、自給できていない。稲作支援の必要性は十分説明できる。

(3) 他ドナーの稲作支援

Eー他国ドナーの稲作支援の状況はどうか？

Mーいくつかあるが、基本的には水田整備などがメインで、技術移転ができるのは日本だけだ
と思う。

Eー中国の動向には注意する必要がある。いくつかの地域に稲作センターを作っている。

MーDTE という中国系の農業機械の輸入販売業者がおり、西アフリカ諸国でビジネスを行って
いる。会長は現在「コ」国に拠点を置いており、政治的にもかなり人脈が広いようである。

(4) その他主要作物

Mー他の作物については他ドナーとバッティングしない作物でポテンシャルの高い作物を探
る。ゴマやオーガニックコットンなどに可能性があるのではないか。シアバターも可能性は
あるが資源として枯渇してきている。

Eーコットンは UNIDO が興味を持っている。現在は 97%が原料で輸出されているので、加工
率を高めるための資金要請が日本にあった。

Eーモロッコの新種トウガラシの導入の例もある。日本への裨益を考えた場合、新しい作物を
導入する案はあるか？

Mー主要作物については、今回は既存資料の整理がメインになっている。

(5) プロジェクト候補地について

Eー現在の安全情報では、西部へのアクセスは困難。無理に危険な地域で実施するよりは、現
在アクセスが可能なアビジャン、ヤムスクロ、ブアケ等に資源を集中的に投入するのが適切
だろう（選択と集中）。方針をはっきりさせることはコ国政府にとってもありがたいこと
はなかろうか。安全面の関係で、協力案件の展開がアビジャン～ヤムスクロ～ブアケの幹線
道路に沿った地域に限られるのであれば、むしろ拠点を絞りやすいし、コ国側に説明するこ
とも容易になるともいえる。

Mー公的支援だけでなく、日本をマーケットとした新たな作物・加工品を見つけ出すことによ
り、将来的に日本の民間業者に裨益するような案件形成の可能性も視野に入れ、調査を実
施したい。

2. その他

(1) ミッションが再来する 2 月は地方選が予定されている。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	商業省官房でのヒヤリング		
日時	2012年11月7日(水) 11:00~12:00	場所	商業省会議室、Alfa2000 23F
主要参加 機関(者)	先方：M.Loba Mobio Marc/Directeur des organisations de commerce International et Regional, DOCIR-MC、Mme.Coulibaly Jeannette/Directeur de l'Approvisionnement de la Distribution et de la Consommation,DADC、M.Kouadjo Edmond/CT-Matiers Premiers、M.Djacore Max-Bertin/Charge d'etude、Mme.Essi Aya Sabine epuse Kouakou/Chef de service des Manifestations commerciales、M.N'kon Minanou/DECC、M.Kouame Kouakou Narcisse/Charge d'etude, DOCIR 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	□無、■有(インセプションレポート)		
収集資料	■無、□有		

●概要：

参加者紹介後に mission 側の興味あるテーマについてヒヤリングを実施。商業省側では官房長代理まで立てて mission に対応した。

(1) 先方からの質問 (mission の狙いは生産か? 商業化か?) に対し、日本の協力実績を前提とするなら稲作支援が主題といえるが、それだけのために派遣されたわけではなく、Filière (川上から川下まで包括する) としての情報収集調査である旨説明。

(2) コメについての質疑 (M は mission 側、C は商業省側の意)

M- コメについては国内消費量の 70%以上(100万t 輸入に対し、国内生産量は約 70万t) も輸入しているが輸出もしている。この矛盾する戦略を説明願いたい。

C- アビジャンの港に陸揚げされたコメは一旦コートジボワール (以下「コ国」とする) を通過してブルキナファソやマリといった内陸国に再輸出されるので、国内消費目的とは別のコメが取引される。

M- 国産米振興策は農業省と協調したものか?

C- 国内生産米の集出荷は非常に難しい。各地に小さな生産者組合が点在するのでシステムチックな国産米流通ができていないのが実情だが、コ国政府はまず国産米を増産し、国内自給を達成し、さらに余剰ができれば輸出に回すことを戦略としている。当然、農業省と商業省は協調している。

M- 輸入米関税は 10%で固定されているのか?

C- コ国は UEMOA 加盟国なので国際的基準に準拠しているが、2008年の世界的穀物危機以来輸入米価格は高騰し、落ち着いてきた現在も高価格を輸入業者は維持しようとしているので、関税は TVA18%を含めると 20%を超える関税率となっている。WTO からの勧告もあって強硬なことはできないが、国内生産者を勇気づける方策をとっている。

Mーコメ流通に関する商業省の介入はどの程度のものか？

Cー農産物取引は自由化されているので、極めて少ない。ただし、コメは市場に歓迎されている。我々は組織化された流通システム（*Filière organisation*）を必要としている。コメ生産者は有利な取引のために精米販売を望むが精米機を有する組合は少ないので多くの場合籾で出荷しているが、そのことが農家所得向上の足枷になっている。かつて SODERIZ があった時代は生産から流通まですべてのシステムが連環されていたが、現在は商業面にのみ見いだされる（生産と流通はつながっていない）。現在この実施面は ONDR が所管している。

なお、コメの価格コントロールは行っていない*。ただし、輸入米に関しては関税を通じた間接的な影響はある。

Mーコメ増産を促進するためには商品化および販売（*commercialisation*）が最も重要だが、市場へのアクセスが困難であることが増産の妨げになっている。流通を促進するためには現場における生産物の収集が必要だが、コメについてはこの分野の遅れが商品化を難しくしている。具体的には市場のインフラ整備が必要と考える。とくに女性を支援することで、生産物の保存・加工・輸送・販売までのチェーンを確立することが重要。

Cー流通・販売等の収穫後の行程に関して商業省として具体的な支援活動をしているわけではないが、何らかの支援が必要と考えている。アビジャン等大都市におけるコメ市場のほとんどすべてが輸入米に占められている現状は承知している。これは食糧安全保障上大きな問題といえるが、流通・販売は完全に自由化されているため、直ちにこの状況を改善することは難しい。

Mー生産現場では穀物倉庫も流通のトラックも必要とされている。これらのファシリティは民間か？商業省は介入していないのか？

Cーすべて民間セクターである。民間は如何に儲けるかに関心が強い。ファシリティに関しては、穀物とイモ類、とくに穀物は貯蔵施設を必要としている。

（3）その他

商業省側は JICA による協力を期待するところが大きいと思われたが、*mission* はコンサルタントなので一切コミットできないと断った上で、コ国の農業ポテンシャル（気候、土壌、水資源等）は高く、北部、中部、南部といった地域ごとに特徴ある農産物が生産されている。コ国 1 カ国としてではなく、西アフリカ域内に貢献する農業を JICA は意図している旨補足した。

* 南谷の調査結果と矛盾。最高小売価格の設定があるはず。

会議 種類	□関連省庁との協議、■他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	農業省計画局（DPPF）でのヒヤリング		
日時	2012年11月7日（水） 09：00～10：30	場所	農業省会議室 12F
主要参加 機関（者）	先方：M.Comoe Bernard/Directeur、M.Yavo Abel/PASEA、M.Kouakou Kan S./Chef Service,DPV、M.Kouassi N'guessan/SD,DPCA、Mme.Karamo Mireille/Chef Service,DCR、M.Djine Adamo/CE,DPPF、Mme.Kouassi Sonia/CE,DPPF 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	□無、■有（農産物生産・流通関連団体リスト）		
収集資料	□無、■有（農業統計データ）		

●概要：

参加者紹介後に mission 側の興味あるテーマについてヒヤリングを実施。計画局側では食用作物、換金作物の担当者を揃えてくれたので、それぞれの優先作物について照会。

- (1) 食用作物：穀物、イモ類、マメ類、野菜等対象。コメは年々増加傾向にあり、優先作物は食料安全保障の観点から消費量によって自ずと決まる。
- (2) 換金作物：換金作物といえどもコートジボワール（以下「コ国」とする）の優先課題は食料安全保障にあるので、コーヒーやカカオ、あるいはゴムやパームオイルを生産者は販売し、その販売益で食料を確保することを計算に入れている。
- (3) コーヒー・カカオは小規模生産者のための換金作物であり、ゴムやパームオイルといった Industry crops とは異なる（プランテーション栽培ではない）。
- (4) コーヒー・カカオは小規模生産者組合が直接流通業者（輸出）、あるいは加工業者（Neslé等）に販売し、利益を上げている。
- (5) 食用作物は自由化されているので補助金はないが種子は政府が責任を負っている。商取引に省庁が介入することはない。輸出の時のみ課税するぐらいである。課税率は商業省が決める。
- (6) 換金作物のうちコーヒー・カカオは自由化しており価格が変動するが、ゴムは固定価格がある。コーヒー・カカオの輸出税は CGFCC が決定する。
- (7) ワタは 2003 年～現在に至るまで EU からの補助を受けている。
- (8) 戦略文書が作成されているのはコメだけだが（SNDR）、他の作物についても戦略を持っており現在文書を作成中である。
- (9) 最も生産量の多い食用作物はヤムイモだが、消費量の伸びや輸入量を考慮するとコメが一番重要な作物といえる。
- (10) 種子・肥料・農薬等の流通・販売については、コメ以外は政府が直接関与することはない。基本的にプライベートセクターの活動に任せている。
- (11) Mission の用意した「農産物生産・流通関連団体リスト」には組合が混在している。農産物部門（filière）ごとに下記の通り整理し直した方がいいと指摘を受けた。

- ① Filière de riz→ANARIZ-CI(Association Nationale des Riziculteurs de Côte d'Ivoire)
- ② Filière de vivrière→OCPV(Office de la Commercialisation des Produits Vivrières)
- ③ Filière de hévéa→APROMAC(Association des Professionnels du Caoutchouc Naturel de Côte d'Ivoire)
- ④ Filière de Café-Cacao→CGFCC(Conseil du Café-Cacao)
- ⑤ Filière de Palmier à huile→AiPH(Association Interprofessionnelle de la filière Palmier à huile)
- ⑥ Filière de Coton-Anacarde→ARECA(Autorité de Régulation de la Filière Coton et Anacarde)
- ⑦ Filière de Cola-légumes→ANOPACI(Association Nationale des Organisations Professionnelles Agricoles de Côte d'Ivoire)
- ⑧ Filière d'Ananas, Bananes et Mangues→OCAB(Organisation Centrales des Producteurs-exportateurs d'Ananas, de Bananes et de Mangues)
- ⑨ Filière de Canne à sucre→SUCAF-Côte d'Ivoire

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	農村開発支援公社（ANADER）でのヒヤリング		
日時	2012年11月8日（木） 10：00～11：30	場所	ANADER-HQ, Zone 4
主要参加 機関（者）	先方：Dr.N'degbeu N'dri/Conseiller Spécial du DG、M.Yao Attoh Augustin/Directeur de DAFPVA、M.Nguessin Kakou、M.Ouile Ba/Conseiller Technique de DFC 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有（ANADERリーフレット）		

●概要：

参加者紹介後に mission 側の ANADER の現状等についてヒヤリングを実施。

1. ANADER の現状

- (1) 10年間に亘る国内紛争はあったが ANADER の位置づけ（独立採算制公益特殊法人）に変わりはない。
- (2) コートジボワール（以下「コ国」とする）政府は ANADER にとって最重要パートナーであり、ANADER の人件費は政府との契約（毎年更新）によって賄われている。ANADER の政府以外パートナーは民間セクターであったり、他のドナー国・機関であったりするが、小規模農業者へのサービス提供という公共性が認められているので国にからの契約による交付金がある。
- (3) ANADER は形式上民営化されており、株式による特殊法人（S.A; SOCIETE ANONYME）

となっているが、2012年度の予算は国庫からが75%（政府と事業協定することによる予算措置）、残り25%がドナーとの直接契約等によるプライベート活動となっている。

- (4) 紛争後 ANADER は組織改編し、政府も民間も望む *filière*（分野）ごとの普及支援体制（e.g. *filière de riz-maïs*, *filière de légumes*, *filière de Café-Cacao*, *filière de hévéa-palmier*）を整えるべく、DAFPVA（Direction de l'Appui aux Filières de Production Végétales et Animales：作物・家畜生産分野支援部）を新設した。
- (5) 従来は生産支援が主要業務であったが、近年では収穫後の保存、加工、商品化分野の強化が重要になってきており、また作物分野別の農民組織化支援にも力を入れている。ANADER も自らを改革しながら、農業を取り巻く環境変化に適応できるよう取り組んでいる。
- (6) 組織は6つの地域に DR（地方代表部）、57の *zone* に出先事務所に配属される普及員は全国に1100名いる。紛争前2500名前後はいた普及員は ANADER の経営方針から定年して職員が減少しても新規採用していないので半減した。

2. ANADER の政策

- (1) 2008年の食糧危機を受けて食料安全保障がコ国の最重要課題となり、ANADER の活動も同政策に準拠している。
- (2) 稲作に関しては ONDR と協調してパイロットサイトを設けて普及している。
- (3) 現在すべての農業生産にかかる支援活動は小規模農業者支援が中心であり、とくに食用作物（*vivrières*）では顕著である。
- (4) また、PNIA（Programme national d'investissement agricole）の方針に従い、ANADER でも明確に意図した支援活動が検討され、*filière* 単位で組織化されている現在の生産者組合に対応した支援チームを創設している（前述1.（3）参照）。
- (5) さらに SNDR（Stratégie Nationale de Développement de la Riziculture）の方針に従い、2018年までに国産米自給を達成し、さらに余剰があれば周辺国に輸出する戦略に沿った支援活動を展開している。

3. ANADER のチャレンジ

- (1) 農産物の商業化は十分進んでいない。ANADER でもバリューチェーンを支援する活動（作物貯蔵、農産物加工、商品化等）を行っている。
- (2) 世銀がイニシアティブをとる WAAPP（Programme de Productivité Agricole en Afrique de l'Ouest）の一環として、西アフリカ域内（15カ国）における農業研修拠点として CFMAG（グランラウ農業機械化訓練センター）の活用およびリハビリ案が浮上しており、ANADER もそれを望んでいる。WAAPP では各国が得意とする作物ごと（e.g. マリのイネ、コ国のバナナ等）に試験・研究・普及を行い、その成果・経験を域内で共有することとしているが、こと農業機械に関して一元的にできるのは CFMAG しかないというのが世銀の判断である。ただし、世銀だけでは予算が不足しているので他のドナーからの拠出が期待されている。

4. 質疑応答（M は mission 側、A は ANADER の意）

M-CFMAG では今も継続的に研修が行われているのか？

A-通年で決まった研修はない。カーギルのような多国籍企業からの委託研修といった外注研修を不定期に実施している。

M-CFMAG だけではなく、ANADER はいくつかの研修施設をもっていたが今も Fonction しているのか？

A-Gagnoa は Cafe-Cacao の専門研修センターとして機能しており、Bingerville、Koroville にも研修センターがある。

M-稲作研修の拠点 は PASEA が所管する Yamoussoukro の研修センターか？

A-内戦中、農業大臣が 6 回交替し、PASEA の Project Director ポストである官房長は 10 回交替している。官房長が異動となった場合、その後省内に残らないことが普通なので、プロジェクト業務の継続性という観点では問題が多い。Project Director ポストの再考が必要である。また、プロジェクトのサイトは Yamoussoukro なのに Project Director は MINAGRA 本省という、他のプロジェクトでは考えられない異常さであった。さらに現場には十分な予算が手当てされているとはいえないのに、月 60 万 CFA が大臣官房に支給されていたのは信じがたい(本当か?)。次期フェーズの稲作プロジェクトは Yamoussoukro より CFMAG の方がいいと考える。しかし、仮に PASEA が再開となった場合、ANADER から C/P を選出することは何ら問題がない。国家が職員給与を支給している以上、ANADER の人材は国家のものであり、JICA の技術協力の枠組み内で協働することは可能である。

M-ANADER の任務には小規模農業者支援があるが、独立採算となった現在、それは実際に可能なのか？

A-国から給与が支給されている以上、最低限の公共サービスは実施しなくてはならないが、業務費は支給されていない。業務費無しに事業は実施できない。他のドナーから請け負ったプロジェクト予算の運用でなんとか賄っているのが現状である。

M-人材減少といっても全国に未だ 1100 名の ADR (村落開発普及員) が存在する。これには TS (専門技術員)、CA (農業普及員) が含まれるのか？*

A-TS は zone 事務所配属で、1100 には含まれない。CA は含まれる。人数が減少し、移動手段も限られているので活動は厳しいが、農業者に営農技術、農業国家政策といった ANADER が発出されるメッセージを届ける重要な役割を担っている。

M-ANADER は現在いくつの外注プロジェクトを請け負っているのか？

A-GIZ から Cafe-Cacao、カシューナッツに関するプロジェクトを請け負っている。Gagnoa の Cafe-Cacao 研修はその 1 つ。その他 filière に特化した契約プロジェクト PRARP (Projet de Réhabilitation Agricole et Réduction de Pauvreté) を FIDA (国際農業開発基金)、UNDP、FAO から受注しているが、農業開発全体を包括するようなプロジェクトは無い。ANADER の活動は、WAAPP の一環としての食用作物支援 (culture vivrières)、ONDR との協調により稲作支援、PASA の食料安全保障と、すべてにおいて国家政策に結びついている。このほか、西アフリカ開発銀行 (BOAD) の資金で PAIA-ID、PURRAR-TGC などのプロジェクトを実施している。

*従来 C.A (Conseiller Technique) と称していた普及員は、現在では ADR (Animateurs de Développement Rural) と呼んでいる。これは従来生産支援を中心としていた普及活動が、組織化や商品化等多岐にわたるようになったためである。

5. その他

2009-2015年までのPND（国家開発計画）に合わせてANADERは2013-2015の短期計画を策定した。その中に国以外のドナープロジェクトもリスト化されているので、後日入手することとした。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	国立農業研究センター（CNRA）でのヒヤリング		
日時	2012年11月8日（木） 15：00～16：30	場所	CNRA 2F 会議室
主要参加 機関（者）	先方：Dr.Nicodème A.ZAKRA/Directeur Général Adjoint、Dr.Martin KEHE/Conseiller du Directeur Général、 Dr.N’guessan Sekou/Chargé impact-transfert de technologie 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/ 通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有（Le CNRA en 2011、Répertoire des Acquis de Recherche du CNRA-Tome1 & 2）		

●概要：

参加者紹介後、mission側よりCNRAの研究概要とfilière agricoleとの関連についてヒヤリングを実施。

1. CNRAの概要

- (1) 1998年にすべて農業関連研究機関を統合し、独立採算制の民間法人として発足。資本金の40%は政府が、残り60%はその他民間あるいはドナーから得ている（filières）。実際にCNRAのボードメンバー中8名は民間セクターから選出されている。
- (2) 研究テーマは生産者に届くものを選んでいく。農業生産者はあらゆる活動を行っており、研究は公共事業として国から、テーマ別プロジェクトごとにドナー資金を得て実施している。
- (3) 研究成果は利用者に指針を示すものである。
- (4) 研究の優先順位は資金提供者の要望に添っている。
- (5) 研究課題を農家レベルにつなげるのは非常に難しいので、センター内圃場試験と併せて農家圃場でも展示圃場試験を実施している。
- (6) 研究の実施においてはステークホルダー（政府、民間、ドナー等）とプラットフォームを形成して一緒に思索している。

2. 研究内容について

- (1) AfricaRice（WARDA/ADRAO）は国際機関なのでコートジボワール（以下「コ国」とす

- る)内に直接イネ種子を配布する、あるいは研究成果を発信することはない。彼らの研究成果は CNRA に提供され、CNRA を通じて農村社会に伝えられる。
- (2) 現在約 20 の研究プログラム(輸出作物 9、食用作物 6、畜産 2、農業環境システム 2、技術論および中央研究所 3)が実施されており、それはあらゆる農学面をカバーしている。
- (3) 農業生産の可能性に関する生態学研究ではブラジルの EMBRAPA(農牧研究公社)と共同研究を実施している。
- (4) 世銀がイニシアティブをとる WAAPP(Programme de Productivité Agricole en Afrique de l'Ouest)の一環として、食用バナナの研究についてコ国は責任を負っており、併せてキャッサバ、トウモロコシの種苗生産の依頼を受けている。
- (5) アグロインダストリーとの関連については、貯蔵・加工が重要なことは理解しているが、より多くの資機材を必要とする。マーケティングとも併せて CNRA では扱っていない研究テーマである。
- (6) イネ種子に関し、天水条件下では在来品種が多く、灌漑稲作において改良種子が利用されている。イネ種子のネットワークは ONDR が所管している。
- (7) CNRA ではカカオ、コーヒー、ワタ他あらゆる作物の種子を生産している。種子は無償ではなく販売している。

3. 質疑応答(Mは mission 側、Cは CNRA 側の意)

M-先に商業省を訪問した際、農産物流通では穀物とイモ類の貯蔵が大きな問題であると伺ったが、CNRA でも同じ見解か?

C-穀物よりヤム、バナナの貯蔵中ロスは 30%と大きな問題となっている。

M-先の内紛で多くの原種・原々種子が喪失したと聞く。ヤムスクロのイネ種子調整センターは機能しているか?

C-未だ再開していない。これは大きな問題である。アフリカライスセンターから種子の提供を受け(UNDP 出資)、内戦で喪失した原種・原原種再生産プロジェクトを実施中。

M-CNRA には検査室があるそうだが、農業投入財(肥料、農薬)の品質検査も行っているか?

C-現在コ国には化学肥料の品質基準がないため、品質検査は実施していない。近年、農薬に関しては認可規定を作成したため、検査対象となっている。

M-CNRA は発足以来独立経営とのことだが、政府から完全に離れたものなのか?

C-国の介入は 10%程度。

M-研究テーマを設定する際、裨益者ニーズは踏まえているか?

C-当然実施している。4年ごとに個々の filières(農業分野)の代表(SUCAF-CI,AIPH 等)と話し合い、研究内容を見直している。ユーザーとの契約ごとに絶えず要望を踏まえて実施している。

4. その他

(1) コーヒー・カカオは輸出作物として国際市場につぎ込まれている。トウモロコシ、ヤムは食用作物として西アフリカ域内に流通している。

(2) すべての filières(農業分野)は直接 CNRA に対して研究支援を要請するわけではない。

Filières は分担金を上納している FIRCA(Fonds Interprofessionnel pour la Recherche et le

Conseil Agricoles) に要請し、FIRCA を通じて CNRA に予算を含む研究支援事業が依頼される。現在、FIRCA を通じた filières 支援プロジェクトは 30 件ある。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	Fonds Interprofessionnel pour la Recherche et le Conseil Agricoles (FIRCA) でのヒヤリング		
日時	2012 年 11 月 9 日 (金) 10:00~11:30	場所	FIRCA 1F 会議室
主要参加 機関(者)	先方：M.ATSIN Yao Léon/Directeur Exécutif Adjoint、Dr.TACLE Mamadou/Chargé de Programme Elevage et Pêche、 M.Ndiaye Oumar、 Mme.Goulivao Audo Vivian/Chargé de Programme culture vivrières 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有 (FIRCA リーフレット、Rapport Annuel 2011)		

●概要：

参加者紹介後、mission 側より FIRCA の事業概要と filière agricole との関連についてヒヤリングを実施。

1. FIRCA の概要

- (1) 2001 年に策定された法律 (FDA: 農業開発基金法) により、農業関連分野への融資基金を扱う組織として 2003 年設立。
- (2) 職員 40 名、理事会の構成員には生産者も含まれ、会長は生産者代表が就任する。会長任期は 3 年で再任不可、理事任期は最大 6 年。人件費は予算の 5% まで。
- (3) 主な事業は①応用研究、②研修アドバイス、③農業専門組織の組織化支援。
- (4) 基金の原資は①各 filières (生産者や事業者) から分担金、②国庫補助、③EU、AFD、WB といったドナー機関からの資金供与。
- (5) 現在 20 以上の filières が特定されており、内 12 の filières から分担金を得ている。また、分担金は filières ごとに集荷・加工・販売等の段階で関係機関・業者における取扱量の記録を基に分担金額を算出し、徴収している。
- (6) 分担金は政府にその額を登録 (政府保証) している (e.g. filière Cafe-Cacao は 2006 年に締結、初年度は Cacao の取引量 kg あたり 8F、その後 5 ヶ年は 10F/kg)。分担金は月ごとに支払われる。
- (7) 1 つの filière から徴収した分担金は、同 filière に対して最低 75% を投資することが決められている。
- (8) Filières からの要請を受けて事業 (研究、研修等) 実施主体を公募、競争入札によって事業者を決め、受注した組織と発注した Filières と FIRCA は契約を締結し、その後 FIRCA から活動費が交付される。FIRCA ではすべての活動に対して 3 ヶ月ごとに評価を実施

し、各プロジェクトは6ヵ月ごとに進捗を報告する義務を負う。また、FIRCA が3ヵ月ごとに実施する事業評価は、民間コンサルタントに委託している。その後報告会を開催し、発注者 (filières) に進捗・成果を報告し、発注者に満足してもらって初めて契約額の精算が確定する。この時に書類不備、報告不備、発注者に満足してもらえなければ事業の途中であっても解約される (支払われない)。

- (9) コメをはじめとした食用作物の filières は、販売・流通のシステムが一括管理されていないため分担金の徴収が難しい。コメについては一度システムを整備したものの、2008年の食糧危機を受けて、政府により分担金徴収が停止された。現状では輸入業者から輸入米 kg あたり 3F を課税し、Filière de riz の育成に活用しているが、今後システムを整備し、filières を増やすことで生産者支援を強化したい。
- (10) また、バナナは生食用 (輸出用) にだけ、分担金徴収システムが整備されている (プランテンバナナは未整備)。
- (11) 現在、予算のおよそ 75% は filières からの分担金で賄っているが、将来的には 90% 以上にその割合を上げる予定。

2. 質疑応答 (M は mission 側、F は FIRCA 側の意)

M-FIRCA の哲学として優先される事業は①応用研究、②研修アドバイス、③農業専門組織の組織化支援の何れか？

F-決定権は Filières 側にある。彼らの望む事業が優先課題となる。

M-個々の小規模農業生産者が分担金を払うとは思えないが？

F-農家が個別に出荷・販売する culture vivrières は管理困難だが、流通、加工、正規市場を通る Filières では業者・関連団体 (CGFCC, AiPH, ARECA, OCAB 等) から徴収する。

M-WAAPP との関係は？

F-2008年の食糧危機を受けて西アフリカ域内で culture vivrières の試験・研究・成果共有が WAAPP の一環で実施されることになった。各国に対象作物が割り当てられ、コートジボワールは食用バナナの種子、生産、加工に関する試験・研究を担うこととなり、試験研究費の融資を FIRCA が担うこととなる。また、CFMAG は農業機械化訓練センターとして域内に貢献できるものと見なされており、とくに近隣国の稲作・農業機械訓練拠点として注目されている。

M-Filières 側から要望のある研修の内容は？

F-様々だが、最も多いのは①組織運営、②経理、③販売交渉である。実施主体・専門家のデータベースを FIRCA は持っており、専門家を探すのには苦勞していない。大体 3-5 団体の競争入札で実施主体が決まる。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	国立統計局（INS）でのヒヤリング		
日時	2012年11月9日（金）	場所	Tour C 2F INS本部
	15:20～15:30 15:50～16:30		Plateau Im. De l'Ind.,5F INS経済部
主要参加 機関（者）	先方：M.KOUASSI Lucien/Chef de Département de la Démographie et des Statistiques Sociales、Dr.N'GORAN Kouassi/Chef de Département Statistiques et Synthèses Economiques 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有 Indice Harmonise des Prix (8 octobre 2012)		

●概要：

INS本部のあるTour Cの2Fを訪問したが、農業統計は別の部署であると指摘を受けたので、Plateau Im. De l'Ind., 5FのINS経済部に移動。以下、INS経済部での聞き取り概要。

- (1) 農業統計調査の実際は農業省が担当しており、INSは統計データの整理・データベース化・資料化を実施している。現在2009年までの統計が整備されているが、12月末には2010年が作成される予定。INSの出版物（リスト含む）は全てINS本部で販売している。
- (2) 農業統計は畜産（水産を含む）と作物に大別。INSでは中央省庁の編纂した統計資料として発表。
- (3) 食用作物、輸出作物ともすべてのデータは農業省にあり、生産者価格も農業省が収集している。
- (4) INSのDépartement Statistiques et Synthèses Economiquesにはsous-direction（下部部局）としてService prix（価格課）があり、家計調査から消費者物価まで調査している。消費者物価はINSが調査員を毎日派遣してデータを取っている。
- (5) 統計調査手法はUEMOA統一規格によって実施されることになっているが、実際は現場の状況により様々な手法が用いられることもある。
- (6) 統計データは1996～2010まで揃っているので、必要な時期、課題を特定できれば詳細データの提供は可能であり、本部を通じて正式に要請(request)されれば無償提供も可能。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	MINAGRI ヤムスクロ支所		
日時	2012年11月12日(月) 14:30~15:00	場所	Direction Régionale de l'Agriculture、Yamoussoukro
主要参加 機関(者)	先方：M. Bodoko Ziqbi/Chef de Régional Coopérative、 M. ??????、 M.Yavo Abel/PASEA、 M.Djile Adamo/CE,DPPF、 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

冒頭、訪問の趣旨と現地調査協力要請したところ、正確な日程がわからないと協力のしようがないとの指摘を受けたので、翌日9時に改めて訪問し、滞在中(最初の1週間)についての予定と協力要請内容につき相談することとした。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	旧 JICA 技術協力プロジェクトサイト PASEA 事務所訪問		
日時	2012年11月12日(月) 12:10~12:30	場所	PASEA 事務所、Yamoussoukro
主要参加 機関(者)	先方：M.Yavo Abel/PASEA、 M.Djiré Adamo/CE,DPPF、 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/ 通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

プロジェクト終了後のセンター利用状況について確認。

- 事務所棟は想像以上に清掃されており、一部稲作生産者組合の集会場兼会長事務所として開放されていた。
- センターの正式名称は「CDRI (Centre de Développement de Riziculture Irriguée) 灌漑稲作開発センター」。
- プロジェクト予算によりセンターが建設された後、防犯のための外壁が ANADER により設置され、またセンター内の研修用机および椅子は農業省予算により購入されている。電気・水道の契約も継続されており、施設のメンテナンスや警備員の雇用等に必要となる経費

については現在でも農業省が負担している。

- PASEA 第1フェーズ時に、ヤムスクロのプロジェクトサイトで活躍した ANADER の C/P はすべて異動しており、ANADER は現在 PASEA の管理には全く関わっていない。
- 一方で農業省内に設置された PASEA 事務局は現在でも残されており、第1フェーズ時に日本人専門家の C/P であった2名が業務を継続している。技プロとしての活動は10年間停止していることから、実質的な業務はセンターのメンテナンス等に関わる予算確保等に限定されている中、JICAが活動を再開するまで現状を如何に保つかに腐心してきた様子が窺える。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	旧 PASEA プロジェクト・サイト訪問		
日時	2012年11月13日(火) 10:30~12:30	場所	Djamarabo・Seman および N'dakonankro
主要参加 機関(者)	先方：M.Kouakou Konan/ Djamarabo 組合長 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/ 通訳、M.Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント、M.Yavo Abel/PASEA (Mission 同行者)、M.Djile Adamo/CE,DPPF (Mission 同行者)		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

農業省からの Mission 同行者 (M.Yavo Abel) の案内で旧 PASEA プロジェクト・サイトを下記の通り訪問した。

1. Djamarabo・Seman

1) Djamarabo サイト位置：標高 196m、北緯 06°53.785'、西経 005°20.042'

2) 主要面談者：M.Kouakou Konan (Djamarabo 組合長) 他数名

3) ヒヤリング概要

○訪問した Djamarabo の水田 (22ha) は Seman と隣り合う村で、2つの村が1つのダムを水源として共有する灌漑稲作サイト。整備水田全体は 52ha。

○1977年、国家プロジェクトによりダム・水路・圃場が整備された。

○2001年、FED (ヨーロッパ開発基金) による PRC (中部稲作プロジェクト) で、水門・水路のリハビリが実施された。またこのプロジェクト活動の一部として、現場における栽培技術指導も実施されたが、研修を担当したのは CFMAG の元 C/P、その後の PASEA 事務局長となった Boua Becoin Lazar 氏 (農業省) であった。

○同サイトは PRC 以前から稲作を行っていたが、当時は直播 (semis à la volé) であったが、

上記 Boua 氏の指導を受けて育苗し、正条植え（*repiquage en ligne*）するようになり、現在も続けている。

- PRCにより耕うん機も導入されたが、賃貸料を徴収する計画であったため農民組織に利用料（機械更新費）をストックすることができず、機械の故障とともに機械耕うんサービスは停止した。
- 灌漑ゆえ年2作可能で、品種は WITA 9 のみ（高収量品種）。
- Djamarabo の生産者組合（グループマン）は稲作生産者組合の COPRORIZ に加盟している。
- Djamarabo の生産者組合員は 18 名、水利費は徴収していないが会費として作期ごとに 2 万 CFA/ha を徴収、水路のリハビリ等共通する支出にあてており、水路が壊れた場合も同様に徴収した会費で賄う。
- イネ種子（WITA 9）は ONDR から 450CFA/kg で購入。
- 投入財は NPK 化成 50kg×3 袋/ha（2 万 CFA/袋）、尿素 50kg×1 袋/ha（2 万 CFA/袋）。推奨される投入量は ha 当たり NPK 4 袋、尿素 4 袋で、投入できれば 9t/ha の収穫が可能とされるが、現在の平均単収はおよそ 3t/ha。
- 組合にとって最大の問題は収穫物の販路が無いこと。収穫物は主に仲買人（Dioula の女性）が買い付けに来るが非常に安い価格（100CFA/kg）で引き取られる。
- COPRORIZ の中には Commercial Section があり、農民と Abidjan のバイヤーとの中継をしてくれる。値段はグループ内の委員会（Comité du riz）で決定し、売値は籾で 150-200CFA/kg。実際には運送手段がないので、トラックで買い付けに来る仲買人の女性（Dioula 商人）に売ることが多い。
- ダムの上に 2 村の組合員が共同で使える倉庫があるが、これも遠いので使っていない。

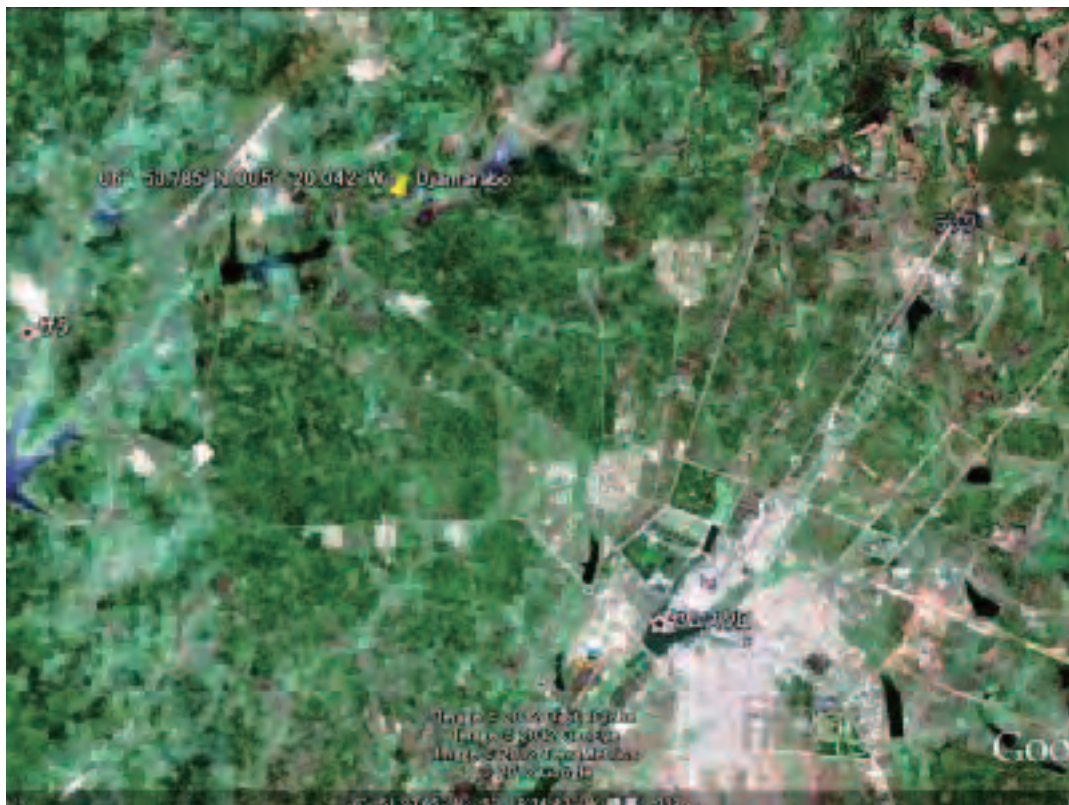


図1 Djamarabo サイト位置

2. N'dakonankro

1) サイト (ダム) 位置 : 標高 209m、北緯 06°45.956'、西経 005°12.554'

2) 主要面談者 : 無し

3) 概 要 : 時間の都合もあったダム堰堤上から水田を遠望。同地は前述した Djamarabo・Seman 同様 2つの村がダムを水源に共有する。



図 2 N'dakonankro ダムサイト位置

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	農業省ヤムスクロ支所に対する調査協力要請		
日時	2012年11月13日（火） 09：00～09：30	場所	Direction Régionale de l'Agriculture、Yamoussoukro
主要参加 機関（者）	先方：M. Kouablan Dongo/Chef de Régional Coopérative、 M.Zadi Richard/Directeur Adjoint、 M.Koffi Kouakou/Chef de Zone Yamoussoukro、 ANADER、 M.Yavo Abel/PASEA、 M.Djile Adamo/CE,DPPF、 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/		
配布資料	□無、■有（Programme Provisoire de la Mission JICA）		
収集資料	■無、□有		

●概要：

冒頭、昨日の議論を受けて団内で検討し、滞在中（最初の1週間）についての予定と協力要請内容につきまとめた資料を提示し、説明した。その中で、とくに14日（水）午後の精米業者、16日（金）の農産物卸業者・コメ取り扱い業者、生産者組合との面談・訪問に際し協力を要請。当初 Mission 側は生産者組合との面談を各地訪問の上で実施する予定であったが、稲作組合は1ヵ所に固まっているが、他の食用作物は分散しているので効率的な聞き取りは困難なので、16日は関連組合の代表にひとまず集まってもらって、個別相談は翌週以降サイト訪問・組合員からの聞き取り調査とすることでお互い了承した。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	イネ種子の現状と課題に関するヒヤリングおよびイネ種子調整センター視察		
日時	2012年11月13日(火)	場所	ONDR-Yamoussoukro支所 イネ種子調整センター
	14:30～15:15 15:30～16:30		
主要参加 機関(者)	先方：M.Moussa Traore/Chef de Antenne, ONDR 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/ 通訳、M.Yavo Abel/PASEA、M.Djire Adamo/CE, DPPF、M.Koffi Niamkey/ロー カルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

冒頭、訪問者紹介、訪問の趣旨を説明し、以下の通り協議した。

1. ONDRの扱うイネ種子について

- ONDRは国内にいくつかの種子調整センターを有しており、その内 Yamoussoukro は中部地域の拠点。
- AfricaRice (G1) や CNRA (G0) から入手した G0 あるいは G1 種子は ONDR で G1～2 に1次増殖し、その後 COPRORIZ (会長は M.Kakou N'guessan Paul) を通じて種子生産農家で増殖 (G2～3) し、ONDR が彼らから買い上げ、検査・国の認証後に一般の商品米生産者に有償配布される。
- 種子は契約によって栽培され、ONDR は少なくとも1作期6回は圃場検査を行っている。
- 種子は Yamoussoukro の灌漑稲作農家170名、計130haと契約して行い、農家は COPRORIZ の会員でもある。
- 契約農家が生産した種子の ONDR 買い取り価格は 250FCFA/kg。
- 現在は Yamoussoukro にしか種子調整センターを含む種子生産拠点が無いが、来年以降は国内6カ所に増設(再開含む)する予定。
- Yamoussoukro ではイネ生産者からの要望が高い品種として WITA 9 (高収量品種) のみ生産している。
- ONDR はイネ種子を一般の商品米生産者や NGO に有償配布している。頒布価格は一般が 600CFA/kg、COPRORIZ 会員は 450CFA/kg。一般は現金で購入し、会員は収穫後のコメで支払う。
- ONDR が推奨する播種量は 40kg/ha だが、多くの農家は 20kg/ha と少ない。
- 農家は食用の生産を優先させるので、種子栽培には積極的でない(種子生産圃場が足りない原因)。このため、ONDR では新たな種子生産圃場の開発も計画中。

2. 農業生産資材について

- ONDR ではクレジットで生産者に種子、肥料、農薬を提供している。

- ランニングコストを確保するため生産者組合ごとに投入財口座（何処に？）を設けさせている。
- 中国製の耕運機は大きく、重く、使い難く、品質も悪いので耐久性がない。日本製の機械と比較して性能は大きく劣るが、現在は 2KR もストップしており、中国製以外に選択肢がない。

3. イネ種子生産を含む稲作振興の問題点

- 内紛以降、栽培面積が減少したため、生産量が少ない。
- 上記の関連で、栽培面積を拡大（復旧）するには休耕田のリハビリが必要。
- 日本からの 2KR 援助が止まって、既に導入された農業機械の交換部品が入手困難。
- 2009 年に 2KR の見返り資金を活用して中国製耕うん機が 55 台供与されたが、すべて故障し使い物にならない状態となった（スペアパーツの入手が困難）。
- Yamoussoukro の生産者組合は精米機を持っていないので、生産物を有利な価格で販売することができない。
- 生産を復活させるためには小規模な精米業者（microrizeries）の起業を助ける必要がある。Yamoussoukro 市内でまとまったキャパシティを持つ小規模精米業者は 2 ヶ所。あとは零細精米業者。

4. イネ種子調整センター

- 同センターは 2KR 資材倉庫も兼ねていたもので、肥料・農薬・農業機械のストックがある。
- 次期作用に調達された肥料は NPK S Mgo（12-24-18+4S+3Mgo）のイネ用複合化成。
- 農家から入手した種子は水分量 12%で保存するが、だいたいそれより高いので、ビニールシートを外に広げてセンター内で再乾燥させる。乾燥機（2t/日）もあるがそれでは賄いきれない（乾燥機は故障中）。
- 低温貯蔵庫は 5t 収納可能で、3 年は保存できる。
- 種子選別機（日本製）は 5 段階に選別可能。
- 発芽率試験は ONDR 自身で行っている（Lab 検査があると説明を受けたが、それは何処に？）。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	精米業者からの ONDR 聞き取りミーティング同席		
日時	2012年11月14日(水) 09:30～11:30	場所	ONDR-Yamoussoukro 支所
主要参加 機関(者)	先方：M.Moussa Traoré/Chef de Antenne, ONDR、Mme.Bamba Ma/Consultante, ONDR、M.N'guenan Konan/Gérant décortiqueuse, Zatta、M.Mangoua Koffi/Promoteur microrizerie、M.N'guessan Mourice/Mécanicien、M.Alvne N'gbani Yao/Machinist、M.Coulibaly Charls Kakpe/Moulin Kpoussoussou (ANARIZ-CI)、M.Koffi Kouamé Lucien/SG, CGA (Souzoulè), Koriakro、M.Konan Kouakou Guillaus/Responsable materiel, Koriakro 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M.Djiré Adamo/CE, DPPF		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

ONDR 本部が Yamoussoukro に派遣したコンサルタント調査員 (Mme.Bamba Ma) が実施する精米業者からの聞き取りミーティングにオブザーバー参加。本調査対象となり得る業者を同ミーティングで同席し、後日訪問、詳細聞き取りを実施すべく同席した。

1. ミーティングから得た主な情報は以下の通り。

- 参加した精米業者はいずれも小規模 (Yamoussoukro に大規模業者はいない)。
- 所有する精米機は中国製 (2 軒)、日本製クボタ (2 軒)、イタリア製 (1 軒)。
- 中国製を所有する 1 軒 (Zatta) は Yamoussoukro から Bouaflé に向かって 10km ほどのところに位置する。国レベルに登録している精米屋。精米機は 600kg/h の小さなもので、異物・粒形選別機能は無い。精米するコメは作期ごとに入荷する。買取価格は 150-200CFA/kg。作期ごとに 40t 程度仕入れる。買取は個別の農家や組合から。かつてはクレジットで肥料を提供し、買取契約を結ぼうとしたが、農家が別の商人に売ってしまう事が多かったため契約は止めた。貯蔵庫がないので精米後はすぐに出荷。主な出荷先は Abidjan、注文に合わせて 10t から 50t 出荷する。精米価格は 30CFA/kg。コメの輸送手段は距離によって異なり、近ければ耕うん機の荷台で、遠ければトラックで運ぶ。輸送料は量に関係なく 5000 CFA/回。Abijan への運送料は 500CFA/50kg 袋。卸価格は 350CFA/kg、小売価格は 400CFA/kg。主な問題点は交換部品の入手と籾の乾燥状態。よく乾燥していないと精米機にかけられない。状態のいいコメを 100kg 精米した場合、80kg の白米が得られる (歩留まりが高すぎる。粉や小砕米も含んでいるか)。糠は 30CFA/kg で畜産業者 (養豚、養鶏、牛飼い) に売る。
- 日本製クボタを所有する 1 軒 (Yamoussoukro 市内北側) は自分自身で稲作を行っている生産者でもある。Yamoussoukro 周辺では 1 品種 (WITA 9) しか作られていないが、本人は食味のいい Akadi にこだわり、自分の出身地から 150km もかけて集荷・精米する。コメの量が

足りない。農家に準備金を渡して生産量を増やしたいが資金がない。品種によって取引価格は異なり、WAB、WITA 9は 350CFA/kg だが、Akadi は 400CFA/kg。内紛前多くの地域で主品種とされていた Bouaké189 は混じりが多く、品種保証できないので取り扱わないという。コメに異物が多いのも問題で、精米機故障の原因なる。やはり交換部品の入手と籾の乾燥状態は問題のようで、部品はなければ Yamoussoukro 市内の鉄工所や野鍛冶に作成を依頼するが高つつくようだ。

- 中国製を所有するもう 1 軒 (Kpoussoussou、Yamoussoukro 市街の南) は ANARIZ-CI の Tiaco 会長が開設した精米所。精米所から市場 (Abidjan) までの輸送手段はトラックで、往復 5 万 CFA かかる。開設以来、十分なコメが入手できない。せいぜい 1 日に 4-5t 精米できればいい方で、入荷する日も少ない。戦乱によって栽培面積が激減したことと、生産者が精米所までコメを持ってこない (生産地に足を運んで籾で買い上げる女性の Dioula 商人の存在、彼女たちはパーボイルライス加工のために籾で買う)。灌漑できる地域でも圃場準備のための資金がなく精算できていない。
- イタリア製精米機を所有する 1 軒 (Koriakro) は Yamoussoukro から Bouaké に向かって 25km ほどのところに位置する。精米機の能力は 1t/日。精米料金は 25CFA/kg。市場は主に Yamoussoukro。資金不足から品種も量もこだわれない。SOUZOLE という稲作組合がある。

2. その他

- Mission 側は精米業者の取引を含む業態に関心があり、是非直接訪問して話を聞きたいが、来週の予定が未定なので、後日 TEL にて直接調整したい旨説明し、一同に賛同を得た。
- ミーティング閉会后、DRA の M.Dongo から参加者に TEL が入り、同ミーティング参加者 2 軒 (Yamoussoukro および Kpoussoussou) と午後訪問聞き取りすることとなった。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	精米所見学 2 軒		
日時	2012 年 11 月 14 日 (水) 14:30-16:30	場所	Yamoussoukro 市内 2 ヲ所
主要参加 機関(者)	先方：(1 軒目) M.Mangoua Koffi/Promoteur microrizerie、M.Alvne N'gbani Yao/Machinist (2 軒目) M.Coulibaly Charls Kakpe/Moulin Kpoussoussou (ANARIZ-CI)、 同行：M.Zadi Richard/Directeur Adjoint、M. Kouablan Dongo/Chef de Régional Coopérative、M.Yavo Abel/PASEA、M.Djiré Adamo/CE,DPPF 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/ 通訳、Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント、鍋屋参事役 (JICA 本部)、 藤野所員 (JICA-CI 所員)		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概 要：

Direction Régionale de l'Agriculture-Yamoussoukro のアレンジで市内の精米所を 2 軒見学した。Yamoussoukro には小規模精米業者しかいないが、見学した 2 軒は其中でも大きい方であるとのこと。見学した 2 軒とも同日午前中の ONDR でのミーティングに参加していた。

1. M.Mangoua Koffi 氏の精米所 (Yamoussoukro 市内北側)

2KR で供与された日本製電動精米機 (クボタ) を所有 (1986 年製)。選別機はない。Koffi 氏が前経営者から 2002 年に買い取った。機械技師とアシスタントの 2 名を雇用している。精米所経営は個人で行っているが、コメ生産者として稲作組合 CORA のメンバーでもある。Koffi 氏は ONDR の前身 PNR で働いていた。個人所有のピックアップ・トラックで集荷している (1t 積載可能)。精米所は舗装道路から 20m ほどダートを入ったところに位置する。道は広い。

精米機の能力は不明だが、19 馬力で、籾の状態が良ければ 700kg/時精米できる。精米料金は 30CFA/kg。歩留まりはコメの品質、含水率、品種で異なるが、状態の良いものを 100kg 精米すると 71kg の白米が得られる。コメの水分量が多いと粉になる。糠は畜産業者 (牛飼いや養鶏) に 25CFA/kg で販売する。

コメの収穫期に当たる 7 月と 12 月が精米のピークで、これ以外の時期は少ない。灌漑・天水等複数の稲作形態があるため、精米機は通年稼働している。年間精米量は 2009 年 76t、2010 年 68t、2011 年 74t。コメ不足を補うため、自分で集荷 (Yamoussoukro 東部の Bocanda, Bongouanou, Daoukro, Ouéllé, Mbatto, Tie-Ndiékro, Mbahiakro 等) もしている。

精米後、完全米と碎米の選別はしていない (一般的に消費者は碎米の混入を気にしない)。

精米機の純正部品が手に入らないため、ヤムスクロにある INP (Institut National Polytechnique: 国家理工学院) に部品の製作を依頼することもあるが、非常に高価になるため、消耗部品等は一度に複数発注して単価を下げるようにしている。また市内の鍛冶屋に作らせる

こともあるが、製作精度が低く耐久性がない。中国製の部品は非常に品質が悪い。

経営上の問題は①スペアパーツがない、②スペアパーツが手に入っても高い、③籾の状態が良くない（とくに含水率が高い）、④資金を借りる手段がない、⑤肥料の投入が少なく生産量が少ない、⑥コメを運ぶ手段がない。③に関しては農家に品質改善の指導をしたいが資金がない。⑤に関してはクレジットで買う手段もあるが、3000CFAの肥料がクレジットだと3500CFAになり割高。⑥に関しては、Daloaのようにコメが余っているのに運搬できない場所もある。こうした問題点は25年前から変わらず、政策的な後押しが必要。

個人的には国産米の方が美味しく（とくにAKADI*）国産米しか食べないが、輸入米は品質（とくに異物の混入率が低く、炊きあがりの膨張率が高く、香りもある）に点で優れている。

コートジボワール、とくにYamoussoukro周辺は①稲作研究が進んでいる、②機械のオペレーター、保守管理者がいる、③Bas-fonds（低湿地）がある、などのアドバンテージを有しているのに残念ながら政策の問題で活用されていない。



精米所外観



精米機



精米機

2. ANARIZ-CI 会長 Tiaco 氏所有の精米所（Kpoussoussou プスス村、Yamoussoukro 市街の南）

2009年設立。中国製の電動精米機を所有。精米機はアビジャンのYITWO（中国系農業機械販売店）で購入。ふるい式の選別機（3分類）あり。規模からして中規模といってもよいレベル。精米機的能力は550-850kg/時。交換部品はAbidjanで容易に入手できる。精米所は幹線舗装道路のすぐ脇に位置する。

コメの集荷に苦勞している。内戦の影響でコメ生産量が減り、現在も回復していない。コメが集まらず、今年の4月から11月の間に70tしか精米できていない。農家にはコメを精米所まで運ぶ手段がなく、パーボイル米を作るDioula（ジュラ）の女性商人が買付けに来ると売ってしまう。Yamoussoukroの国産米の需要は十分あるのに供給ができていない。最近小型の精米機を購入し、村に運んで精米している。

経営上の問題点は①投入財が高く生産が伸びない、②灌漑施設があっても投入財（肥料・農薬・耕うん機等農業機械）が不足して栽培面積が減少し（e.g.Toumodiでは灌漑面積の60%でしか栽培されていないという）、③精米業に対する政府の支援が全くないこと。

輸入米は削りすぎているせいか色が白すぎるが、それが良いと思っている消費者もいる。対

* 水稻品種ではなく、従来から陸稲同然の天水条件下で栽培されているため収量が少ない。

して国産米は色がやや茶色く、混入物も多い。だが、国内米は食味の面で輸入米に対する競争力はある。またビタミンも豊富である（間違った認識と思われる）。碎米の混入は問題とはならない。

AKADI は鳥害にあいやすい。NERICA はプロジェクトが入った時だけ栽培していた。



精米所外観



精米機



選別機

3. その他

共通する問題点は、①輸送手段がなくコメの集荷ができない、②生産量が足りないことで、資金不足、運搬手段の不足、保管施設の不足、公的サポートの不在などが広くからんでいる。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、■その他		
件名	旧無償資金協力プロジェクトサイト「中北部地域灌漑農業整備計画」訪問		
日時	2012年11月15(木) 10:00~13:00	場所	Lokakpli (Bouaké 北方約 15km)
主要参加 機関(者)	先方: M.Djilé Adama/CE,DPPF、 当方: 小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、大谷華子/農産物流通		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(現場画像データ)		

●概要:

本案件は、わが国と「コ」国の間で初めて実現した農業基盤整備関連の無償資金協力プロジェクトである。サイトはブアケ市の北約 15km に位置するロカプリ川というワジ(涸れ川)沿いの谷地田であり、これまでロカプリ川からの直接取水による約 30ha の灌漑稲作と約 40ha の天水稲作が行われてきたが、雨季の洪水を防止するとともに、安定したイネ収量を実現するためロカプリ川上流に小規模ダムを新設し、その下流水田 126ha の圃場整備(用排水路整備、農道整備)が実施され、1999年に「コ」国に引き渡された。

当サイトは現在渡航禁止区域に位置することから、調査団による視察が叶わなかったため、農業省職員に視察を依頼し、その後聞き取り調査を実施した。収集した情報を以下に記す。

1. 現在の状況

- 現在の作付面積は約 100ha、ダムの水量も十分であるため二期作を実施している。
- 稲作農民数は Yobékro 在住の 65 人、農民組織は当初設立されたものの、現在の活動はほとんどなし。
- 作付け品種はほぼ全員が WITA 9、平均収量は約 3t/ha であるが、肥料を追加投入した場合で約 5t/ha（一部 WITA 9 以外の品種を栽培している農家もいるが詳細は不明）。
- ブアケ市内の農業用資材販売業者が当サイトの農民個人と契約（口約束）を交わし、肥料・除草剤のクレジット販売を実施している。収穫後に肥料価格相当分を粃で返却するというシステムであり、大多数の農民が利用しているが、肥料価格は NPK、尿素とも 2 万 5000FCFA/袋（50kg）と相場より数十パーセント高い上に、業者の粃買い取り価格も 100～150FCFA/kg に抑えられており、精米機を持たない農民にとって、不利な販売条件での取引となっている。なお、クレジットを粃で精算することから、同生産物の出荷先も同じ業者となっている。

2. 生産拡大に対する阻害要因

- 普及サービスが不在である。ANADER 普及員の訪問も全く無いことから、栽培や水管理において、技術指導を受けられる機会がない。
- 100ha というまとまった面積を有する灌漑圃場でありながら、全く機械化が進展していない。ブアケの賃耕業者に耕耘を依頼した場合、経費は 8 万 FCFA/ha+燃料費となる。高額な賃耕費を嫌い、多くの農民が手作業で耕耘している。
- 品質保証種子が入手できないことから、10 年間自家採取（生産物の一部を種子用に確保）を繰り返している。このため種子の純度が低下し、単収の低下が見られるようになった。
- 農民組織が機能していないこともあり、水路の清掃も行き届かず、灌漑水管理に支障を来している。ダム湖の水量は十分にあるものの、グループごとで灌漑水管理を行うブロック灌漑システムもうまく機能せず、農民間のトラブルが発生している。





【写真2】

ダム湖は満水で、余水吐から溢れた水が農道にまで達している。



【写真3】

農民組織活動は軌道に乗っておらず、水路も適切に管理されていない。



【写真4】

機械が導入されていないため、耕耘、脱穀等はすべて手作業となる。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	稲作分野にかかる協力の方向性検討のための農業省との協議		
日時	2012年11月16日（金） 14：00～16：00	場所	農業省会議室 8F
主要参加 機関（者）	先方： <u>Dr.Nouhoun COULIBALY</u> /DG Planification, Contrôle des Projets et des Statistique、 <u>Dr.Soumaïla K.BREDOUMY</u> /DG Productions et de la Sécurité Alimentaire、 <u>M.Yacouba DEMBELE</u> /DG ONDR、 <u>M.Comoe Bernard</u> /Directeur Planification, Contrôle des Projets et des Statistique, 当方：徳若一等書記官・SANOGO 館員（日本大使館）、鍋屋参事役（農村開発部） 畠山所長・藤野所員・EDI所員（JICA事務所）、南谷貴史（調査団）		
配布資料	□無、■有（協議プログラム）		
収集資料	■無、□有		

●概要：

参加者紹介後に議長である企画局総局長、徳若一等書記官および鍋屋参事役からの挨拶があり、以下の議題について協議が行われた。

（7）国内米振興のための「コ」国側の優先ニーズと日本に期待する協力について

「コ」国側から提示された項目を以下に記す。

① 種子生産の強化

品質保証種子にアクセスできる自給米・商品米生産農家が少ないことが、生産増大の規制要因となっている。現在ヤムスクロにしかない種子調製センターを全国に設立したい。

② 灌漑圃場のリハビリ

中部・中北部を中心として灌漑施設の整備された稲作圃場が多く存在するが、内戦の影響もあり放棄された圃場も多く、栽培面積の減少を招いている。これらをリハビリすることにより稲作振興を加速させたい。

③ 流通部門への支援強化

農家所得を確保するためには生産面の支援だけでなく、流通部門（加工・商品化）への協力が不可欠である。

④ 生産者のトレーニング

農民が栽培技術の研修を受けられる機会は極めて限られている。この点では農民への直接的な研修を主要活動とする PASEA への期待は大きく、早期の再開を希望する。

⑤ 農業生産用機材の供給

2KR が中断されたことにより日本製農業機械の供給が止まり、稲作部門の機械化が停滞している。中国製機械が販売されているが性能面では大きく劣っており、2KR の再開を期待する。

(1) 「コ」国の国産米振興における阻害要因（ボトルネック）について

以下の項目について調査団の南谷から問題提起を行い、これに対する「コ」国側からの回答を記す。

- ① 種子生産の強化は非常に重要であり、早急に取り組むべき課題と考える。全国に6カ所の種子調製センターを設立する計画の進捗状況はどうか？

「コ」国側回答：

現在、「BID（イスラム開発銀行）」が本計画に協力意志を示しており、次週に協議の場が設けられている。詳細はまだ決定されていないが、種子センター建設費用として50億FCFAの融資（有償）が受けられることを期待している。

- ② 灌漑稲作は作付けを始めるに当たり、種子・肥料・耕うんのための雇用労働費等の支出が必要になる。これら作付け準備金が調達できないことにより、保有する耕地の全面積で耕作できない小規模農家が多く存在している。ヤムスクロ周辺では、灌漑施設を伴う圃場に入植している比較的恵まれた条件下の稲作農民ですら、耕地利用率は低い状況にあり、改善を要する。こうした小規模農家に対する支援策をどう考えるか？

「コ」国側回答：

ヤムスクロは古くから稲作が盛んな地域でもあり、現在までに援助が集中してきたという経緯がある。このため一部の農民は肥料等農業資材を無償提供された経験もあることから、自助努力が失われている面がある。2KR・KR見返り資金を利用したプロジェクトにより農民組織において肥料を確保し、生産者にクレジットで提供、収穫後に生産物で返済するという活動を始めていたが、これも内戦で機能しなくなっている。こうした活動を復活させることで、農民自らが増産できる余地は十分にある。

- ③ 現在アビジャンのコメ市場はほぼすべてが輸入米で占められており、国内米産地からの流通経路も絶たれていると考えられる。こうした状況のなか、仮に国内生産量が増加した場合、国内米はアビジャンの市場に流通するのか？

「コ」国側回答：

「コ」国人は基本的に国内米が好きである。国内米が輸入米と同価格なら当然国内米、また少し高くても国内米を選ぶだろう。輸入米で販売量が多いのは碎米混入率の多い安いコメであり、炊飯後の膨張率も高いことから特に家族人数の多い庶民に対して人気があるが、国内米はその食味から消費者に支持されている。数十年前までは国内米しか流通していなかったわけであり、国民は国内米の味を覚えており、市場に流通すれば輸入米との競争力は十分にある。

コメ品質は輸入米では碎米混入率が基準となるが、「コ」国では完全米に碎米が混入することは普通であり、国民はこれに慣れている。碎米を選別することと同時に、消費者に対して品質基準を周知させることも必要である。

生産地からアビジャンへのコメ流通経路が絶たれているのは大きな問題であり、これを再構築することが必要である。

- ④ 商業省は輸入米の上限価格を設定しているが、これは国内米振興戦略（NRDS）に対して整合性のとれた政策とはいえない。商業省とは政策のすりあわせをしているのか？

「コ」国側回答：

NRDSは農業省（ONDR）が策定したが、政府として承認されているものであり全省庁

がこの戦略を理解していると考えて良い。一方で各省庁は管轄する分野において独自の政策を実施しており、省庁間で完全に協調体制がとれていない部分があることも事実である。国内米振興の必要性についての認識は一致しており、各省庁ともこの戦略に対しては協力姿勢にある。

【その他、農業省側から提示された特記事項】

*「コ」国の人件費は東南アジア諸国に対しても高いことから、国内米の生産費も少なくはないため、輸入米に対する価格競争力では不利な面がある。この意味においては、輸入米の関税政策も考慮される余地があるだろう。

*PASEA を再開するに当たっては生産支援だけでなく、現在重要視される加工分野についての協力もお願いしたい。また、稲作農民は同時に他作物も栽培していることから、野菜およびその他穀物の栽培指導も併せて実施することが望まれる。栽培技術の研修は生産者を対象とするだけでなく、学生にも実施することでアカデミックなものとするのが理想である。PASEA の活動は若者の就農支援にも貢献できるのではないか。当初の計画を「リフォーム」して再開させたい。

会議 種類	<input type="checkbox"/> 関連省庁との協議、 <input type="checkbox"/> 他ドナー協議、 <input type="checkbox"/> 民間団体・NGO 等との協議		
	<input type="checkbox"/> 日本大使館との打合せ、 <input type="checkbox"/> JICA 関係者との打合せ、 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
件名	パーボイル米業者の視察（ジュラ商人）と零細精米所の見学		
日時	2012年11月16日（金） 11：00-11：45	場所	Yamoussoukro 市街のはずれ（西側？）
主要参加 機関（者）	小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M. Koffi Niamkey/ ローカルコンサルタント		
配布資料	<input checked="" type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		
収集資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input checked="" type="checkbox"/> 有		

●概要：

パーボイル米を生産する Dioula（ジュラ）商人の工場およびパーボイラーが利用している精米屋の視察。ヤムスクロ市街のはずれにパーボイルド米製造業者や精米業者（いずれも零細規模）が固まっている地区があり、舗装道路のあらゆる場所で蒸した米を乾燥させている光景が見られた。作業はほとんど女性が行っている。

1. パーボイル米製造業者

Dioula の女性が家族経営している。人が足りないときは雇う事もある。パーボイル米製造は母親から引き継いだ。ドラム缶に籾殻を詰めた改良かまどで蒸し上げる。2回蒸すので製造に2日かかる。タンクはコンクリート製の2槽式（高さ1.5m*幅3m*奥1.5m）で、1槽の容量は籾500kg。

仕入はバシリク教会の向こうやブアケまで行く。運送はトラックを雇い、運賃は300CFA/100kg袋。仕入値は175CFA/kg。携帯電話で農家と連絡を取る。1回あたりの仕入れ量は農家の提供可能量によって変動するが、100kg袋を10袋(=1t)ぐらいか。乾燥後は近くの精米所で1000CFA/100kg(=10CFA/kg)で精米する。販売は自分で市場に持ち込む。卸売りと小売りの両方を行う。

パーボイル製造業者の組合は存在しない。



パーボイル米の乾燥作業



ドラム缶の内側にもみ殻を詰めてかまどにしている



2槽式のタンク

(調査団考察) 運賃や精米料金が相場よりかなり安い。交渉次第とのことだったが、商売上手なジュラ商人ならではか。

2. 精米所

上記のパーボイル製造業者が利用している精米所。電動のメイズ用製粉機と精米機を1台ずつ所持している。所有者は Mr. Adama KONE、弟が運営している、アシスタントを1人雇っている。精米機の製造国、能力、1日の精米量は不明。精米機は少なくとも25年以上前の物。精米機は舂すと精米を一気に行うタイプのもののため、舂殻と糠と一緒に粉になって排出される。

コメの精米量は通常だと25CFA/kg、メイズの製粉料金は決まっていない。料金は料や状態によって交渉する。糠(舂殻含む)は500CFA/50kgで販売する。

精米業者の組合はない。



精米所外観



奥がメイズ用、手前がコメ用



とおみ

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	ヤムスクロ市場のコメ屋調査		
日時	2012年11月16日(金) 10:00-10:30	場所	Yamoussoukro 市場内
主要参加 機関(者)	小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M. Koffi Niamkey/ ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(コメサンプル2種)		

●概要：

ヤムスクロ市場内のコメ屋で国産米・輸入米の品ぞろえと価格の調査を行った。市場内にコメ屋は散在しており、調査したコメ屋は野菜売り場の一角にあった。

1. 輸入米・国産米

コメはプラスチックや金属性たらいに盛って kg 単位で販売している。8 種類のコメを扱っており、うち輸入米 1 種類、国産パーボイル米 2 種、国産米 5 種（全粒~破碎率 100%まで）の品ぞろえ。国産米の品種は分からない。仕入は農家に直接出向いて既に精米されたものを買とり。国産米の販売価格は 400-500CFA/kg、仕入値に+100CFA で販売している。輸入米は仕入値+50CFA で販売。

仕入は行きはバス、帰りはトラックで戻る。トラックの運送料は 500CFA/50kg バッグ

- ① 国産米全粒 生産地コンフラ?(バシリカ教会の向こう) 400CFA/kg で仕入れ、500CFA/kg で販売
- ② 国産米全粒 生産地 Danane 300CFA/kg で仕入れ 400CFA で販売。
- ③ パーボイル米は 400CFA/kg で販売



左手前以外は国産米



国産米(奥はパーボイル米)



野菜売り場の一角で販売

2. その他

サンプル入手(全粒国産米 0.5kg、国産パーボイル 0.5kg)

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	Yamoussoukro 地区の農業協同組合へのヒアリング		
日時	2012年11月16日(金) 14:30-16:30	場所	Salle de réunion, Direction Régionale de l'Agriculture, Yamoussoukro
主要参加 機関(者)	先方： ① Union Coomatrice: Mme. Kondo Ahuyé Josephine, Mme. Don Adrienne, M. Kouadio N'Guessan, Mme. Kouadio Madeleine, Mme. Doré Dnamane ② Coproriz: M. N'Dah Clément, M. Kouakou Yao Florent ③ Coopérative ENTENTE: M. Kyere Kouakou Joseph, Mme. N'Guessan Akissi Rose, M. N'Guessan N'goran Thomas Afeno, 同席：M. Kouablan Dongo/Chef de Régional Coopérative、M.Zadi Richard/Directeur Adjoint、Mme. Samouth Gisèle 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M. Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

Direction Régionale de l'Agriculture、Yamoussoukro のアレンジで Yamoussoukro 地域の農業協同組合に対してヒアリングを行った。参加農協は女性ユニオン（傘下に 5 Cooperative）、Cooprorry、Entente で、13 名が参加。地区名は Yamoussoukro、Atieguakro、Didivi。

1. Union Coomatrice

組織概要：コメを含む食用作物、果樹の女性生産者組合。代表 Mme. Kondo。傘下に 5 つの Cooperative がある。

問題点：

- ① 運搬：自前の運搬手段を持たないので、畑から村まで作物を運べない。外部に頼むと往復 300CFA かかる。また、村から市場に運ぶ手段もない。多くの作物が畑で腐る。
- ② 肥料：土地はあるのに投入財が足りないので生産できない。
- ③ 農業機械：耕うん機、揚水ポンプの不在
- ④ 技術指導：水稻の技術指導が必要。収穫期を逃してダメにすることもある。ANADER は指導が有料になったので使えない。また Union 運営の技術指導も必要。
- ⑤ 資金：運搬、投入財、機械化の問題を解決するための資金源がない。銀行の融資はリスクが高いと断られた。
- ⑥ 保存：作物を保存する手段がない。オクラなどは乾燥加工するが、これも雨が降るとダメになる。技術と施設が必要。運送手段がなくても保存ができれば状況は少し改善する。
- ⑦ 市場価格の変動：作物価格が大きく変動し、運送料が高いのでアビジャンに運ぶと損をすることがある。

2. Coproriz

組織概要：コメ生産者組合。441haの農地の内251ha耕作している。現在コメの単収は4t/ha。

問題点：

- ① 栽培技術不足：トレーニングはやりすぎという事はない。単収はもっと増えるはず。
- ② 投入材不足
- ③ 農業機械のスペアパーツ：機械はすぐ故障する上に、スペアパーツが高い。
- ④ 価格：白米は基準価格がある程度決まっているが、籾には基準（National rate）がない。買付けに来た商人のいい値になる。

3. ENTENTE

組織概要：代表 Mme. N'Guessan Akissi Rose。50家族、64.5haの農地。1台の耕うん機を所有し、オペレータが2名いる。コメ、その他作物の栽培。

問題点：

- ① 投入財：技術指導だけでなく投入財がないと栽培できない。投入財の不足で生産量が落ちている（e.g.耕うん機の順番待ちで、遅くなると苗が大きくなりすぎる）。
- ② 運搬：道路状態が悪く作物を運搬できない。特に雨期の状態が深刻。
- ③ 精米機：コメは籾で売ると決まった相手にしか売れず、女性商人に安く買ったたかれる。
- ④ 市場：安定した市場（売り先）が見つからない。

4. その他

- CECF という食用作物開発プログラムがあり、ヤムスクロを含めた5カ所に集荷場を設置。ただし、保管施設はない。
- 農業セクターの資金調達問題を議論するためのプラットフォームがあり、Union Coomatriceの代表が会合に参加した。運営者の連絡先（アビジャン）を入手。

La Gran Marche de Vivirier : Septime AKA/Commercial General (mobile 02-03-71-07)

Charles Desire Doudou/Organiser (mobile 01-33-33-77)

- 精米業者と協力関係にある組合はない。
- DRA 側から機械を供与してもメンテナンスが組合にはできないとの指摘もあった。
- OCPV は農産物価格の調査・安定化を行う組織で、農業者の農産物流通・市場へのアクセスなど支援する組織では無い（名前倒れ）。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	卸業者 CDCi 店舗視察		
日時	2012年11月16日(金) 9:30-10:00	場所	Yamoussoukro 市場近く
主要参加 機関(者)	小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M. Koffi Niamkey/ ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

概 要：

卸業者 CDCi のヤムスクロ店舗を視察し、輸入米、食用油、砂糖の価格・品ぞろえを調査。CDCi はヤムスクロ市内に3店舗ある。視察店舗の近辺には CDCi 以外の卸業者の店舗が固まっている。店舗裏手は広い搬入場になっており、10t-15tトラックが5台ほど作業中であった。店内は輸入品を中心に缶詰、酒、清涼飲料、コメ、砂糖、油、調味料などの食料品のほか、石鹸、シャンプー、潜在などの日用品を取り扱っている。



店舗外観



店内



搬入場

1. 輸入米

コメ売場には 50kg 袋をメインにタイ、ミャンマー、ベトナム産のコメが揃っている。破碎率も 100%、50%、25%で取りそろえられている。



コメ売場



タイ米



ミャンマー米



ベトナム米

- ① タイ米 Uncle Sam 破碎率 100%ジャスミン米 21,800CFA/50kg 人気商品で月に 250 袋仕入れても足りない。
- ② タイ米 Uncle Sam 破碎率 50%ジャスミン米 7900CFA/15kg (≒26,333CFA/50kg)

③ ミャンマー米 Sunrise 破砕率 25% 14,500CFA/50kg

④ ベトナム米 Papillon 破砕率 ??? 16,500CFA/50kg

2. 食用油

食用油は「コ」国 SANIA 社が製造するパーム油ブランドの Dinor と Palme d'Or で占められている。5l、3l、1l、1/4l でそろえている。このブランドは隣国ブルキナファソでも広く流通しているブランドである。輸入品はフランス製の植物油が一種類のみであった。

① 国産 SANIA 社パーム油 Dinor 5l 5200CFA/5l

② 国産 SANIA 社パーム油 Palme d'Or 5l 5000CFA/5l

③ 国産 SANIA 社パーム油 Palme d'Or 3l 3150CFA/3l

④ 国産 SANIA 社パーム油 Palme d'Or 1/4l パック 500CFA/パック



油売り場



国産パームオイル



国産パームオイル 1/4l パック

3. 砂糖

砂糖は全て「コ」国 SUCAF 社のものだった。製造地は Ferkessedougou (ブアケの北)

① 国産 SUCAF 社 ブラウンシュガー 2kg 1200CFA/2kg (=600CFA/kg)

② 国産 SUCAF 社 白角砂糖 1kg 箱 3125CFA/kg



国産ブラウンシュガー



国産白角砂糖



国産白角砂糖パック

4. その他

CDCi 全体の取扱量などはアビジャン本部にデータがある。担当者の連絡先を入手。

Mr. Jalal (アビジャンのマネージャー) 携帯 : 07-099-112

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	農業協同組合”COPRORIZ”へのヒアリング		
日時	2012年11月19日(月) 14:20-15:40	場所	COPRORIZ-Yamoussoukro 本部 (Yamoussoukro 郊外 Nanan 村)
主要参加 機関(者)	先方：M.N'dah Clement, M.Kouakou Yao Florent 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、南谷貴史/稲作開発、M.Dally Anselme/ 通訳、M.Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

去る 11/16 (金) に実施した農業協同組合に対するヒアリングにも同席した COPRORIZ の Yamoussoukro 本部からさらに詳細な聞き取りを下記の通り実施。

1. 概要

- 2001 年に PRC (Projet Riz Centre : 欧州開発基金のプロジェクト) のイニシアチブで発足。Yamoussoukro の他、Sakassou、Toumodi、Katoria といったコ国中央部に存在し、Yamoussoukro には 8 カ村 (Nanan, Zatta, Subiakro, Koriakro, Kpoussoussou + N'dakonankro, Seman+Djamalabo) 7 稲作地域 (périmètres) が含まれ、組合員は 293 名。
- PRC 終了後は PNR (農業省国家コメ計画) が活動を支援していたものの、現在 ONDR が契約農家を通じた種子生産を行っている以外に政府からの支援活動はない。
- 同組合は内務・地方分権化省の認可を得た公的組合。
- 同組合の活動は生産支援が中心であり、流通 (販売) 部門までは着手していない。2009 年、FAO 出資のプロジェクト「OSRO」により各 périmètres に 2 台 (計 14 台) の中国製耕うん機が導入されたが、性能が悪く、既に壊れたものも多い。また、同プログラムは農業生産資材の供与に加えて小規模灌漑圃場整備 (コンクリートライニング水路整備等) も含まれる。
- また、同組合は ONDR と 7 稲作地域との種子生産協定の仲介を行っており、ONDR から提供される原種子を契約種子生産農家に肥料・農薬と併せて提供し、収穫した種子を組合がまとめて ONDR に納品する。

2. 問題点

- ⑧ 組織化：組織の役員は農民自身が兼務しており、組織管理に限界がある。大きな組織では役員が専任されるのが普通であり、担当業務に専念できる体制を整えることが望ましい。これにより、例えば専門職員が機械耕うん計画を立てたり、機械の故障に迅速に対応したりすることも可能となる。
- ⑨ 研修：組合員の能力を向上させるために、栽培技術、農業機械操作、組合管理といった研修機会が必要。
- ⑩ マーケティング：精米機がないことにより、販売形態が限られてしまう。コメはエージェ

ントを通じて組合員から集荷するので問題ない。各稲作地域に作付面積規模に応じた穀物倉庫を建造し、そこで保管できるようにしているが、そこから精米業者、精米後市場までの輸送コストがかさむ。

3. 質疑応答

当方－COPRORIZ と CODERIZ の違いは？

先方－COPRORIZ は PRC のイニシアチブで中部地域に発足したが、CODERIZ はコ国中に広がる ANARIZ-CI 加盟の稲作生産組合でシンジケートのようなもの。

当方－組織化が問題というが、OPA（農業専門組織支援）は ANADER の活動であり、ANADER の存在意義でもある。

先方－民営化後、多くのサービスは有料となっているので頼みにくい。

当方－研修の問題に関し、FIRCA ではあらゆる農業分野（*filière agricole*）の活動に融資しており、その中には稲作分野（*filière de riz*）も含まれる。FIRCA を通じた研修の機会はないのか？

先方－M.N'dah は 2010～2011 年にかけて 2 度参加する機会があった。指導者はいずれもコンサルタントで、その内訳は肥料の使い方等栽培技術と組織化である。

当方－研修実施後のモニタリングは行われたのか？

先方－無い。

当方－研修成果を農家に発信するのは受講者の務め。すべての農業者が FIRCA や CFMAG の研修に参加することは不可能であり、研修によって知り得た情報や知識を受講者が積極的に農家へ伝えなければ研修の成果は広がらない。

当方－PASEA が再開すると仮定して、何に期待するか？

先方－交換部品を含む農業機械、肥料・農薬と行った農業生産資材の供与。資機材提供以外では組織化支援と農民への研修。

当方－会費は徴収しているのか？

先方－組合参加費として 7500CFA/人、分担金として 2 万 CFA/作期/ha を徴収。

当方－組合の活動費は ONDR から得ているのか？

先方－ランニングコストの 40% は分担金得ているが、残りはイネ種子の販売益（10CFA/kg）、農薬会社の仲介、資機材供与等マージンとして組合員の承認を得て取っている。

当方－稲作前にクレジットの機会（*préfinance*）はあるか？

先方－PRC 以前は COOPEC で口座を開けばクレジットが期待できたが利子が 18% と高利なので農家にとって実現性が低い。

4. その他

* 農業資材調達のためにクレジットを利用したいが、現実的には難しいため、COPRORIZ としてマイクロファイナンスを始めたい。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	農業協同組合”Entente”へのヒアリング		
日時	2012年11月19日(月) 15:50-17:00	場所	PASEA事務所内講義室
主要参加 機関(者)	先方：Mme.N’Guessan Akissi Rose/組合長, M.Kyere Kouakou Joseph/技術サービス担当, M.N’Guessan N’goran Thomas/執行役員, M.Bonny Edi Thierry, M.Bonny N’Guessan Hanrie, M.Yao Mathios, M.Yao Kouakou Marcel 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、南谷貴史/稲作開発、M.Dally Anselme/通訳、M.Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(プロジェクト・プロポーザル)		

●概要：

去る 11/16(金)に実施した農業協同組合に対するヒアリングにも同席した Cooperative Entente からさらに詳細な聞き取りを下記の通り実施。PASEA 事務所内に組合事務局を構えている。

1. 概要

- 同組合は 2012 年に N’dakonankro、Nanan、Soubiakro の 3 ヲ村生産者グループ(CGA: Comité de la Gestion Aménagement)を統合して発足。3 稲作サイト(périmètre)の総面積は 65.4ha、組合員 50 名。
- N’dakonankro には 2000 年から農民組織があったが、2012 年に他の 2 村の組織と併せて Coopérative Entente が設立された。
- N’dakonankro の圃場面積は 36ha であるが、組合員により耕作されているのは約 28ha であり、その他は非組合員が作付けをしている。彼らは何故組合に入らないかはわからない。
- ONDR から種子生産の話を持ちかけられたが断った。自家消費および商品米のみ生産。
- 同組合には今年 6 月 N’dakonankro の前会長が寄贈した中国製耕うん機が 1 台あり、2 名のオペレータが操作。ただし、同中国製耕うん機は性能が悪いうえ、3 村の全面積の耕うん・均平作業*をするには、1 台では全く足りない。
- 稲作サイトにはダムからの灌漑水があるので水には困らない。年 2 期作可。
- 耕うん機の利用にあたっては、6 万 5000CFA/ha を組合員が耕賃として負担する。
- イネ種子(WITA 9)は ONDR から購入し、3 年ごとに更新する(2 年は自家採種)。
- 農業投入資材(肥料・農薬)は組合では無く各人で調達。多くは資金がないので家畜糞を利用。
- 出荷は Comité de la commercialisation(マーケティング委員会)が圃場で収穫物を集めて Kpoussoussou の精米業者に運び、精米後 Yamoussoukro、あるいは Abidjan に売りに行く。籾のまま売ると 200CFA/kg にしかならないが、精米は 400CFA/kg で売れる。現在買い手を探

* 南谷注：耕うん機は均平のための機械ではない。

している。組合は精米コストや販売手数料を差し引いてから、生産者に代金を支払う。

2. 問題点

- ①圃場の均平化：耕うん機1台で十分な均平化は困難。
- ②収穫後処理：刈り取り、脱穀、風選は組合員の手作業では追いつかない。労働力不足で人も雇えないので機械化が急務。
- ③作期前の資金確保（*préfinance*）：公的クレジットシステムもなく資金調達が難しいため、*Coopérative*として農業資材を調達して各農家に提供することが理想であるが、その基となるファンドがない。銀行からの資金調達はハードルが高く、口座開設に最低15万CFAはかかり、クレジットには100万CFAの預金と必要とする金額の20%をデポジットとして要求される。

3. 質疑応答

当方－輸入米が市場を席巻している現状で国産米は競争力があると思うか？

先方－国産米は多くの消費者から感謝（支持）されている。美味しい品種（WAB638、WITA9、WITA4、CB1、IDESSA他）も多い。

当方－市場で聞いたところ、コメの販売人は国産米の品種を知らなかった。多くの消費者もしらないだろう。

先方－それが問題。政府にはもっと国産米振興の広報活動に力を入れてもらいたい。残念ながら多くの消費者は国産米の価値を理解していない。

当方－輸入米には碎米混入率が表示されているが、国産米にはどれだけ混入されているかわからない。消費者もそれほど気にしていないようだが。

先方－国内米の碎米混入率は約25%であるが、消費者にとっては問題とならない。

当方－取り扱い業者から国産米の引き合いがあった場合、*Coopérative Entente*は要望に応えられるか？

先方－N'dakonankroでの生産量は50t以上/1作期あるので、10tくらいはすぐ集められる。コンスタントに最低4t/月提供することは可能。4t以上ならアビジャンに出荷が可能。この場合のトラック運賃は18万CFA。当サイトの生産量は約6~7t/ha（一人当たり6tの生産）ある。

当方－国産米は消費者から支持されているというが、その根拠は？

先方－①新鮮、②美味しい。輸入米は3、4年前に収穫された古米、古古米が多く、虫（コクゾウムシ等）の発生も見られるが、国産米は新米なのでその心配はない。また、国産米は甘く、柔らかく、粘着性があり、栄養価も高い。

当方－組合費は徴収しているのか？

先方－入会金として2万CFA、分担金として5000CFA/haを作期ごとに徴収。ただし分担金が支払えない場合は現物も可（粳100kg相当）。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他	
件名	ヤムスクロ Union Covidy 視察、聞き取り	
日時	2012年11月20日(火) 09:30-11:30	場所 ヤムスクロ郊外(ダロア方面への出口付近)
主要参加 機関(者)	先方：M. Kouassi Benjamin、M. Dore Dramane 他 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、南谷貴史/稲作開発、M.Dally Anselme/ 通訳、M.Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント	
配布資料	■無、□有	
収集資料	■無、□有	

●概要：

去る11/16(金)の農業組合ミーティングに参加した Union Covidy (代表 Mrs.Kondo) のメンバーの畑と Union の概要についての聞き取りを実施

1. Union Covidy の概要

2012年に設立したばかりの Union (連合会)。傘下の組合は8団体(Comatrice 1 &2、CCVY、Covya、COPRORIZ、Copady、Aouvoue、Econde egnin)。代表の Mrs. Kondo は傘下の5団体で役員を務める。CCVYは商用作物専門の組合だが、他の組合は食用作物を幅広く栽培しており、作物別・地域別に組合が分かれているわけではない。換金作物をやっている組合は入っていない。農業省のローン(現在申請中)を受けるためには個々の農民組織を束ねるコーペラティブでは不十分であり、コーペラティブの上位組織となるユニオンである必要があるため結成したというのが実情のようである。農業省の融資では農業機械、トラック、肥料等農業資材を購入する他、販売面での活動強化を予定している。返済は現金。他に公的融資は受けていない。

Unionの役割は栽培地の確保、生産物の集荷、アビジャンへの運送と販売の3つであり、各委員会が設立され、役員も選出されているが、活動はまだ試行段階のようである。

Comatrice 1は2009年にFIRCAから販売技術の研修とキャッサバの種子を得たことがある。

2. 畑の視察(畑はいずれもダロア方面への出口付近)

①キャッサバ・ヤムイモ・パパイヤ栽培(Abois Kouassikro村)

(位置：標高229m、北緯06°50.176'、西経005°18.374')

近くの村の所有者から土地を借り、組合員に分割して利用させている。共同作業ではなく個人が割り当てられた区画の栽培管理をする。土地代は収入の一部を所有者に渡す。9月に始めたばかりでまだ収穫がない。収穫物はマーケット委員会が集荷して Yamoussoukro や Abidjan に出荷する予定(共同集出荷)。②キャベツ栽培(位置：標高208m、北緯06°50.160'、西経005°19.005')

M. Kouame Konne Rodrique、M. Kouakou Koffi Eugene が栽培(Comatriceのメンバー)。キャベツは病虫害(主に我の食害)によるロスが多い様子。1.5×2.5×高0.3~0.5(m)ほどの高畝(ベッド)を作って栽培。販売先はヤムスクロ市内の市場や道端で販売。運搬はタクシーを利用。堆

肥などは使用していない。

殺虫剤の散布はしているが、病虫害の被害は防げない。効果的な防除法を知りたいが、ANADERの普及員が来たことはない。

③ トマト・パパイヤ栽培

M. Kouadio Patrick と M. Kouadio Eric Kouasi が栽培。

トマト栽培は収益性が高いので昨年から開始した。品種は EC82 と Royal。年 3 回収穫が可能。乾期作はバフォンの水を利用している。種は町で購入する。ほとんどをヤムスクロで販売するがアビジャンに持っていくこともある。アビジャンに売るときは何軒かで荷をまとめてトラックを雇う。生産者価格は 250-1000CFA/kg で変動。現在ヤムスクロでの卸価格は 400FCFA/kg、アビジャンは 600FCFA/kg。1 作期に 40 箱（1 箱 50kg）、年 600kg 収穫できる。栽培している作物のなかで、トマトが一番収益性が良い。

パパイヤの栽培は今年から始めた。種は ANADER から購入し 0.5ha 植えた。年 2 回の収穫が可能。

トマト栽培には NPK、尿素肥料を使用。教師をしている兄がスポンサーになってくれるので肥料購入にクレジットを利用する必要がない。パパイヤ畑には除草剤を使用。

トマトに虫が付いたり、パパイヤの幼木をウサギが食べたりするが特に大きな病虫害はない。問題点として、可耕地はあっても農地の拡大が難しい事。

3. その他

キャベツ栽培で確認した食害の多くはキャベツ生育初期（食害前）に忌避剤を散布すれば相当防げる。ニーム、トウガラシ、ニンニクを使った生物起源農薬の利用方法や作り方は ANADER の職員が知っており、Public service は ANADER の存在意義でもあるので相談することを薦めた。

以上

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	精米所の視察		
日時	2012年11月21日(水) 9:30-14:00	場 所	Zatta (Yamousoukro 郊外) 標高 191m、北緯 06°52.481'、西経 005°24.042'
主要参加 機関(者)	先方：M.N'guenan Konan/Gérant décortiqueuse 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、南谷貴史/稲作開発、M.Dally Anselme/ 通訳、M.Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

去る 11/14(水)に ONDR で実施された精米業者のミーティングの参加者の一人である Konan 氏の精米所を視察した。Zatta はヤムスクロ中心部から 10km ほどの位置にあり、精米所は Zatta の入口にある。Konan 氏自身が 3ha 所有の稲作農家。併せて、Zatta のため池から水田まで視察調査を実施。

1. 精米所

2009 年に中国製の精米機(電動)を購入し、建物も建てた。個人で購入し公的資金援助は受けていない。精米機はアビジャンの農機具販売店で購入。交換部品の入手が困難。Zatta では最初の精米所であり、2009 年まではヤムスクロに精米に行っていた。機械は中規模程度で、能力は 600-800kg/時。選別機はない。精米機を入れた時に 1 週間中国人販売店の機材設置者が使い方も併せて指導した。精米機の値段は 700 万 CFA。

建物は幅 10m×奥 7m×高 4-5m、コンクリートブロック製で通気が良く作られているが、鳥や虫の侵入も要注意。倉庫はなく、1 週間程度なら精米所の中でコメを保管する。

歩留まりは 60-65%。糠は 30CFA/kg で家畜飼育業者(農民含む)に販売、籾殻は無料提供。精米後の白米には相当の粉が混じっている。品種は WITA9 が多い。

2. 精米販売

精米代は 30CFA/kg (精米後支払い)。農家から籾を買って (175CFA/kg)、精米販売もする (1 万 8000CFA/50kg、小売 400CFA/kg)。ヤムスクロやアビジャンからバイヤーが来る。コメの価格が上昇すると Zatta の方がヤムスクロよりも安いのでバイヤーが増える。アビジャンに運ぶ際、35tトラックを雇った場合 50 万 CFA かかる。

町には輸入米を扱う商店もあるが、国産米は品質で十分な競争力がある。一番の魅力は新鮮さであり、地域内で収穫したコメであれば、最短で 3 日後には販売が可能である。

3. その他

- コメの取扱量が少ない時期は遠くガーナ国境に近い Abengourou まで集荷に行く。
- コメの水分比は簡易型 Moisture tester で計測する。

- 精米機はベルトが一本破損し、交換品もないことから選別が不十分。
- 一般に AKADI と称する良食味米は WAB 638 (WARDA がリリース) のことである。



精米所外観



精米機



精米後の白米

4. Zatta のため池から水田まで視察調査

- 位置：標高 165m、北緯 06°53.493'、西経 005°23.562'
- 1980 年代他の地域同様国が整備。
- 灌漑水田なので年 2 期作可能だが、労働力不足のため移植栽培でも乱雑植え。
- 先にヒヤリングしたイネ生産組合 COPRORIZ の組合長が 2ha の水田を同地に保有。
- 粘土分の少ない砂質土壌なので保水力は低い。ところどころ水がたまらず干からびた圃場が見受けられる。
- 灌漑用水路があっても取り口がなくて導水できない圃場も散見された。このような圃場は灌漑水田(riziculture irriguée)地域であっても天水田(riziculture pluviale)と変わらない。
- 2001 年に PRC (欧州開発基金による中部稲作プロジェクト) が圃場・水路のリハビリと栽培技術研修を実施
- 2009 年から ONDR 主導による種子生産を開始している。種子生産圃場では正条植えが行われている (種子生産の条件)。

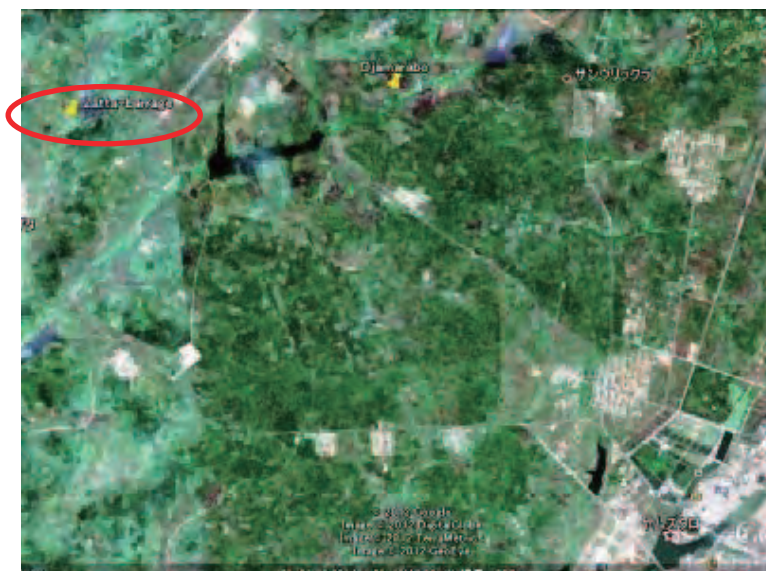


図 Zatta のため池位置

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	Bouake 卸市場（Marché de Gros de Bouaké : MGB）視察		
日時	2012年11月22日（木） 13:45-15:00	場 所	Bouake
主要参加 機関（者）	当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、南谷貴史/稲作開発、M.Dally Anselme/ 通訳、M.Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：

Bouake の中心部にある農産物卸市場、Marché de Gros de Bouaké（MGB）の視察。大型トラックが搬入可能な道路を挟んで倉庫棟が3棟並び、3m×8mほどの小倉庫が各棟に並ぶ。倉庫前に5m幅の作業スペースあり。倉庫賃料は1万5000CFA/月。ヤムイモ、トウモロコシ、ラッカセイ、コメなどの穀物の卸・小売りを行う。ヤムイモの取扱量が一番多いようである。

1. 販売作物

①ヤムイモ（M. Kamara Yamougou）

125CFA/kg（20kg以上）、150CFA/kg（20kg以下）で販売。自分のトラックを所有しており、調達には自分で出向く。ベテベテ、クレンクレン、コナンの3品種扱っていたが、当日は2ヵ月保存可能なベテベテが多かった。

②コメ

Bouake 産の国産米と輸入米の両方を扱う。国産米の品種は不明。国産・輸入米とも350CFA/kgだが、国産米にはイネ科雑草等の種子混入が目立つ。明らかに複数品種が混入している低品質国産米は250CFA/kgで販売。

農家が籾をここまで売りに来る。150CFA/kgで買取り、1000CFA/100kgで精米（歩留まり65%）する。砕米の選別作業はしない。

客は地元の小売が多い。アビジャンから買付けにも来るが10-20袋（50kg）程度。自分でアビジャンに売りに行くことはない。

③ラッカセイ

今は60km北のDabakala、Satamsから商人が売りに来る。生産地からBouakeまでの運送費は2500CFA/100kg。安い時期は400CFA/kgで買い、高い時期（2月）600-700CFA/kgで買い付ける。国内に品薄の時期にはマリからも売りに来る。労働者を雇って選別した後、500CFA/kgで販売。

④トウモロコシ

当日は Mankono 産が入荷。現在買値が 90-95CFA/kg (1 万 5000CFA/袋/50kg) だが、昨年の高い時期は 150-175CFA/kg、売値は 110CFA/kg。飼料用・食用に人気の黄色い品種。運送費は 8tトラックで 100km 移動する場合 10CFA/kg。

2. 運送業者

市場の入口には客待ちのトラック運転手が多数待機している。運送費は作物、移動距離、道路コンディションによって変わる。例えば、60km の悪路でヤムを運ぶ時は 40CFA/kg、150km の良路でトウモロコシを運ぶ場合は 25CFA/kg。

運転主はトラック所有者から借りており、月ごとに下記のレンタル料を払う。

- ◆ 5tトラック：3万 5000CFA
- ◆ 8tトラック：4万 CFA
- ◆ 10tトラック：6万 CFA
- ◆ 25tトラック：7万 CFA



小倉庫が立ち並ぶ



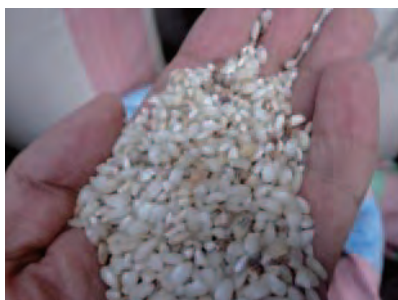
広い舗装道路



倉庫内



コメ屋



混入の多い低価格国産米



ヤム

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他	
件名	ヤムスクロ近郊 Zatta の精米所の視察	
日時	2012年11月22日(木) 09:30-10:30	場 所 Koriakro 標高:200m、北緯:07°01.722'、西経:005°13.045'、
主要参加 機関(者)	先方:M.Koffi Kouamé Lucien/SG,CGA (Souzoulè)他 当方:小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、南谷貴史/稲作開発、M.Dally Anselme/ 通訳、M.Koffi Niamkey/ローカルコンサルタント	
配布資料	■無、□有	
収集資料	■無、□有	

●概要:

去る11/14(水)に ONDR で実施された精米業者のミーティングの参加者の一人である Konan 氏の精米所と村の水田を視察調査した。Koriakro はヤムスクロ中心部から北へ10kmほどの位置にあり、精米所は村の奥にある。

1. 精米所

15年前ほど前に農業省(当時 MINAGRA)がイネ生産者組合に供与したイタリア製(機械のラベルにはフランスとあった)精米機が1台あるがあまり使われている様子は無い。フィルターの換えの入手が困難とのこと。精米機の設置してある建物の隣に倉庫が併設されているがこちらもほとんど使用されていない様子。村人曰く、今は収穫物(コメ)が無いので稼働していないとか、普段籾で売っているから精米は村で食べるために婦人が使っているとか、回答は要領を得ない。

2. 生産者組合

- 1989年に政府(CODERIZ)によって整備された灌漑水田で、2000年にはPRCによって再整備された(30ha)。
- 稲作生産者組合員(組合名スズレ Souzoule?)は69名、平均単収は5t/ha×2作、施肥はNPKを200kg/ha(ONDRか町の取扱店で組合が入手)、尿素100kg/ha、耕うん機はFAOのプロジェクト(OSRO)が2009-2010年に供与した中国製が2台。
- 耕うん機は組合員から利用ごとに徴収(6万5000CFA/ha/2往復)。
- ONDRからの契約で40農家は種子を生産。
- 1作期97tの籾を販売、コメ取引業者がトラックでYamoussoukroやBouakeから買い付けに来る。売値は175CFA/kg。Abidjanは大市場だがコネクションが無いので今は取引無し。需要は十分あるので、生産増すれば売れる。
- 栽培は移植も乱雑植え

3. 問題点

- ①Koriakroには40haの可耕地があるので拡大したい(30ha→70ha)。

- ②鳥獣や病害虫の防除
- ③籾乾燥のためのビニールシート（現在、籾の乾燥場が8か所あるが足りない）
- ④ONDR から入手した WITA 9 の種子に異質な種が混入（contamination）

4. その他

同村イネ生産地域（périmètre）はかつて JICA のプロジェクト（灌漑稲作機械訓練計画）が啓蒙普及活動の一環として指導した場所で、当時、苗代作り、移植栽培（正条植え）、肥培管理、耕うん機操作等イネ栽培技術のパッケージ指導を実施したが、労働力不足から移植栽培は正条植え→乱雑植えにもどったという。当日指導した時の農民リーダーも残っているので技術が失われたわけでは無いだろうが、残念ながら退化した印象である。とくに、種子生産においては正条植えによる適正な生産が求められる。Mission が訪問した際、ONDR によるモニタリングが行われていたが、ONDR の種子生産指導能力は疑問である。

以上



図 Koriakro 位置

【南谷追記事項】

- *機械による精米費は 25FCFA/kg を徴収しているが、ほとんどが自家消費用である（精米機が小型であり、能率が低い）。販売は籾で 150～175FCFA/kg。精米機の部品は入手困難。
- *2000 年、PRC により土水路がコンクリート化され、その外側に農道が整備された。
- *多くの農家は労働力節減のため直播栽培を行っている。通常は正条植えが条件とされる種子生産圃場でも乱雑植えであった（栽植密度はかなり高め）。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他	
件名	Bouake 小売市場（焼失した市場の周辺）	
日時	2012年11月23日（金） 13:30-14:30	場 所 Bouake 市内
主要参加 機関（者）	当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、	
配布資料	■無、□有	
収集資料	■無、□有	

●概要：Bouake 小売市場でコメの調査。内戦中に焼失した小売市場施設の周辺に小売店が自然発生的に集まり、市場を形成している。市場建物の跡にはトタン製の壁が設置され、トウモロコシが栽培されている。

1. コメ小売店

コメ以外に砂糖、マメ類、フォニオの小売を行う。トタン板製の簡易倉庫の中にはタマネギもあった。

コメは7種類販売しており、輸入米3種（全粒 350CFA/kg、100%碎米 400CFA/kg、パーボイルド米 450CFA/kg）、国産米4種（全粒 350CFA/kg、100%碎米 400CFA/kg、パーボイルド 400CFA/kg、低価格混入米）を扱っている。同価格の輸入米と国産米を比べると国産米の方に異物の混入が目立つ。最も人気があるコメは、調理すると良く膨らむとの理由から輸入米全粒 350CFA/kg であるとのことであった。国産米の中には卸市場で見かけた低価格の混入米もあった。安さを求める客の需要があるようである。

コメは全て Bouake の卸売市場で仕入れる。



写真1 Bouake 小売市場



写真2 コメ屋



写真3 国産米・輸入米

2. その他

- 生鮮野菜は卸市場を通さず直接生産者から仕入れている。
- 食料品小売りでは伝統的調味料であるスンバラ（Néré の種子*を発酵させたもの）や赤い染料を抽出するソルガムの茎（Dioula 名：Soumaya）、キニーネ同様抗マラリア薬樹の樹皮（Dioula 名：Diokarani）などを扱っている店も散見された（写真4参照）。

* *Parkia biglobosa*, 和名：ヒロハフサマメノキ



写真4 下がスンバラ、上左が Soumaya、同右は Diokarani

協議メモ

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他	
件名	コメ協同組合連合 ANARIZ-CI (Association Nationale des Rizculturs de Cote d'Ivoire) 聞取り	
日時	2012年11月26日(金) 9:30-11:30	場 所 ANARIZ-CI 本部 (Boulevard Latrille Cocody Sicogi Poste)
主要参加 機関(者)	先方：Kouadio Tiacoh Thomas/President, N'gadi Etowa Jacqueline (resp.comptable), Laurent A. Amani -Golly/ Conseller technique, Ossoue Else N'guessou (CODERIZ, Gagnoa), Kouadio Yao Joan (CODERIZ, Toumodi) 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、	
配布資料	■無、□有	
収集資料	□無、■有 (パンフレット、コメ分野の実態・問題点・戦略をまとめたメモ、組合 配置マップ、コメ袋)	

●概要：「コ」国最大のコメ生産者組合連合である ANARIZ-CI の本部にて、連合の活動やコメ分野の問題点について聞取りを行った。代表の Tiacoh 氏は初代 ONDR 総裁であったが政変により失脚。本人も Toumodi に農地を持つ生産者である。

1. 「コ」国のコメ分野の状況

- ◆ 農業は「コ」国人にとって魅力的な産業ではないため、若者の離農が多い。
- ◆ 機械化の遅れが特に深刻

2. ANARIZ-CI の概要

- ◆ 傘下のメンバーは各地の 42 の CODERIZ、その他 7 地域のコメ生産者組合とユニオン (各

地で名前が異なる) の計 49 組合。2001 年から各地での組織化を推進し、現在の数に達したが、組織化が済んでいない地域も多くある。

- 西アフリカ 15 ヶ国の農業団体ネットワークである ROPPA に加盟している。
- 各組合の代表を集めた年次会合を開催し、各地の栽培状況、問題点、必要な対策などについて話し合っている。現在はコメの共同出荷・販売を重視。
- (2008 年から予定していた計画、内戦で頓挫) 1700 万 CFA の予算で、灌漑ダム、改良種子頒布。農家に対する融資 (90 億 CFA) もあり機械化や投入財の購入に充てる。投入財ファンドでは、肥料 (1 万 5000CFA/50kg) を購入する際、農家は 30% の費用を入手時に組合に支払い、収穫後に残りの 70% を支払うシステム。耕運機の使用 (60000CFA/ha) にも同様のシステムを適用。
- コメの買取ファンドとして 3000 万 CFA がある。コメの買取価格は固定して農家に対する価格保証をしている。買取価格は 150CFA/kg(籾)で、歩留まりが 60% なので精米換算すると 250CFA/kg(精米)である。組合による精米手数料等 50CFA/kg を上乗せし、更にその他の利益 50CFA/kg (ANARIZCI の収入もこの部分に含まれる) を追加して、販売価格 350CFA/kg (精米) としている。ANARIZCI 専用のコメ袋 (5,10,25,50,100kg 用) を作り、各地に配布した。コメは生産地でほぼ売れてしまう。
- コメを販売する上で一番の問題は、組合がコメを買いとる資金が足りないことや精米機の不足。運搬や倉庫の問題などもあるが、これらはメインの問題が解決すれば農家側が自分で解決できる。農家は組合がコメを買うのなら、どうにかして運んでくる。コメの需要も十分あるので売れる。
- ANARIZCI は組合費の徴収はしていない。収入はコメ販売や肥料販売の手数料によるもの。農家から ANARIZCI に直接お金を支払わせるのは困難。
- 種は CNRA から直接入手している。ONDR の種は異種混入が多いうえに高い (600CFA/kg)。種子は原則各組合が 1 つの種子生産圃場を確保して自前更新ができることが理想。
- OLAM 社などの私企業が ONDR と組んでコメ産業に参入するという話は聞いていない (ANARIZCI 代表)。Tomoudi では農家に対する説明会があったが、内容は企業がコメを買いとるという内容で、活動の中に農家に取り込まれるような内容ではなかった。カカオやコーヒーのように企業だけが利益を得て、農家にはメリットがない (CODERIZ, Toumodi)。

3. 「コ」国政府との協力内容

- ONDR との協力関係は一切ない。代表の Tiacoh 氏が初代 ONDR 総裁で失脚していることから、政治的な理由で協力が難しい。ただし、農業省とは直接対話を持っている。
- 政府には誰が、何処で、どの品種を栽培しているかという基本的な情報がない。ANARIZ-CI はこの点で進んでいる。

4. 日本の支援

- 日本は CFMAG や PASEA などのコメ支援を行ってきたが、とくに大きな成果を上げてきたわけではない。原因は常に政府経由で支援してきたためであると思われる。支援はコメ生産者団体に直接行うべきである。政府の支援には生産者の視点がない。

5. その他

- ◆ コメ分野への私企業参入には警戒心が強い模様。
- ◆ ヤムスコロでの農家の聞き取りでは、運搬、投入財、機械化、販売などの問題点が同列に扱われていた印象が強いが、ANARIZCI では問題解決の優先順位（コメの買取資金）がはっきりしていたのが、印象的。ただし、「作れば売れる」という姿勢には疑問が残る。
- ◆ JICA が2国間協力を前提として組合に直接支援できないなら、組合を直接支援できるスキーム（大使館の草の根無償、JA を含む日本の NGO）を紹介して欲しいとの要望あり。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、■その他	
件名	全国農業専門団体連合（ANOPACI : Association Nationale des Organisations Professionnelles Agricola de Cote d'Ivoire）での聞き取り、意見交換	
日時	2012年11月27日（火） 9:30-11:30	場所 ANOPACI 本部会議室（Cocody Cite des Arts、Abidjan）
主要参加 機関（者）	先方：Amoikon Dihye/ Secetaire General, Ando Yao/ V.P, Dago Dadie/ Administrateur, Oussou Gasbou/Directeur Executif (Coovafcci), Aman Segire/ President (COJACI) 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、	
配布資料	■無、□有	
収集資料	□無、■有（CHARTRE POUR LA PREVENTION ET LA GESTION DES CRISES ALIMENTAIRES AU SAHEL ET EN AFRIQUE DE L'OUEST）	

●概要：「コ」国農業関連団体の連合である ANOPACI の本部を訪問し、農業セクターの各分野の状況についての聞き取りと意見交換を行った。

1. ANOPACI 概要

- ◆ 1998年に設立され、28の association と2つの organization の連合。連合には ANARIZCI や ARECA、農業会議所などコ国内のあらゆる農業団体が加盟しており、16の作物分野（filières）が対象となる。ROPPA のメンバーでもある（最初の副会長を輩出）。FIRCA との交渉相手でもある。
- ◆ ANOPACI の使命は農民の利益の確保、農民の専門性の強化、収入向上などで、対象作物の研究調査を行ったり、必要な支援のマッチング（ドナー探し）などを行ったりする。具体的には融資のファシリテーション、商業化、農民への医療支援、農村女性支援、マーケット支援、輸出税（他国にはなくコ国にあるため国際競争力上問題）に関する政府との協議など。生産物をどう売るかは全ての分野に共通した問題である。
- ◆ 活動費は70%がパートナー（ドナー）、30%が組合からの会費（会員分担金、補助金を含む）。

2. 換金作物

- ◆ コーヒーとカカオは小農が中心になって生産し、組合が買い取って、輸出業者に売るのが一般的な流通経路。
- ◆ コーヒーは国際価格の下落が激しく、1995年に底値になった時にほとんど生産をやめた。多くがカカオ栽培やゴム生産に転換していった。農産物の重要度は現在では5番目（かつては2番）。現在は西部で生産がある程度である（ネスレ社と取引）。昨年のコーヒーの生産者価格はチェリー100CFA/kg、豆 500CFA/kg。
- ◆ ANOPACI は生産者価格支持のために政府や企業と交渉を持っている。かつてコーヒーの生産者最低価格は国際市場価格の40%だった（コスタリカは80%）が、現在は60%になっている。70%が目標。ただし、生産者最低価格は状態の良い商品に適応される価格であるため、絶対的なものではない。今年のカカオの生産者最低価格は725CFA/kg（発酵後で状態の良いもの）。
- ◆ カカオの生産者価格を上げる手段の1つとして品質に対する認証制度が考えられるが、認証を与える機関がない。現在は企業のみが品質と値段を決めている。品質基準として考えられるのは①子供の不法就労が無いこと、②完熟種子であること、③発酵状態がいいこと、④乾燥状態がいいこと（水分含有8%）、⑤異物混入率が低いことなどが挙げられる。
- ◆ 天然ゴムとオイルパームは政府によって値段が固定されている（天然ゴムはAPROMAC、オイルパームはAiPHが値段を月ごとに設定する）。
- ◆ 天然ゴムはワタラ政権の支援もあり、国際価格も良い。ワタラ政権は天然ゴム企業に税を課して、間接的に価格のコントロールをしている。

3. 食用作物

- ◆ 野菜の流通に大きな問題がある。まず、運搬の手段が限られているので流通範囲や量が限られる。道も悪い。また、保管手段がないため雨期後の収穫期に生産物が一気に出回り価格が下落する。そのため乾期作も行っているが、灌水作業が大変なので揚水ポンプを入れたい。村の若者は野菜栽培も手伝うので、ポンプの操作・保守管理技術を学ばせたい。保管の専門家がない。
- ◆ 野菜は保存性に問題があり、トウガラシやオクラ、キャッサバは乾燥させて保存性を高める商品としているが、他の作物は方策が無い。また、Abidjanなどに卸しても多くが腐るからといって安く取引されるが本当に腐って品物にならないのか確認のしようがない。
- ◆ コメに関しては政府の支援が始まっているが売れていない。輸入米に対して価格・流通量の点で不利。70年代は輸出までしていたが、SODERIZ 解体後低下した。コメ振興には政府の強力な支援が必要である。現在は仲買人が初めの値段を決めるため買手が圧倒的に有利な市場である。運搬、保存などは野菜と同様に大きな問題。
- ◆ 企業、中間業者、農民の間に全く繋がりが見られないのも問題。
- ◆ アビジャンの市場情報を農民に伝えるシステムをANADERとの連携で進めている。ドナーはAGRITELA（ベルギー）、CTA、USAID（ATPプロジェクト）。携帯電話による情報発信をする。

4. 加工

- ◆ 加工はこれからの対策が必要な分野。ANOPACI の内部に加工担当部門を作ったが、実際

は有効な対策がない状態。この分野の産業が発展しておらず、新規に立ち上げても品質や価格面で市場に受け入れられるかは疑問。

- 一次加工は現在実施されており、二次、三次加工の可能性が無いわけではないが、そのための政策が整備されることが先決。

5. 支援分野

- 支援が必要なのは野菜全般、穀物ならコメ、キャッサバ、ヤムイモの順。キャッサバは輸出もあるので可能性が高いのではないかと。

6. その他

- 現在「コ」国内で、輸入品と国産品が競合しているのはコメだけ。パームオイルや砂糖は国産品が強く、他国からはほとんど入ってこない。加工品は国内ではほとんど作られていない。バナナやパイナップルは国際市場で他の西アフリカやアジアとの競争があるが、国内での競争はない。
- 「コ」国からマリに農産物を売りに行っても、マリでは「コ」国のトラックには品物を売らないので空で帰ってくるしかない。これが輸送費を上げる原因の一つになっている。
- OPA 活動を強化すべく農民の家（公民館のようなもの）の建設支援をかつて日本大使館に相談したことがあるが、内戦で頓挫した。日本には再検討願いたい。
- 農業セクターではマーケティングを支援する方策はあっても農村医療をカバーするものがない。女性や若年層といった農村社会のアクターにも支援は必要。
- 主食となる作物の優先順位は①コメ、②キャッサバ、③トウモロコシ、④ヤムイモとバナナの順。コメは全国的に消費され、国家の最優先作物でもあり、キャッサバもアチャケに加工される主食だが、トウモロコシ（北部）、ヤムイモ（南部）、バナナ（南部）は消費に地域性が現れる。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他	
件名	ARECA (Autorité de Régulation du Coton et de l'Anacarde) からの聞き取り調査	
日時	2012年11月27日(火) 15:00-16:30	場 所 ARECA 事務所 II Plateaux Vallon-Rue i 60 lot 1731
主要参加 機関(者)	先方：M. Sanogo Malamine/Directeur Executif、他 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、	
配布資料	■無、□有	
収集資料	□無、■有 (リーフレット”pour une meilleure gestion des filières coton et anacarde”、ppt データ” POTENTIALITES ET OPPORTUNITES D'INVESTISSEMENT DANS LES FILIERES COTON ET ANACARDE EN COTE D'IVOIRE”)	

●概要：ワタとカシューナッツ分野の振興に介入する公社である ARECA（ワタおよびカシューナッツ統制公社）を訪問し、聞き取り調査を実施した。概要は以下の通り。

1. 設立の背景

- ワタを含む主要な農業分野の自由化を受けてコートジボワール（コ国）政府は農業生産活動から撤退したが、その代わりに適切な規制の枠組みを設置し、その適用を確実にするために必要な組織として 2002 年に ARECA を設立。
- 同公社は翌年（2003 年）からワタおよびカシューナッツ分野（filières）活動を支援する組織としてスタートした。
- ARECA が対象とする団体は、ワタ分野における専門業界として生産者団体（AFFICOT-CI）、摘み取り業者団体（APPROCOT-CI）、カシューナッツ分野における専門業界として生産者団体、輸出業者団体、加工業者団体（現在立ち上げ中）とあり、ワタ分野では 2 次加工業界団体（繊維・織物加工）の創設を予定している。カシューナッツは新しい産業であり、産業構造が未熟。

2. ARECA の mission

- ワタとカシューナッツ分野の活動を促進するために統制の枠組みを準備する。
- 生産物の加工・流通活動の推進するため作業者の要求に関する制定。
- 組織化された活動の契約化を図るとともに、国内と輸出市場を進歩させる条件を直す。
- これらの規則の適用に留意して、作業者間の公平な仲裁を保証する。
- これら filières を支配している規則や契約と作業者を拘束している協定を遵守しない場合は処罰する。
- ワタとカシューナッツ分野（filières）における生産性の改善、生産物の加工流通のためのプロジェクトを確認・実施する政府を支援する。
- 国際取り決めの履行、モニタリングといった国庫のための交渉に参加する。

3. 生産地域

両作物とも中北部以北のサバンナ地域で多く栽培されており、ワタは独立以前からの換金作物であったが、カシューナッツは環境保全（植林活動）の一環として始まった。

4. 主な基本情報

1) カシューナッツ

- 総栽培面積約 42 万 ha を約 25 万人の生産者が利用しており、彼らは約 60 の組合と約 10 のシンジケートを形成している。
- 正規の輸出業者 50 あり、それらは 10 の組合と 40 の企業で構成されている。
- 輸出成長率は年 11%（16 万 5000t/2005 年→40 万 t/2012 年）
- 世界第 2 位、アフリカ第 1 位の生産国
- 生種子輸出世界 1 位
- 150 万人が直接裨益する作物
- 生産者価格（庭先価格）は 130～350CFA/kg
- 2012 年の FOB 価格はおよそ 1660 億 CFA
- 2012 年にはおよそ 1000 億 CFA（FOB の 60%相当）が生産者に収益配分された。
- 今年 Bouake に OLAM グループ 2 番目の工場が開所し現在の約 2 万 t から約 5 万 t の増産が見込まれる。
- 生種子輸出業者の 87%は民間企業で 13%は組合。
- 品質別輸出変動は上質種子 33%、良質種子 35%、低質種子 32%
- 水分量による品質別輸出変動は 12%の上質種子 7%、10～12%の良質種子 45%、10%以下の低質種子 48%
- 2005 年作期の輸出先はインド（89%）とベトナム（11%）に限定されていたが、2012 年作期の輸出先はインド（68%）、ベトナム（24%）に加えてブラジル（8%）が台頭。
- カシューナッツ（生種子）の世界供給の分布はコ国（34%）、ギニア・ビサウ（17%）、タンザニア（14%）、インドネシア（9%）、ベナン（8%）、ナイジェリア（7%）、モザンビーク（6%）、その他（5%）と圧倒的にアフリカが多いが、カシューナッツ（核）の世界供給ではインド（37%）、ベトナム（35%）、ブラジル（14%）、その他（14%）と、明らかに生産輸出国と加工輸出国に分けられる。さらにこのカシューナッツ（核）の輸入国は世界消費の 80%を占める第 1 グループ（アメリカ、欧州諸国）とその他の第 2 グループ（中国、サウジアラビア、UAE、ロシア、東欧、イスラエル、イラン）に分けられる。
- カシューセクター（*filière*）のビジョンとしては、①生産者の組織化（現在の組合は 10-15 人程度の小規模なもの）、②生産者の識字教育、③生産地の拡大（多くは 0.5～1ha と小規模）、④国内市場の開拓（輸送コスト、倉庫、市場流通、*warrantage* と呼ばれる穀物貯蔵に基づく農村信用等のアイデア）、⑤マーケティングの組織化など。
- これまでカシューは保存施設がなかったことから収穫後はすぐに輸出していた。通常収穫してから 3 ヶ月でほぼ売り尽くされるが、ベトナムなどは通年必要としているので作期の長期化・分散化や貯蔵施設の設置によって輸出期間を長くし、価格を安定させることができる。そのためには古い品種から改良品種に切り替え、国外消費を増加させ、生産者を組織化し、地元の加工技術を応援（強制ではない）したい。
- カシューはワタと異なり永年性作物。

2) ワタ

- ワタの生産地域はカシューナッツ生産地とほぼ重なるが、産業としての歴史は長い。
- 総栽培面積約 60 万 ha 以上で約 15 万人以上の生産者が従事している。
- ワタ栽培は非常に大きな文化である。
- 組織化された生産者組合は連合組合である AFFICOT-CI の傘下にある。
- 7つの綿花企業が APROCOT-CI に加盟
- 13 のユニットからなる綿摘み業者は 60 万 t の生産能力を有する。
- 経済危機の際に継続的な下落を経験したが、その後フル生産を再開。2007-2008 年は 12 万 3000t であったが、2011-2012 年は 26 万 t を達成し、2012-2013 年は 34 万 t が見込まれる（1998-1999 年には 40 万 t をすでに達成していた）。
- 2000 年代半ばに、ワタの国際価格の下落や、内戦中の混乱によりワタ農家への支払いが止まったため、ワタ栽培をやめた者もいるが、再び生産者は増えてきている。
- 農業普及員を配置し、農業研究の再構成を図る。
- 事業者間の継続的な協力関係を構築するとともに、事業者は INTERCOTON ならびに国家の庇護を受けている。
- 合成繊維のコスト上昇の恩恵を受けて繊維輸出約 11 万 t、FOB 価格にして 1140 億 CFA に到達。
- 政策、技術、資金などワタセクターは国家から恒常的に支援を受けている。
- 国益につながるワタセクターは食料安全保障にも貢献する分野であることから自由化以降も政府の補助を受け続けている（カシューナッツセクターとは異なる）。
- ただし、今後も優良種子を生産者に供給し続けるため、農業投入財を生産者に提供し続けるため、最初の数十年分の所得を保障するため、繊維、織物等地場産業を振興するため、当該セクターのキャパシティ・デベロプメントを図るため、同セクターにおける情報システムを構築するためには、さらなる予算を確保する必要がある。
- カシューナッツセクターに比べるとワタセクターには多くの支援があり、ありやることがないが、2次加工が全くできないのは問題。

5. その他

- カシューナッツは用途が豊富（食用、薬用、化粧品）に加え、果実部にも加工用途の将来性がある（ジュース*、ジャム）。現在の品種古い（品種改良されていないローカル種、ただし病気などには強い）ので、用途別、あるいは用途多様化を目指した改良品種の導入が求められる。CNRA での研究が始まったばかり。
- カシューナッツの種子部の単収は 300kg/ha なので、果実部はその 5 倍見込める。
- ワタセクターとは異なり、カシューセクターは補助金を必要としていない（補助金無しでも利益を生む）。
- カシューナッツが北部地域に導入されたのは、砂漠化防止、植生保護の政策という歴史的背景がある。経済的利点に気付いたのは比較的最近。
- カシューナッツの輸出・販売を支援する特別なドナーは無いが、調査研究面においては ICA (Initiative du Cajou Africain)、GIZ、USAID が協力パートナーとなっており、OLAM は民間投資家として参入（主に Bouake）している。

* 次ページ写真参照

- オーガニックコットンは 200kg/ha しかとれず採算が合わない。また、通常栽培の綿と混じらないように種抜き工場を別に作る必要があり、投入とのバランスが悪い。



写真 左はブラジル製、右はベナン製のカシューアップルジュース

会議 種類	<input type="checkbox"/> 関連省庁との協議、 <input type="checkbox"/> 他ドナー協議、 <input checked="" type="checkbox"/> 民間団体・NGO等との協議		
	<input type="checkbox"/> 日本大使館との打合せ、 <input type="checkbox"/> JICA関係者との打合せ、 <input type="checkbox"/> その他		
件名	OBAMCI（Organisation des producteurs-exportateurs, de Bananes, d'Ananas, de Mangues et autres fruits de Côte d'Ivoire）からの聞き取り調査		
日時	2012年11月28日（水） 14:45-15:30	場 所	OBAMCI事務所 Rue de commerce, Plateau
主要参加 機関（者）	先方：M. ANO Jean/Secrétaire Général, M. Dolly Emmanuel/Ingénieur Agro-Economiste 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、		
配布資料	<input checked="" type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		
収集資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input checked="" type="checkbox"/> 有（リーフレット）		

●概要：バナナ、パイナップル、マンゴー等分野（*filière fruitière*）の振興に介入する業界団体（*Association civile*）であるOBAMCIを訪問し、聞き取り調査を実施した。概要は以下の通り。

1. 設立の背景

- 2009年にOCAB（Organisation Centrale des producteurs et exportateurs d'Ananas et de Bananes）から別れ、業界8社（BANADOR、CADERU、COFRUIBO、EITIMA、SCADI、SCB、SOCOFRUIT、SOFELCI）がイニシアティブをとって設立。

2. OBAMCIのmission

- 伝統的な輸出果物の文化を促進、維持し発展させる。
- 他果物の多様化を推進する。
- バナナ、パイナップル、マンゴーその他果物輸出セクターの組織に貢献する。
- 団体メンバーによって輸出された果物のマーケティングやプロモーションの調整を推進する。
- 団体メンバーの扱う果物の品質、持続可能な発展と社会的および環境的責任の基準を促進する。
- 協会の会員との関係を支配するプロフェッショナルなルールを確立する。
- 当該分野（*filière fruitière*）の置かれた環境全般に関する情報を団体メンバーに発信する。
- 第三者を前に、専門的連合会として団体メンバーを代表する。
- 全般的な利益と団体メンバーの権利を守る。

3. 取扱量

- OBAMCIの果物輸出取扱量はコートジボワール（以下「コ国」とする）全体の70%に相当する。残り30%がOCAB。
- 輸出先は各社のスポンサーがEUであることから100%フランス向け。

4. 主な果物別情報

1) バナナ

- 団体メンバーである業界トップ2社（SCBとBANADOR）でコートジボワールのバナナ総売り上げの70%を占め、OBAMCI全体で90%を占める。
- 年間輸出量は17万～18万t。
- 多くはAbidjanから200km圏内で栽培され、トラック輸送され直接港の冷蔵施設に入る。内戦前と産業構造は変わっていない。企業、組合やUnionが強いので内戦の影響はあまり受けなかった。
- 十分に選果され、5%はAbidjanとコ国周辺国、95%は海外（フランス）に出荷される。青刈りなので、ほとんどロスはない。
- Abidjan港からフランスの港までの船内（9～10日）で後熟が進む。
- 来年は有機栽培バナナを北部Korhogoで試験生産の予定。貧困削減の観点から北部地域で開始。ANADERとの協力はなく、全て内部技術者（計6000名のスタッフ中10名程度の専門家）とEUの援助で推進。
- フルーツバナナは主食ではないが、貧困対策に寄与する作物である。

2) パイナップル

- ギニア湾沿岸地域（Bas-court）で生産。
- 年間輸出量は4万5000～5万t。大規模プランテーションによる経営。
- バナナより栽培は容易。（バナナは強風で倒れやすい）
- 近年、M22という小ぶりで細長く甘い品種が人気。

3) マンゴー

- 主に北部地域で生産。
- 年間輸出量は8000～1万t、国内生産量15万tで他の果実に比べて国内消費量が多い。
- 上記2果物より廃棄される割合が多い。
- 1年のうち4ヵ月は品薄になるので、その期間を加工品で埋めることができれば利益になる。
- 1985～90年頃Sinematiali（KorhogoとFerkessedougouの間）に乾燥加工場があったが頓挫した。他に加工を行っている企業はない。
- 北部地域にマンゴー生産が集中するのは歴史的背景が関係する。カシューナッツ同様、乾燥する北部地域の植林政策の一環として国家が推進したものである。1農家の所有面積も広く200ha持つ者もいる。生産者が組織化されてきている地域もある。
- マンゴーはバナナやパイナップルに比べると民間企業の参入がなく、EUの支援もない。（1995年にEUが保管・運送技術のトレーニングを行ったことはある）
- 農業者にとってマンゴーからの収益は補完的なものだが、欧州からの要望は高い。北部にはマンゴーの選果・調整所が設置されており、良質果実生産のための研修も行っている（援助ではなく自己資金で）。Abidjanまでの輸送はトラックではなく鉄道を使って夜間輸送（日中は暑さで果実が傷む）を実施。輸送船は契約によって固定されている。
- マンゴー栽培上の問題点は、葉に着く病気（果実数が減る）、ミバエ、ミニ斑点ができる病気の3つ。

5. その他

- OBAMCIのmissionに果物加工促進は無いが、果実加工（乾燥、ジュース、ジャム他）の要望は高い（とくにマンゴー）。

- OBAMCI の扱う果実は他の西アフリカでも栽培できるが、「コ」国は大きな港を有している点で非常に有利。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、その他□	
件名	OCPV(Office d'aide a la Commercialisation des Produits Vivriers)での聞き取り調査	
日時	2012 年 11 月 28 日 (水) 9:30-11:30	場 所 OCPV 本部会議室 (km18, route d'anyame, Abidjan)
主要参加 機関(者)	先方：Kouable Noel/Conseiller technique (information des marches), Mengagbeu Phillipe/ Conseiller technique (certificats de provenance), Doue Thierry/SDOM, Boue Yode Coasiou/DAAF, Abakou Jules, Kakou Mah Aya 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、	
配布資料	■無、□有	
収集資料	□無、■有 (パンフレット)	

●概要：商業省の下部組織で農業の商業化を担当している機関である食用作物商業化支援オフィス (OCPV : Office d'aide a la Commercialisation des Produits Vivriers)を訪問し、団体の活動内容や農業の商業化についての聞き取りを実施した。

1. OCPV 概要

- コートジボワール (以下「コ」国とする) を北部と南部に分け別々のネットワークを形成。
- ミッションは①商業情報 (市場価格、ファンド情報、トレーニング情報) の収集と伝達、②市場インフラの振興、③農民や商業アクターの組織化、④輸出の支援 (バナナ、パイナップル以外) の4つ。
- 地域支部 (Antennes) はアビジャンを含め 10、常設オフィス (Bureaux Permanents) は 10。
- OCPV 自身は作物の売買や価格統制を行う機関ではない。「コ」国では天然ゴムやオイルパーム以外の価格は市場が決める。

2. 具体的な活動

- 卸市場建設計画：現在、卸市場は Bouake の1ヵ所のみ。集荷場は Kotobi (伝統野菜)、Megui (プランテン、穀物)、SINEMATIAIJ (マンゴー、カシューナッツ、タマネギ) の3ヵ所。FED の資金で卸市場を3ヵ所増設する計画があったが、内戦で頓挫。現在、計画再開のための国家計画を準備中 (2013 年再開予定)。予定地は Abidjan、Daloa、Abengourou の3ヵ所。卸市場近隣に集荷場も建設する予定。
- 市場情報：卸価格と小売価格の両方を調査し、毎週、価格情報と価格分析情報を発信している。価格調査は地方支部と常設オフィスがチェックし、全国の 43 市場をカバーしている。ただし、情報の発信方法には課題がある。かつてはテレビ、新聞、ラジオなどを利用していたが高額だった。現在は地域の関連団体に情報を渡し、利用者が電話で問い合わせ

する形になっている。地方ラジオ局での発信は **Bouake** でのみ行われている。現在 **e-Agriculture** というプロジェクトが農業省と **WFP** の支援であり、**SMS** を利用した発信などを検討している。ただし、農家の識字率の低さなどの課題もある。

- ◆ 売り手と買い手の情報を提供し、ビジネスマッチングを行っている。
- ◆ 食料品の国内の流れを追うために、市場を経由する食料の **Origin** と **Destination** の調査を行っている。全ての流通量をカバーしているわけではないが、穀物の流通量からコメを抽出してデータを提供することは可能である。

3. 農業セクターの現状と課題

- ◆ 運搬・保管は全分野に共通の問題。道路インフラには民間企業のサポートや **BFA** 銀行のサポートが入ってきており、「コ」国だけでなく西アフリカ全体のネットワークを改善する案がある。保管ができないことから、収穫期に運搬が集中し、運送トラックが足りないことがある。しかも農産物価格は下がる。トラックなどのサポートのために商業省が資金を探している。サポートは組織化された農民グループに行く予定。
- ◆ 交通の問題に関しては、運輸省下に別の担当団体 (**OIC : Office Ivoirienne Chargé**) がある。
- ◆ 仲買人は個人でやっているものが多く、組織化は進んでいないが、小売人は非常によく組織されている。以下の2組合の連絡先を入手。ただし、ヤムイモの小売は男性が多いので、他の作物ほど組織化されていない。

1. **COCO VICO** (アジャメ小売市場の組合) : **Mme Botchi(ボッチ)** tel:07-29-39-49, 01-16-13-42, **Mme. Charlotte** tel: 02-39-86-60,

2. **Comagog Adjame Roxi**: **Mme. Alexi Zouzag** tel: 02-28-33-61, 05-33-95-77

4. その他

- ◆ マリに物資を運んだトラックが空で戻ってくるしかない現状は、運搬費を上げる要因の一つ。「コ」国北部では運送業に従事する人間が多いので大きな問題だと思う。

会議 種類	<input type="checkbox"/> 関連省庁との協議、 <input type="checkbox"/> 他ドナー協議、 <input checked="" type="checkbox"/> 民間団体・NGO等との協議		
	<input type="checkbox"/> 日本大使館との打合せ、 <input type="checkbox"/> JICA関係者との打合せ、 <input type="checkbox"/> その他		
件名	CAPS (Cellule d'Appui au Programme Sucre) からの聞き取り調査		
日時	2012年11月29日(木) 15:00-16:00	場 所	CAPS事務所 33 rue des Brasseurs, Zone 3, SUCAF
主要参加 機関(者)	先方: M. YAO Kouassi Jean Claude /Secrétaire Exécutif, KOUASSI Sidoine Herve/Assistant Secrétaire Exécutif, 当方: 小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、		
配布資料	<input checked="" type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		
収集資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input checked="" type="checkbox"/> 有(リーフレット)		

●概要: MINAGRI(農業省)とSUCAFの官民連携プロジェクトチームであるCAPS(砂糖プログラム支援ユニット)を訪問し、聞き取り調査を実施した。概要は以下の通り。

1. 設立の背景

- 2007年に砂糖分野の振興を官民両者連携の下支援するためEU他からの資金援助を得て設立。
- CAPSはあくまでも民間セクターを代表する支援ユニットだが、国と民間の両者を調整する役目も負っている。プログラムはPPPの形で実施されている。
- 事務所運営にかかる事務所費(水道光熱費等)はSUCAFが、Secrétaire Exécutif他技術的支援人材はMINAGRIが負担している。

2. 砂糖産業の推移

- 経済危機や内戦によって北部、北西部地域における国家所有の砂糖生産活動の多くは失われた(生産インフラの破壊や国からの支払のストップなどにより生産活動が停滞)が、Ferkessedougouの4つの精糖工場では6万人が直接・間接的に裨益してきたので、雇用確保、産業保護(砂糖産業を失うことは国家的損失)の観点から官民連携で保護することとなった。砂糖業界は1997年に自由化され民間が運営する産業となったが5年ほどで内戦により投資が停滞してしまった。現在、生産・製造インフラの整備(灌漑、工場)、新品種の導入などを進めている。
- 2002-3年頃14万tだった生産量は2011年に17万tに持ち直した。
- SUCAFの所有するサトウキビ・プランテーションは河川水を利用したセンターピボット方法によって灌漑され、改良された栽培方法が採用されている。

3. 生産者

- SUCAFの所有するサトウキビ・プランテーション以外にも小規模生産者が栽培するサトウキビがあり、SUCAFは彼らからも買い上げている。
- 約2500名の小規模生産者が生産するサトウキビはSUCAFの生産する砂糖製品の10%に相当する。これを30%にするのがプログラムの目標。現在稼働していない製糖工場の利用な

どを考えている。

4. 砂糖産業のチャレンジ

- 現状では国内の自給達成が目標。国内消費量が充足されれば余剰を周辺国に輸出する。19万tで国内需要が満たされるので、1、2年で輸出が再開できるのではないか。
- 小規模農業者は灌漑ではなく天水（pluvial）で栽培しているので生産量が安定しない。周辺環境に影響されるので、如何に生産量を安定させるか研修（組織化、組織運営を含む）を実施（競争入札によってコンサルタントを選定）。
- サトウキビの絞りかす（バガス）は工場のバイオエネルギーに転用し、約6ヵ月分の電力を賄っているが、さらに有効な利用方法（エタノール抽出、家畜飼料他）を研究し、バイプロダクトの多様化を図る。

5. その他

- 製糖工場は Abidjan から遠いので輸送コストが嵩む。Korhogo からなら鉄道輸送も考えられるが、Korhogo までも遠い。西部からはトラックしか輸送手段がない。
- 日本の企業(株)味の素が Abidjan に進出していることは知られていない。味の素の主原料はサトウキビなので、同企業から多様化のヒントが得られ、あるいはパートナー企業の候補ともなり得る。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	Conseil du Café-Cacao(CCC)からの聞き取り調査		
日時	2012年11月29日(木) 9:30-10:00	場 所	CCC事務所 CAISTAB 23階, Abidjan
主要参加 機関(者)	先方：M. Yapo Assamoi Robert/ Director of Sustainability, Project and Perspective, Dr. Atta Brou Noel/Agricultural Economist & Technical Advisor, M. Kakou, M. Koffi/Directeur de Vent 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要： コーヒー・カカオの輸出調整機関であるコーヒー・カカオ評議会(CCC： Conseil du Café-Cacao)を訪問し、聞き取りを実施した。

1. CCC 概要

コーヒー・カカオの輸出は1999年までCAISTAB（1次産品価格維持安定化公社：Caisse de Stabilisation des Produits Agricoles）によって管理されていたが、構造調整に伴う業界自由化に

伴い輸出認可を行うコーヒー・カカオ取引所（BCC）、売買に関する調整を行うコーヒー・カカオ調整機関（ARCC）、各種基金の管理を行う調整管理基金（FRC）に分解された。ワタラ政権の発足後、コーヒー・カカオセクターの効率化のために 2011 年に関連団体が統合され CCC が設立された。CAISTAB 分裂後、団体間の紛争もあったが、統合してから運営効率は上がり、商品の品質向上、価格の安定などの成果も上がっている。

CCC の使命はコーヒー・カカオセクターの統制、安定化および商業化（Regulation, Stabilization & Commercialization）である。CCC がコーヒーの売買を行うことはない。生産者価格の最低価格を提示し、遵守されるようにモニタリング、違反者には罰則を適用する。生産者への支援は ANADER と協力しての技術指導を行っており、ハード面では道路の改修や上水の整備、学校の建設など社会的側面からの支援も行っている。

支援が足りない分野は、生産者の輸出へのアクセス、投入財へのアクセスを促進するための資金と小規模企業への投資である。

2. コーヒー・カカオセクターの現状

- 同セクターへの内戦の影響はそれほど多くない。コーヒーに関しては西部での生産量は落ちたが、カカオは安定している。コーヒーの生産を増加させるためのプロジェクト（民間セクターによるプラットフォーム）が来年から始まる。
- コーヒー・カカオの生産者は今でも小農が中心。農家は組合に所属している場合は組合を通じて、無所属の農家は仲買人を通して私企業に販売する。
- カカオ豆の発酵は農家によって行われる。カカオの生産者最低価格は発酵・乾燥の状態の良いものに適応される。全国にある発酵センター（Fermentation Center）は私企業と合同で実施している品質管理プロジェクトで運営されている。
- カカオの最終加工品を作るのが目標だが達成はできない。中途加工(Semi-finished)の目標は 50%だが、現在は 35%（25%?）に留まっている。
- 発酵後の加工はほとんどが外資系大企業によって行われる。だが、国内資本の新企業ができた（ICC 社および ICP 社）。
- カカオは 95%以上が海外向け、国内向けは 5%未満。
- 2012 年 1 月に生産者価格を決定するための新しいシステムを導入した。国際市場価格が良い時に 70-80%の在庫を販売するようにし、年間を通しての平均価格を算出、生産者価格の季節変動を抑え、生産者が安定した収入を得られるようにする。このシステムは長期的に生産者価格を安定させるのに適している。
- 2012 年 10 月 30 日時点での生産者最低価格はカカオ 725CFA/kg、コーヒー 650CFA/kg。
<http://www.cgfcc.ci/>
- 買入シェア制度は継続している。これは同セクターへの新規参入を保証するためである。

3. その他

- ガニョアの ANADER 研修センターでは GIZ と協力してコーヒー・カカオのトレーニング事業を展開している。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	PAA (Port Autonome d'Abidjan)からの聞き取り調査		
日時	2012年11月30日(金) 09:00-10:00	場 所	Direction de Commerce, 2 ^{ème} étage, Direction Générale de PAA
主要参加 機関(者)	先方：M. SERY Drepoba Léandre/Directeur Commerce et du Marketing, M. Bile Koffi Jean/Chargé de Statistiques, M. VOHO Sahi Emmanuel/Assistant Directeur Commerce et du Marketing, 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M. KOFFI Niamkey Joseph/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：ANADERのアブラヤシ・ゴム分野担当である M. Adjiri の仲介で訪問が実現した。概要は以下の通り。

- PAA は農業の専門機関では無いが、港を通過する農産物の数量はすべて把握している。
- Mission 側が正確な情報を揃えてくれれば、それに応える用意はある。
- 税は通関、手数料、寄港、物品ごとに課税され、最小1%～最大50%までと幅がある。
- コメは品質（碎米率）に関わらず12～15%。
- コメは国家計画で2013-14年に自給体制の構築が目標とされている重要な作物。
- E-mail でも書簡でもかまわないので、mission が知りたい（必要としている）正確な情報を PAA の Directeur Général 宛てで Direction de Commerce に送信願えばデータを準備する。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	コートジボワール商工会議所(CCI-CI : Chambre de Commerce et d'Inductrie de Côte d'Ivoire)からの聞き取り調査		
日時	2012年11月30日(金) 15:15-16:30	場 所	商工会議所 Plateau, Abidjan
主要参加 機関(者)	先方：Mme. Marie-Gabrielle Boka Varlet/Managing Director, M. Yao Kouakou Germain/Director of Studies and Economic Information, M. Desire K. Konan/Manager Business Development and Promotion of the Private Sector, M. Yai Alexandre/Chef Departement Promotion, Mme. Dainhi Chatherine/Action Internationale 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M. KOFFI Niamkey Joseph/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(民間企業連絡先一覧表)		

●概要：「コ」国の農業関連産業の現状に関してコートジボワール商工会議所(CCI-CI : Chambre de Commerce et d'Inductrie de Côte d'Ivoire)に聞き取り調査を行った。

1. CCI-CI 概要

CCI-CIは独立前から存在し、今年で100周年を迎える。他国の商工会議所とは違い、CCI-CIは公的機関であり、国の管轄下にある。理事会のメンバーは民間企業から選ばれる。

使命は、①産業界の利益を代表し国との交渉に当たる、②民間企業が望むトレーニング(学校や語学センターを持つ)、③民間企業に対するコンサルティング・海外マーケット情報の提供、④卸市場・港・空港などの流通拠点の管理(施設を直接管理するのではなく、貿易・課税システムのチェック等)、の4つである。これらのサービスは基本的に有償で、CCI-CIの運営資金源となっている。

CCI-CIは国内40のdistrictに担当者を配している。

2. 「コ」国の農業関連産業の状況

- 食用作物の需要は都市部で増大しているが、農民の組織化があまり進んでいないことから対応しきれていない。組織化はOCPVが担当して推進している。
- 産業構造はコーヒー・カカオなど小農主体のものとオイルパーム・バナナのように大企業主体のものとは全く違う。
- 輸入米についての調査実績はあるが、国内米についての調査はやっていない。
- 農産物加工については、めばしいものはないが、小規模工場が2400社登録されている。トマトの缶詰工場は内戦前にあったが今はない。ジュースはOCAB関連で2、3の工場あるが小規模。乳製品はそもそも粉ミルクを輸入してロングライフ乳を作っているため未発達。

3. その他

- 企業情報に関しては、調査団の方で特定の産業を特定してから情報を提供してもらうことになった。
- CCI-CIに登録されている企業は156社、登録は無料。
- 中国の農業生産資材企業が西アフリカの拠点を Abidjan に持っていることは CCI-CI に知られていない。CCI-CI にメンバー登録していれば当然わかることだが、そうでなければわからない。

会議 種類	<input type="checkbox"/> 関連省庁との協議、 <input type="checkbox"/> 他ドナー協議、 <input type="checkbox"/> 民間団体・NGO 等との協議		
	<input type="checkbox"/> 日本大使館との打合せ、 <input type="checkbox"/> JICA 関係者との打合せ、 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
件名	アフリカライスセンター ブアケ研究ステーション訪問		
日時	2012年11月28日(水) 10:00~12:30	場所	ブアケ北方
主要参加 機関(者)	先方: Dr. AMADOU MOUSTAPHA BEYE (アビジャン事務所プロジェクトコーディネーター)、M. JUSTIN BELEMKOUABGA (アビジャン事務所スーパーバイザー) 当方: 南谷貴史(調査団)、M. KOFFI Niamkey Joseph/ローカルコンサルタント		
配布資料	<input checked="" type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		
収集資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input checked="" type="checkbox"/> 有 アフリカライス紹介パンフレット		

●概要:

アフリカライスは1971年に西アフリカ諸国11カ国により設立されたが、現在における加盟国は中央・東アフリカも含めた25カ国まで拡大し、国際農業研究グループ「CGIAR」に属する稲に特化した研究センターとなっている。研究センターはコートジボワール・セネガル・ベナン・ナイジェリア・タンザニアの5カ国に設立されており、研究者の総数は約140名、従来の研究拠点はコートジボワールであったが、内戦の影響を受け2003年に本部がベナンに移転されている。

ブアケからカチョラ方面へ17km北上し、左折後未舗装路で7km地点に設立されているブアケ研究ステーションは、その周囲が18kmにおよぶ700haの試験・種子生産圃場を有しており、そのうちの180haはダム湖による灌漑が可能となっている。13の実験室と201の研究室が整備されており、規模・機能ともに西アフリカでは最高の研究環境にあるといえる。

以下に、ブアケ研究ステーションにおける視察・聞き取り調査によって得られた情報を記す。

- 現在ブアケステーションには5名の技術者をはじめ、計35名の職員が勤務しているが、研究者は常勤しておらず、また総裁もコトヌにいる(内戦前は研究者だけで約50人が在籍)。
- ブアケステーションにおける現在の主要活動は種子生産であり、各プロジェクトからの要請による品質保証種子の生産のほか、各原種および原々種の更新のための栽培を継続し

ている。また CNRA（国家農業研究センター）ブアケ食用作物研究ステーションが内戦の影響で多くの種子を失ったため、再生のための活動を支援している（原原種の提供）。昨年度は約 150t の種子を生産した。

- 研究活動は停止しているため、上記の種子生産で利用している圃場以外は管理が行き届かず、荒廃している状況にある。
- ブアケステーションは内戦による被害を受けておらず、現在でも管理棟・研究棟・図書室・研究機材の何れもメンテナンスは行き届いており、一部の試験圃場とともにすぐにでも使用可能な状態を保っている。またブアケ市内にあるゲストハウスについても宿泊施設・レストランとも使用可能であった。
- コトヌ研究ステーションは臨時の施設であり、今後、徐々にコトヌからブアケに研究体制を移転したいと考えている。できれば 2013 年中に移転を開始したい。
- 近年ではチェーンバリューを中心的戦略と位置づけ、生産・加工・商品化に至るすべての工程に対してプログラムを展開している。
- 生産分野への支援としては種子生産・農民組織化・クレジット、加工分野は機械化、商品化分野ではコメの需要情報をデータベース化し、インターネットを通して農民組合に提供するサービスを開始している。
- コートジボワールにおけるコメ生産者価格は低く抑えられているため、輸入米との競争力は十分あると考えられる。問題は品質であり、調整・加工分野への支援が強く望まれる。
- 稲作分野における明確な戦略を示すことが政府に期待される役割であり、稲作振興のためにはプライベートセクターの発展が不可欠である。
- コートジボワールの稲作支援における優先順位としては、以下が示された。
 - ①加工分野（コメ品質の向上と共に、加工センターにコメを集荷することで生産量データの正確な把握が可能となる）
 - ②商品化部門（特にプライベートセクターの支援が必要）
 - ③クレジット（農業資機材にアクセスするための融資制度の構築が急務）
- 稲作振興には農業資材の確保と機械化が不可欠であり、2KR による肥料・農業機械提供の再開を強く望んでいる。

【所感】

近い将来、研究拠点をコトヌからこのブアケステーションに戻す予定としており、これは研究施設の規模・レベル等を考えると当然の成り行きであると考えられ、研究業務が進捗することによりコートジボワールのみならずアフリカ諸国全体への貢献度が高まることが期待される。

従来は新品種の開発等に代表される研究者の意向に沿った研究活動が目立っていたアフリカライスであるが、今日では生産者サイドに立った研究、すなわち農民組織化やクレジット、加工・商品化分野における普及活動に重点を置き始めており、成果を現場に還元することを前提とした研究への変化が感じられる。アフリカの農業開発を取り巻く環境の変化もあり、直接普及につながらない研究テーマに対する資金協力が得られ難くなったことも影響していると考えられるが、アフリカライスの活動戦略の変化は我が国にとっても好ましい方向であることは明らかである。ブアケステーションの復活と合わせて、今後のコートジボワール稲作開発に

においてアフリカライスと協力関係を構築できる可能性は十分に感じられる。

JICA に対しては従来から派遣している種子生産分野に加え、加工及び商品化分野への専門
家派遣を希望している。これも AfricaRice が直接的なコメ生産だけでなく、流通分野の発展を
通してコメの品質向上・安定供給に貢献したいとする新たなポリシーの表れだと思われ、新分
野への専門家派遣の実現性について検討されることを期待したい。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	AiPH (Association Interprofessionnelle de la filière Palmier à Huile)からの聞き取り調 査		
日時	2012 年 12 月 3 日 (月) 09:30-10:30	場 所	AiPH 事務所 Boulevard de Vridi, Abidjan
主要参加 機関(者)	先方：M. BERTE Abdoulaye/Secrétaire Exécutif, M. LOUO Guy Marcel/Coordonnateur Pistes, M. BROUZRO Hermann/Responsable des opérations 当方：小林裕三/総括、M. Adjiri Eby/Coordonnateur National des Filières Hévéa et Palmier à huile-ANADER		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(紹介リーフレット、ニュースレター "Elaeis", La Filière du Progrès-FIRCA、 INVITATION-AFRICA PALM OIL CONGRESS ABIDJAN 2013)		

●概 要：アブラヤシ・セクターの協会である AiPH を訪問・聞き取り調査を実施した。概要
は以下の通り。

1. AiPH とは

○ コートジボワール(以下「コ国」とする)にとって当該分野は 60 年以上の歴史を持つが、
AiPH は 2003 年に生産から輸出までのすべての専門的関係者をメンバーとする協会として発足。

2. 問題点

1) 生産性

- メンバー企業である SANIA、UOC、COSAV、UNILEVER が経営するプランテーションで
の生産に特段問題はないが、1 人当たり 3～5 ha の面積でアブラヤシを生産する小規模農家
(3 万 6000、総面積 16 万 ha、約 30 組合) の生産性は低い。
- アブラヤシの生産に国からの補助金は無く(完全な民間セクター)、商業銀行からの融資
も受けられないので投入財が少なく、栽培する品種も古いので、最大 25t/ha 生産できるところ
が、5～6t/ha にとどまっている。
- CNRA には選抜された改良品種(耐病性、高収量性)があるが、種子が高いため小規模生
産者は購入しない(在来種は 45CFA/1 粒、改良品種は 250CFA/粒)。
- 組合があるといっても十分に組織化されていないので、生産性向上、組合運営等研修が必

要。

2) 道路

○ 生産地から搾油工場までのアクセスが悪い。パームオイルは収穫後 48 時間以内に搾油加工しないと酸化してしまうので、悪路を原因とする収穫後ロスが多い。

3) 工場

○ 60 年以上の歴史を持つ分野ゆえ、搾油・加工工場の老朽化が著しい。大規模な工場は国内に約 20、小規模は 30 くらいあるが、多くはリハビリを必要とする。海外企業からの投資を望む。

○ 2 次加工（搾油以降の石けん、マーガリン等製品加工）の技術レベルが低い。より付加価値を高めて製品化し、CEDEAO、UEMOA 加盟周辺国に出荷したい。

3. 質疑応答（A：AiPH、M：Mission）

Mー日本でもファーストフード店等で提供されるフライドポテトはパームオイル由来のショートニングが使われている。周辺国といわず、欧米にも輸出できる可能性があるのではないか？

Aーまず自給、国内の需要を満たしてそれ以上を周辺国に輸出。陸路（トラック、鉄道）でも海路（約 6000t/年）でも域内輸出を行っている。コ国は RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil）に加盟しており、RSPO SCCS 認証*もとっているが、先進国に輸出する場合、インドネシア、マレーシアといった強い国と競合する。

MーAiPH の活動資金は？

Aーすべての Filière からの分担金で賄っている。

MーAiPH の人員は？

Aーパーマネントスタッフは会長 1 名、副会長 3 名、経理 1 名、専務理事 1 名の計 6 名。

Mーその陣容で研修が実施できるのか？

AーFIRCA や ANADER といったパートナーを通じて実施している。AiPH は FIRCA のメンバーであり、FIRCA に分担金を納めている。

*製造・加工・流通過程における認証制度で、認証を取得していない製品との差別化が図られる。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	Abidjan 郊外野菜生産者からの聞き取り調査		
日時	2012年12月3日(月) 14:30-15:30	場 所	Poreboue (Abidjan 空港そば) 標高：4m、北緯：05°15.427'、西経：003°57.437'
主要参加 機関(者)	先方：ブルキナファソからの出稼ぎ生産者 当方：小林裕三/総括、M. GUAYE/Chargé de la filière de légume-ANADER		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、■有		

●概要：ANADERの職員(M. GUAYE)の紹介で野菜生産者の生産地を訪問し、聞き取り調査を実施した。概要は以下の通り。

1. ヒヤリング

- 生産者は組合として組織化されているというが、組合長の名前を知らず、単に Délégué (代表) と呼ぶ。
- 組合員数も栽培面積も会費納入の取り決めも知らない。
- 土地は Abidjan 市長から許可されたものかどうか不明だが、1998年頃から栽培しているという。
- 目測、25m×100m 規模の野菜畑がいくつも連なり、ヒヤリングした畑では4名が共同で栽培している。
- 共同で栽培していても、収入は各人で、町から買いに来た女性商人に1プロットごとに売り、支払いは市場での販売後。
- 野菜はサラダ菜、タマネギ、ナスが混作され(写真1)、年間を通して水がある(写真2)ことから周年栽培している。
- 土壌は砂質で保水力が低く、腐植も少ないので肥料を投入しても効果が少ない。
- 害虫がつくからと熱心に薬剤散布をしているが、ネマトーダ(土壌線虫)による害も多く見られることから、薬剤散布以前に土壌環境の改善が必要と思われる。
- 野菜の種子はブルキナファソから入手しているという。

2. その他 (ANADER 職員からの補足)

- コートジボワール(以下「コ国」とする)では雨期に野菜が栽培されるが暑さと湿度で収穫後ロスが多い。
- 1～4月にかけて乾期作も行われるが、灌漑できる条件があるところのみ可能。
- 野菜生産の問題は①保存、②マーケティング、③灌漑、④小規模機械化
- ANADER では6つの地域で野菜種子の農家レベル増殖を CNRA と一緒に支援しており、それぞれ6つの地域に MAX10ha 規模の小規模試験場 (Petite Station Expérimentale) を設置し、季節ごとに野菜の輪作を行っている。
- コ国では野菜栽培は女性の仕事とされているが、Abidjan 市街に住む仕事にあぶれたブル

キナファソからの出稼ぎ者は郊外で野菜を栽培していたりする。本来の地主はいるので土地の又貸しみたいなものだが、視察した Poreboue は公有地なので利用の可否は市長権限だが、生産者は占拠して栽培している（黙認？）。

以上



図 Poreboue 野菜栽培地



写真1 サラダ菜、タマネギの混作

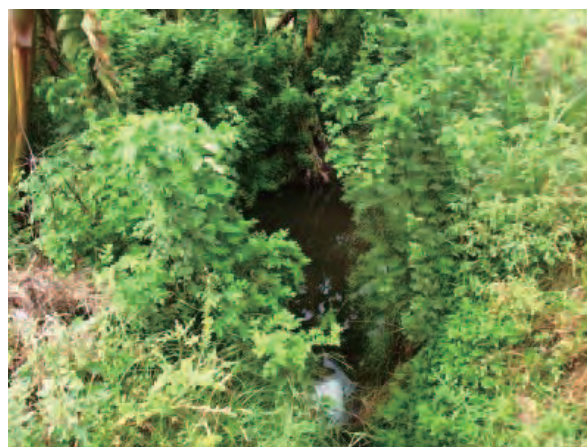


写真2 通年存在する水源

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	ANADER 職員からの聞き取り調査		
日時	2012年12月4日(火) 15:00-16:00	場 所	ANADER 事務所 Zone 4, Abidjan
主要参加 機関(者)	先方：M. Bassoumori Traore/Chargé de la filière de fruits-ANADER 当方：小林裕三/総括		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有 (CATALOGUE DES EQUIPEMENTS DE TRANSFORMATION DE LA NOIX DE CAJOU ET DES PRODUITS DERIVES DU FRUIT DE L'ANACARDIER)		

●概要：ANADERに生産者とのインタビューを依頼していたところ、北部地域に務めていた職員(M. Bassoumori)がマンゴーとカシューナッツに関する農家レベルの問題に詳しいとの紹介があったので、話を聞くこととした。概要は以下の通り。

1. 対応者の背景

- 2002年まで北部(Korhogo)に普及員として務めていたが治安悪化のためANADER総裁の裁断でBouake以北のANADER職員は全員Abidjanに避難した。2006年に治安が改善され、ANADER職員はBouake北部地域に再配置され、自分も元の任地に戻り、現在はANADERの本部職員として勤務。

2. マンゴー・カシューナッツを取り巻く問題

- 2006年に北部地域へ戻って愕然としたのは食用作物の種子、農業生産資機材がまったく無いこと。とくに肥料は高価で、農薬もワタ用のものを転用していた(本来の使用目的とはことなるので食用には不向き)。
- タマネギの種子だけはKorhogoに種子生産試験ステーションをANADERは有しておおり、Violet de Garni(ニジェール原産紫種)の種子を保存・生産している。
- マンゴーの年間総生産量は10万tのうち、6%は輸出され、3~4%は国内消費されるが、残りの90%は廃棄されている。マンゴー生産にはウリミバエをはじめとする病害虫が多く、収穫後消費地までの輸送に時間がかかりすぎるため、消費地に届くころにはその大半は腐ってしまう。収穫後すぐに加工できれば、廃棄される果実を減らすとともに付加価値のある商品化が可能(e.g.ジュース、干しマンゴー、ジャム、ピネガー)。
- カシューナッツは年間40万t生産され、3~5%が加工されている。BouakeではOLAMが2万5000t加工できる工場を建設した。収穫時期は年4ヵ月間と限られているが、今年はインド、ベトナムが豊作だったので全く売れていない。カシューナッツはToumodi以北で栽培されているがhaあたり年5人は養える(就業機会を提供できる)。
- コートジボワール(以下「コ国」とする)で加工産業が発展しないのは政策的意思の有無が関わっている。食料安全保障にも寄与できる分野であるにも関わらず国から支援は無く、銀行からも資金を借りられない状況(ランニングコスト不足)で小規模生産者レベルでの農

産物加工は厳しい。

3. 将来展望

- 現在のカシューナッツ生産量は 300～400kg/ha 程度。1997 年にブラジルから導入した **Jumbo** という品種がこれまで優良品種とされてきたが、政府および CNRA は近年タンザニアに調査団を派遣し優良なカシューナッツ品種を収集、650 の品種群から 8 種の優良品種（高収量性）を選抜、2～3t/ha の生産が見込まれる。
- 農家レベルに品種を行き渡らせるために ANADER では育苗、接ぎ木の研修を実施中。
- 収穫時に農家が使う袋をプラスチック製（通気性が悪いので保存中蒸れる）→ジュート製に変更。
- 農家が個々に生産物を販売するのは難しく、収益性も低い。ANADER では SOPA (Spécialiste des Organisations Professionnelles Agricoles) が組織化を進めており、より優位に生産者が農産物を販売できるように支援している。
- マンゴーと比べてカシューナッツは病虫害に被害が少ない（タンザニアでは多発）。
- カシューの果実部（リンゴ部）はこれまで廃棄されてきたが、搾ればジュース、ジャム、ピネガー、アルコール飲料等の多用途がある。さらに搾り粕は家畜飼料（養魚を含む）にも使える。
- インド、ベトナムという大口顧客が今年のように生カシューナッツを買わないことを考えると、2次加工（ロースト）、3次加工（ジュース、ジャム、ピネガー、アルコール飲料等）、さらには搾り粕を家畜飼料に利用するような多様性が必要であり、FIRCA でも当該 Fillière 支援のために支援（パンスレット作成、研修提供）している。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	APROMAC (Association des Professionnels du Caoutchouc Naturel de Côte d'Ivoire)からの聞き取り調査		
日時	2012年12月5日(水) 10:30-11:30	場 所	APROMAC事務所 Cocody II Plateaux Vallon, Restaurant la nuit du Saïdon, anciens bureau de la CEDEAO, Rue Jardine 107, lot 1649, Abidjan
主要参加 機関(者)	先方：M. ATTOBRA Akpangni/Secrétaire Général d'APROMAC, M. KOFFI KONAN Albert/Secrétaire Exécutif de FDH, M. WADJAS Honest/Président d'APROCANCI 当方：小林裕三/総括、M. Adjiri Eby/Coordonnateur National des Filières Hévéa et Palmier à huile-ANADER		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：天然ゴム（以下「ゴム」とする）分野の業界団体である APROMAC（ゴム専門協会）を訪問し、聞き取り調査を実施した。概要は以下の通り。

1. 設立の背景

- 1975年にゴム分野の振興を支援するため発足。政府からの支援は無い、全くの民間団体。
- ゴム生産は民間企業と小規模生産者（APROCANCI：Association des Producteurs de Caoutchouc Naturel de Côte d'Ivoireを含む2つの生産者協会有り）に大別され、両者とも APROMAC の会員。
- APROMAC は生産者を支援する目的で基金（FDH：Fonds de Développement Hévéa）を2008年に別組織として設立。同基金は生産者間の連帯による分担金を集金・プールし、必要な時に補助金として拠出する。
- APROMAC 自体の活動資金も会員からの分担金で賄われている。

2. ゴム産業の推移

- 今年の生産量は28万tだが近い将来には60万t/30万haが見込まれる（右肩上がりの成長）。
- 生産者はゴムを工場に運び込まなければ製品化も収益にもつながらない。APROMACではいかなる生産者のゴム原料でも工場は受け入れる、生産者は工場からの要請を拒まないというルールを制定し、守らせている。
- ゴム取引価格は国際価格に準拠して APROMAC は毎月定価を決めている。
- ゴムの苗木は CNRA から優良樹種が選抜され、ゴム関連企業やゴム苗木専門生産者、あるいは特別に研修を受けたゴム生産者自身が苗木を育て、他のゴム生産者に有償配布する。
- 優良樹種の研究や研修には資金が必要なので、FIRCA あるいは FDH から補助金を拠出し

て生産を確保する。ゴムは定植後6年目から30年間収穫されるが、その間のゴム生産量を担保するためにより優良な苗木を多く確保する必要がある。そのために拠出される補助金が無駄遣いされないために外部監査を実施し、質量ともに確保している。新規生産者にはMAX10ha分までの補助、従来からの生産者は20ha分を補助する。

3. ゴム生産上の課題

- ① 苗木：前述した通り、如何に優良な苗木を確保するかにかかっている。
- ② 研修：苗木生産、小規模生産者の組織化が重要。
- ③ 道路：収穫されたゴムを工場に運び込むための道路整備が急務。

4. その他

- コーヒー価格の低迷からゴム生産に転換する農業者がいて、それが作付面積、ひいては生産量の増加につながっていると側聞していたが、APROMACは事実と認めながらもそれほど多くは無いという。実際に農家レベルでのhaあたりの生産量はコーヒーの500~600kgに対し、ゴムは1t生産可能で単位面積あたりの収益も高いが、政府はコーヒー産業にてこ入れしているので来年以降は持ち直す見込み（APROMACでは政府の無駄遣いと見ている）。
- 生産年数（30年）を過ぎたゴムは伐採されるが、伐採されたゴム材は焼却処分されている。タイでは伐採後のゴム材からゴム樹液を抽出して集成材化する技術が進んでおり、日本でも白いゴム材が家具に使われている例が少なくないが、コートジボワールは森林資源に恵まれているので、森林地域から大木が伐採されて家具に使われるので、細いゴム材を集成材にするメリットは少ない。ただし、ゴムのバイプロダクトには関心を持っており、海外からの投資・技術協力があれば産業の多様化が図れると見ている。
- ゴムが収穫できる定植後6年間はゴム園からの収益はゼロとなる。食料安全保障の観点からも、植栽間に食用作物を植えて食と所得の確保に貢献する方策が考えられないか検討中。ゴム植栽面積の62%は未利用なので、空いたスペースの有効活用（食用作物の栽培化等）が望まれる。^{*}

* ゴムから発せられる揮発物質や根から放出される水分に含まれる成分が食用作物にどのような影響を与えるか研究が必要。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他		
件名	マンゴー生産者からの聞き取り調査		
日時	2012年12月6日(木)	場 所	PASEA事務所
	14:00-15:30		Caissetab 4F
主要参加 機関(者)	先方:M. COULIBARY Souleyman/Sinématialiのマンゴー生産者(COPROMASI理事) 当方:小林裕三/総括、Yavo Abel/PASEA室員		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要: ANADERに生産者とのインタビューを依頼していたところ、北部 Sinématiali の生産者を紹介してもらうことができた。概要は以下の通り。

1. 面談者のバックグラウンド

- 面談者は農家ではないが、6haのマンゴー園を経営する COPROMASI (Sinématiali マンゴー生産者組合)の理事。COPROMASIは OCAB(Organisation Centrales des Producteurs-exportateurs d'Ananas, de Bananes et de Mangues) のメンバー組合で、組合員数 1518名(現在も増えている)。
- Sinématialiは Korhogo と Ferkessedougou の間に位置し、国内総生産量(12万~15万t)の70%を生産する一大生産地(5万ha)。

2. マンゴー生産の現状

- 国内生産量の5、6%は輸出向け、約55%は国内あるいは周辺地域へ出荷されるが残り45%は廃棄されている。
- 輸出向けも国内あるいは周辺地域向けも似姿は同じ(50kg箱詰め)だが、輸出業者はいいものだけを選んで買い取るので、多くは出荷されず畑に残される。
- マンゴー園で生産されたマンゴーは一旦民間企業が設置した調整所に運びこまれ、洗浄ー選果ー予冷库に保存後、輸出業者が Abidjan に運送する。運送手段は陸路(鉄道あるいはトレーラーにコンテナごと積載)と空路(箱詰め)があり、輸送業者によってその手段は異なる。Abidjanからは空路あるいは海路で欧州へ出荷される。
- 農家は庭先で現金取引なので販売代金を取りはぐれることはない。昨年の例で、欧州出荷用の良質果実は190-200CFA/kg、域内向け果実は140CFA/kg。

3. 課題

- マンゴーには病害虫(ウリミバエ、カイガラムシ、炭疽病)の被害が多い。とくにウリミバエの害は深刻。輸出用改良品種は Ameri、Kent、Kayte の3種で、3~4月の乾期に収穫される Ameri は問題ないが、5月以降の降雨期間中に収穫される Kent と Kayte はウリミバエの餌食になる。また、ウリミバエは発生当初カシューナッツの果実部で繁殖するが、カシューナッツはマンゴー園の防風林として植えられており、カシューナッツ果実で育ったウ

リミバエがマンゴーを食害する。

- 生産地から市場までが遠いことが果実廃棄の原因ではなく、収穫期が一度に重なり品物がだぶつくことによって販路を失うことが果実廃棄の最大の原因。
- マンゴーの加工（乾燥、ジュース、ジャム、粉末）ができれば廃棄される果実を減らすとともに、収益に結びつけることができる。
- かつて Sinématiali には国が建設したトマトピューレとマンゴージュース製造加工場があったが、ある日トマトピューレの出荷直前製品が倉庫から忽然と消えたことが原因で工場は閉鎖に追い込まれた。管理体制の杜撰が原因である。

4. その他

- マンゴーの間作は植え付け当初から3年間は可能だが、それ以上は葉が茂って食用作物の栽培環境とはいえない（ゴム園しかり）。
- 北部の主食はトウモロコシ。畑の耕起は2頭立ての牛耕が一般。
- マンゴー栽培に農薬は使っても肥料は使わない。施肥すると葉が大きく広がり果実に日光が当たらなくなる。欧州向け果実は濃紫色が好まれるが、日陰ができると着色しなくなる。ただし、加工用として生産するなら果実の色を気にせず、収量も増えるので施肥はあり得る。
- マンゴー農家が融資を受けるのは困難。仮に農業金融機関である COOPEC に頼むのであれば連帯保証をとられ、借金を返済できなければ保証人が貸金者に代わって払うことになる。
- マンゴーセクターの支援に FIRCA が融資（仲介）して ANADER の研修を受けられるようになった。これはマンゴージュース加工のユニットとして実施されている。

協議メモ

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	プロジェクト「APRAO」に関する情報収集		
日時	2012年12月7日（金） 9：00～10：30	場所	ONDR 本部 APRAO 事務局
主要参加 機関（者）	先方：M. GLOUNAHO DANIEL/プロジェクトコーディネーター 当方：南谷貴史（調査団）、M. KOFFI Niamkey Joseph/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有 プロジェクトパンフレット、プロジェクトサイト画像データ		

●概要：

APRAO（Amélioration de la Production du Riz en Afrique de l'Ouest：西アフリカコメ生産改善プロジェクト）は2008年の世界食糧危機を受け、FAOの出資（総予算580万ドル）により西アフリカ5カ国（コートジボワール、マリ、ニジェール、モーリタニア、セネガル）を対象に実施中の、コメ生産に特化したプロジェクトである。

2011年に開始され、プロジェクト期間は2年、コメ価格の低減を上位目標とし、①優良種子の使用促進 ②生産システムの向上（種子・肥料・加工・貯蔵の各段階で生産者の能力向上）

③ コメ品質の向上をプロジェクト目標に据えている。

天水・バフォン・灌漑の3つの稲作形態を対象とし、モデルサイトとしてヤムスクロ、ボングアヌ、ガニョア、グランラウの4ヵ所を選定、各サイトにおいて種子生産（数ha～数10ha）および食用生産（100ha）を支援する活動を実施している。具体的な活動は優良種子使用促進のプロモーション、種子生産と食用生産のために種子・化学肥料・除草剤・耕うん機・脱穀機の提供を実施している。生産資機材は協同組合に贈与し、組合が生産者にクレジットで提供、収穫後に生産者が組合に返済するシステムを取り、機械は農民組織における共同利用を前提としている。種子生産は ONDR、食用生産は ANADER が技術協力を担当しているが（P/Jとの契約あり）、生産者に配布する種子は CFMAG に 5ha 分の原々種を提供して原種生産を依頼、これを基にプロジェクトサイトの生産者圃場にて種子増産を行っている。今後は食用生産用に、ヤムスクロの ONDR 種子調製センターからも種子の提供を受ける予定としている。栽培品種は WITA-9 と WAB-638-1（アカディ）、奨励施肥量は NPK：150kg、Urée：100kg。

● プロジェクトコーディネーター M. GLOUNAHO DANIEL の見解

- 精米部門についても精米機の導入等が必要と考えるが、今のところ予算不足で実現していない。
- 国内米振興には品質向上（不純物がないこと）とプロモーションが必要。
- コメの品種を米袋に明示して販売することで、国内米への関心が高まるだろう。
- コメ輸入業者は国内米を取り扱うことに関心があるが、一定量が確保できないことと品質がネックとなり、都市部の国内米販売量が減っている。
- 学校給食でも安い輸入米が使用されているが、これを国内米に替えることにより、子供たちに対する国内米のプロモーション効果も期待できる。
- 生産者組合が都市部のスーパーと契約し、高品質な国内米を提供することでできれば、国内米の販路は大きく拡大されるだろう。
- 農民組織がうまく機能しない理由としては、農民自らが自主的に組織運営に関わらないことが挙げられる。各人に責任を与えることが必要。
- ガニョアに種子保冷库建設の計画があるが、予算 1500 万 FCFA に対して 3500 万 FCFA 必要であり、現在ドナーを捜している。
- 今のところプロジェクトは 2013 年までであるが、新たに予算が確保されれば継続することも可能となる。2年で終了すると、プロジェクト期間中に実践された生産者の活動がまた元に戻ってしまう可能性が大きい。こうしたプロジェクトはある程度の年数を継続することで生産者の活動を軌道に乗せることが重要である。もし PASEA が再開されるなら、ヤムスクロの農民に対する研修等で APRAO と協働できる分野も多い。また PASEA が APRAO 終了後にその活動を引き継ぐことができれば、より良い成果が期待できるだろう。

以上



【写真1】
Yamoussoukro の Petit-Bouaké
における APRAO デモ圃場。
ANADER の普及員により正条植
えされている。

会議種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	カシューナッツ生産者（Cajou de FASSOU）とのインタビュー		
日時	2012年12月7日（金） 16:30～17:30	場所	BMW, II Plateaux
主要参加機関（者）	先方：M. KOUAKOU Konan Raphaël/Directeur Général, Cajou de FASSOU 当方：小林裕三/総括		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：ANADER に生産者とのインタビューを依頼していたところ、Yamoussoukro でカシューナッツ加工場（Cajou de FASSOU）経営するとともに生産者でも KOUAKOU 氏を紹介してもらうことができた。概要は以下の通り。

1. バックグラウンド

- Yamoussoukro から北西に 34km ほど入った Gangoro に 1995 年から 85ha のカシューナッツ園を経営、2006 年からカシューナッツ加工場（乾燥・ロースト・殻割り・殻むき）をドイツの民間企業（BEAR 社）からの融資を受けて設置、ARECA の会員。

2. カシューナッツ経営

- 年間 1500t を自己経営園から産し、周辺農家からも 3500t/年購入（現金取引）。農家からの購入価格は平均して 310CFA/kg、種子の質によって若干変動するが種子の質量率 55% の場合殻むき後の歩留まりは 30%、40% の場合は歩留まり 20% と落ちるので、これが品質に関連する。

- インド、ベトナムに出荷するものは殻むき無し、加工無しの原料出荷。一般に契約によって生産から出荷まで取り決められ、すべての条件を満たすと手形が郵送され、それをもって銀行で現金化する。
- 顧客はフランス、カナダ、モロッコなどで、生種子では出荷しない。
- BEAR 社から追加融資を得て来年4月には日産40～50t規模に工場を新調。
- カシューナッツは多用途、ナッツとしての食用以外に種子殻からシェルオイル、塗料原料、薬品原料が抽出できる。新調される工場では4つの製品ライン（①ローストナッツ、②種子殻製粉、③カシュー塗料、④カシューアップルジュース）を設置する。

3. 技術的問題

- カシューナッツの収穫期は3～6月までの4ヵ月、収穫後期は雨季にあたるが原料出荷の場合種子の水分量は10%以下が条件。それ以上だと船輸送中に発芽する可能性が高くなる。
- カシューナッツの収穫は完熟して自然落果したものを手作業で拾うが、この状態だとリンゴ果実部分は利用できない。落下した種子は翌日までに収穫しないと蟻の食害を受ける。
- リンゴ果実部が熟してくると甘い匂いに誘われて蜂が大挙して現れるので、収穫作業が阻害される。
- 病虫害は比較的少ない。

4. その他

- アフリカカシューナッツ協会（ACA）にビル&メリンダ・ゲーツ財団は融資しており、そのうちの500万ドルはコートジボワールに振り分けられている。
- Cajou de FASSOUのような企業経営体はOdienné、Bouaké、Toubaに見られる。
- OLAM社は3000万ドルを投資して、年産3万t生産可能なカシュー加工場をBouakéに建設した。今後Korhogo、Bondoukouにも6000万ドルを投資して建設する予定。OLAM社はCajou de FASSOUとは異なる独占的企業。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	カシューナッツ生産者（Cajou de FASSOU）とのインタビュー		
日時	2012年12月7日（金） 16：30～17：30	場所	BMW, II Plateaux
主要参加 機関（者）	先方：M. KOUAKOU Konan Raphaël/Directeur Général, Cajou de FASSOU 当方：小林裕三/総括		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：ANADER に生産者とのインタビューを依頼していたところ、Yamoussoukro でカシューナッツ加工場（Cajou de FASSOU）経営するとともに生産者でも KOUAKOU 氏を紹介してもらうことができた。概要は以下の通り。

5. バックグラウンド

○ Yamoussoukro から北西に 34km ほど入った Gangoro に 1995 年から 85ha のカシューナッツ園を経営、2006 年からカシューナッツ加工場（乾燥・ロースト・殻割り・殻むき）をドイツの民間企業（BEAR 社）からの融資を受けて設置、ARECA の会員。

6. カシューナッツ経営

- 年間 1500t を自己経営園から産し、周辺農家からも 3500t/年購入（現金取引）。農家からの購入価格は平均して 310CFA/kg、種子の質によって若干変動するが種子の質量率 55% の場合殻むき後の歩留まりは 30%、40% の場合は歩留まり 20% と落ちるので、これが品質に関連する。
- インド、ベトナムに出荷するものは殻むき無し、加工無しの原料出荷。一般に契約によって生産から出荷まで取り決められ、すべての条件を満たすと手形が郵送され、それをもって銀行で現金化する。
- 顧客はフランス、カナダ、モロッコなどで、生種子では出荷しない。
- BEAR 社から追加融資を得て来年 4 月には日産 40～50t 規模に工場を新調。
- カシューナッツは多用途、ナッツとしての食用以外に種子殻からシェルオイル、塗料原料、薬品原料が抽出できる。新調される工場では 4 つの製品ライン（①ローストナッツ、②種子殻製粉、③カシュー塗料、④カシューアップルジュース）を設置する。

7. 技術的問題

- カシューナッツの収穫期は 3～6 月までの 4 ヶ月、収穫後期は雨季にあたるが原料出荷の場合種子の水分量は 10% 以下が条件。それ以上だと船輸送中に発芽する可能性が高くなる。
- カシューナッツの収穫は完熟して自然落果したものを手作業で拾うが、この状態だとリンゴ果実部分は利用できない。落下した種子は翌日までに収穫しないと蟻の食害を受ける。
- リンゴ果実部が熟してくると甘い匂いに誘われて蜂が大挙して現れるので、収穫作業が阻

害される。

- 病虫害は比較的少ない。

8. その他

- アフリカカシューナッツ協会（ACA）にビル&メリンダ・ゲーツ財団は融資しており、そのうちの500万ドルはコートジボワールに振り分けられている。
- Cajou de FASSOUのような企業経営体は Odienné、Bouaké、Touba に見られる。
- OLAM社は3000万ドルを投資して、年産3万t生産可能なカシュー加工場を Bouaké に建設した。今後 Korhogo、Bondoukou にも6000万ドルを投資して建設する予定。OLAM社はCajou de FASSOUとは異なる独占的企業。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	在 Bingerville で ANADER の所管する研修センターの訪問調査		
日時	2012年12月11日（火）	場 所	CFBM（Bingerville-Lame 研修センター）
	10：00～13：30		標高：32m、北緯：05°21.990'西経：003°52.309'
主要参加 機関（者）	先方：M. Diomandé Lassina/Directeur de la Formation et de la Documentation(DFD), M. Soro Bakary/Chef de Division Formation(CDF), DFD, M. Koffi Kouassi/Formateur, M. Kouiti Diomandé/Assistant CDF-DFD, M. Topé Kadjo Ivon/Chef de Division Documentation(CDD), DFD, Mme. Nangboto N'Guessan Lucio/Assistant CDD-DFD, M. Kouagbeu Oueli Alsen/Coordonnateur de Formation Pédagogique, Mme. Abby Carolle/Assistant CDF-DFD 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有 Le Partenaire, Bulletin de liaison de l'ANADER N°16		

●概要：

参加者紹介後に Mission 側から訪問の趣旨を説明。その後、研修センター（以下「CFBM」とする）側から ANADER と研修センターの紹介ビデオが上映され、以下の通り意見交換・質疑応答を実施した（Cは先方、Mは当方の意）。

1. 研修センター事業について

M-CFBM はいつできたのか？

C-1958年にイスラエルの援助を受けて設立され、その後様々なドナーや国の支援を受けて現在に至る。

C-ANADERは現在4つの研修センター（Grand-Lahou、Bingerville、Kotobi、Gagnoa）を有している。紛争前は Katiola と Korhogo を含めて6つあったが、両センターは紛争の影響を受けて閉鎖した。研修センターは以下の通りそれぞれ固有の研修を実施しており、各農業分野

(filières) 開発と適合性の実現に貢献している。

- ① Grand-Lahou (CFMAG) : 稲作と農業機械
- ② Bingerville : 組合指導・管理、ウサギ飼育等一部の畜産
- ③ Kotobi : 永年生作物
- ④ Gagnoa : コーヒー・カカオ、アグチ養殖等一部の畜産

M-研修を実施するには教材 (Fiche Technique et/ou Pédagogique) が必要なはずだが、今もセンターにあるのか？

C-かつて CNRA と WB の協力を得て作成したが、多くは古く、また戦乱で失われている。仮にあったとしても、現在の事情に合っていない。教材は研修実施者や普及員が利用するもので、多くの農家は字も読めない。教材を入手する方法は①CNRA、②ANADER 本部の YAO ATTO 部長、③CFBM を通じて CNRA に照会する方法の何れかだろう。ただし、CNRA では技術的な教材はあっても費用損益・経済性に関するものは無いだろう。経済性に関しては ANADER の担当者が現実に即して計算してきたものである。

M-CFBM では現在も研修を続けているのか？

C-様々なパートナーからの要望を踏まえて実施している。多くは ANADER 職員のキャパシティ・デベロップメント、組合管理研修、ワークショップなど。

M-研修の期間はどのくらいか？

C-修士レベルの組合管理コースが1年、短期研修が2、3週間、ワークショップは2日間ぐらい。

M-研修生は CFBM で寝泊まりするのか？

C-CFBM には100人(1棟あたり4~5部屋×2床)が宿泊できる。食堂もある。

M-研修センターの紹介ビデオに FDFP (専門研修開発基金) の名前を見つけたが、FIRCA は全農業セクターの支援を行っていると聞く。FIRCA は各 filières から分担金を徴収して filières が要求する調査研究、研修などに融資していると聞くが、CFBM でも FIRCA からの融資による研修を実施しているのか？

C-Cooperative を対象とした組合管理の研修などで融資を受けている。

M-CFMAG は CEDEAO 域内で稲作農業機械の中心的研修センター (Centre de Formation International) と目されている。センターは日本が建設し、技術協力も実施したが、15年前に終了してからは日本は長らく離れている。仮に中国が協力に入ったとしても不思議ではない。

2. ANADER の事業について

M-生産者に話を聞くと農業の回転資金がなくて農業生産が思うようにできないと、皆口を揃えていうが、ANADER の Mandate には小規模農業者の支援がある。彼らを如何に指導するのか？資金へのアクセスの橋渡しを現場の普及員はしているのか？

C-すべての filières に共通していることだが、農業分野に融資する銀行は無い。マイクロファイナンスでさえも農業生産は対象外となっている。2002年の経済危機、2008年の食糧危機、長く続いた紛争の影響で国家計画にも無く、農民の組織化を図っても資金源の動員と適切な活用の実現は非常に難しい。だいたい国家には予算が無い。

ANADER は資金を融資する組織では無い。国庫補助には直接補助と間接補助の2種類に

大別される。ダムや道路建設、ANADER への補助は直接補助、ANADER や様々な公共サービスを通じて農民に便宜を図るのが間接補助。経済危機以降政府の考え方は大きく変わり、農家に対する補助金政策は無くなった。農家の生産現場には資金的問題の裏にもっと重要な問題が隠れている。

M-戦後の日本も貧しく肥料を買えない農家は少なくなかったが、日本は肥料を農家自身が作った（堆肥）。残念ながらコートジボワールではそのような創意工夫を農家がしていると聞いたことがない。今回 ANADER の OB (M. Niamkey) に協力してもらっているが、ANADER では堆肥づくりや生物由来農薬の作成・普及も行っていると聞いた。それは現在も続けられているのか？

C-ANADER は政府との契約によって最低限の小農向け公共サービスが義務づけられているが十分な時間が無く、戦争によって活動が停滞したことも影響して適合割合は低いが今でも続けている。生物由来の投入財はとくに貧しい北部で多く利用されているが、極度に痩せた土壌に有機物は ha あたり 20t 必要であり、それほどの堆肥を作ることも施用することも困難である。技術の伝播には限度がある。また、土地を肥沃にしても自分の土地でない場合（借地）が少なくないので、それほど投入したがるしない事情もある。

M-ANADER は民営化されており、普及サービスはドナーの出資するプロジェクト等の枠内で、契約ベースで実施することを原則としていることは承知している。一方で従来通り個別農家に対しての普及活動も公共サービスとして継続しているが、全農家をカバーすることは不可能であり、一部農家への普及活動に留まっている。普及サービスを実施する対象農家をどのように選定しているのか。

C-本部の方針があるので総裁に聞いて欲しい。

M-各地域でそれぞれ行っているものではないのか？

C-本部の理事会で決定した活動を各ゾーンが履行するのであって、決定者は総裁である。

M-ANADER として稲作分野の機械化に関わるプログラムを持っているか。

C-CFMAG 以外、機械化に関する活動はない。ONDR に照会して欲しい。

3. その他

C-今回の mission は農業技術的な方面で調査しているようだが、CFBM が実施しているようは組合管理の分野は支援の対象となるか？

M-Mission はコンサルタントなのでコミットできないが、調査はすべての農業分野に亘る。決めるのは日本（JICA）だが、あらゆる可能性は否定しないし、可能性がある分野であれば公平に報告する。戦後日本の農業を支えたのは農業協同組合（現 JA）であり、農業者の分担金によって成り立ち、自ら事業も行っているのが JA である。日本の組合活動の経験はコートジボワールにも活かされるだろう。



写真1 本部棟



写真2 宿泊棟

協議メモ

会議 種類	□関連省庁との協議、■他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	GIZ 訪問・聞き取り調査		
日時	2012年12月12日(水)	場 所	GIZ 事務所
	09:30~10:30		Riviera-Golf, Abidjan
主要参加 機関(者)	先方: Mme. Andrea Wilhelmi-Somé/Programme Développement Economique en Milieu Rural (PRODEMIR), Chargée de Programme 当方: 小林裕三/総括		
配布資料	□無、■有 インセプション・レポート(仏語版)		
収集資料	□無、■有 Développement Economique en Milieu Rural/Biodiversité, Opérations de Récolte et Post Récolte de la Noix de Cajou-Côte d'Ivoire 2013, Guide pratique Anacarde-Récolte et Post Récolte de la Noix de Cajou-Côte d'Ivoire 2013		

●概要:

冒頭小林から訪問の趣旨を説明。その後、GIZが実施中の3プロジェクト(①農村経済開発と生物多様性、②コーヒー・カカオ支援、③カシューナッツ支援)を中心に、以下の通り聞き取り調査を実施した。

1. 農村経済開発と生物多様性プロジェクトについて

- 同プロジェクトは2007年にスタートし来年(2013年)で終了するが、新フェーズが予定されている(現在立案中)。
- 対象となる地域は北部と南西部地域で、主に貧しい農家女性をターゲットグループとして小規模な野菜栽培、とくにタマネギ(*Violet de Galmi*)、トウモロコシ、淡水魚養殖、養豚を北部で支援している。
- Korhogoでは在来の豚品種が域内で有名なので、いい収入源となっている。

- 北部でも稲作の要望はあるが、多くの援助機関が稲作に介入しているので、GIZ はあえて手を出していないが、日本が GIZ との共同を望むのであれば相応の予算を分担し、それぞれが得意な分野で技術的に補完し合うことは可能と思われる。来年から新たにスタートする新フェーズの対象も北部と西部なので、当該地域で共同できればありがたい。

2. コーヒー・カカオ支援

- とくにカカオの生産から収穫後処理まで農民学校を開催して生産者を支援している。
- また、ANADER の有する Gagnoa 研修センターでコーヒー・カカオ研修を支援している。
- 事業予算はドイツのスーパーマーケット・チェーンが良質なカカオを自前で入手するために GIZ を通じてプロジェクトに投入しているものである。同スーパーで販売されるチョコレート 1kg あたり 1 セントをプロジェクト用にプールしている（いわばチョコレート基金のようなもの）。
- カカオを欲するチョコレート産業界が望む認証を取得できるように生産現場を支援している。カカオ産業支援には多くのパートナー（フランス、カーギル、スイス、ドイツ他）が存在する。それぞれがカカオの認証基準を持っていて、それに合致するようにしている。とくに生産環境への配慮が重要で、不当に子供が農園で働かされていないか？農薬が他の土地に拡散しないか？農薬が水資源を汚染しないかなども認証取得に求められる。
- GIZ のプロジェクトといっても GIZ だけのものではなく、プロジェクトユニットを形成して、そのユニットに各ドナー予算がプールされ、また各ドナーに予算の用途説明がなされる（Common basket 方式）。

3. カシューナッツ支援

(1) 聞き取り

- 生産者、加工業者、加工場を支援するために複数のドナー予算（OLAM、GIZ、etc）がプロジェクトに投入されている African Cashew Initiative（ACI）の一環として協力しているものである。ACI の対象はコートジボワール（以下「コ国」とする）をはじめベナン、ブルキナファソ、ガーナ、モザンビークの 5 カ国で、カシューナッツ生産者の生産性を向上させるだけでなく、貧困を持続的に軽減することを目的としている。
- GIZ は資金援助の団体ではないので、必要とされる投入財を確保し、技術者を投入して生産者を指導している。
- GIZ の活動は ARECA とも連携しており、民間セクターの要望を踏まえている。

(2) 質疑応答（K は小林、S は Mme. Somé の意）

K—先般 ARECA を訪問した際に Noix de Cajou ではなく、Pomme de Cajou（果実部位）が全く利用されること無く捨てられている現状と、多用途（ジュース、ジャム、ケーキ、アルコール飲料、ピネガー等）の可能性があると聞いた。GIZ では協力の対象外か？

S—話は聞いたことがあるが、新たな商品を開発する前に市場があるかが問題。確かに Pomme de Cajou は利用価値があると思うが、Noix de Cajou は完熟落下後の種子を必要としており、枝に着いたままでは完熟とはいえない。一方で落下してしまつたら果実部位は腐敗して加工できなくなる。Burkina Faso の例で台湾の協力でソルガムをアルコール飲料として加工販売するプロジェクトがあった。同国では農村部でもともとソルガム由来のアルコール飲料が飲

まれていたので商品化しても市場はあるが、これまで消費する習慣のなかった新商品を開発するならば市場の有無が重要となる。

Kーこれまで通り、Noix de Cajou を加工せずに販売した方がいいのか、それとも新商品として果実部位を加工するのか、どちらの収益性が高いか、あるいは要求されていか、選ぶのは生産者であり、消費者である。

4. その他

(1) 質疑応答 (K は小林、S は Mme. Somé の意)

Kーコ国は他の周辺国と比べて加工産業が発達していないように思われる。

Cーコ国だけでなくアフリカ全体にいえることだが、人口の約 80%は農村に住居している。農村地域で高度な機械を見ることはない。工業化の遅れがより顕著に現れたのが農村地域ではないか。食品加工品を作るなら品質が問われる。品質のいいものを作るとなると地場産の加工機械を持たない国は諸外国から買わざるを得ないが、結果非常に高くつくので、自らが生産したものより諸外国から商品を買った方が安いという逆転現象が起きている。すべての filières で損益分析をする必要がある。また、労働者の問題も顕著で、工場労働者とコーヒー・カカオ、ゴム園の作業員は競合関係にある。

Kー今次調査でヒヤリングすると、加工業の遅れは国家の政策に関係する。国家が加工産業の振興を望めばその方向で動き出すが、国家の意思がなければ動かないと。

Cー政策の問題は重要だが、もう一つは資金をどうやって調達するか。現行の商業銀行は農業には融資しない。

KーGIZ は日本同様 2 国間協力の下でプロジェクトを実施しているので農業省と MOU を結んでいると思う。

Cー当然だ。よかったら MOU を e-mail 添付で提供しよう。

Kー研修事業や生産者への指導は ANADER と協働しているのか？

CーANADER はパートナー機関の 1 つだが、いつもではない。オイルパームやゴムはそれぞれ企業経営されており、各企業体が指導員を有している。苗畑の管理や農家指導も彼らが行っているため、GIZ も filière によっては民間企業と協働している。

(2) 話題にしたプロジェクト関連のレポートを後日 e-mail で入手することとした。

会議 種類	<input type="checkbox"/> 関連省庁との協議、 <input type="checkbox"/> 他ドナー協議、 <input type="checkbox"/> 民間団体・NGO 等との協議		
	<input type="checkbox"/> 日本大使館との打合せ、 <input type="checkbox"/> JICA 関係者との打合せ、 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
件名	Grand-Lahou の訪問・聞き取り調査		
日時	2012 年 12 月 13 日 (木) 10:50~16:00	場 所	N’Gorankro (野営地)、Dida 村、Grand-Lahou 標高: 63m、北緯: 05°13.080、西経: 005°09.741
主要参加 機関(者)	先方: M. Kra Alain/オイルパーム生産者、M. Kouadio N’Guessan Francis/ゴム生産者、 M.Kouame Brou Jean-Louis/カカオ生産者、M.ILBOUD Koudtiga dit Joenmy/ コーヒー生産者 当方: 小林裕三/総括、M. Adjiri Eby/Coordonnateur National des Filières Hévéa et Palmier à huile, ANADER		
配布資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		
収集資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		

●概要:

ANADER (M. Adjiri) の仲介で、Grand-Lahou 在住の農業生産者(カカオ、コーヒー、ゴム、オイルパーム)との面談と生産現場訪問を実施した。概要は以下の通り。

1. 背景

N’Gorankro は移住者の campement (野営地) で、Dida 村内に位置する。N’Gorankro ができたのは 1987 年、13 世帯が暮らしている。同地ではカカオ、コーヒー、ゴム、オイルパームという換金作物を生産する傍ら、キャッサバ、ヤム、ナス、プランテン・バナナ、ラッカセイといった食用作物も自家消費用に栽培している。Grand-Lahou には Bas-fons (内陸小低地) が点在するが規模が小さく、また水が多すぎるので稲作は行わないという。自家消費用の主食としてコメも食するがすべて買っている(輸入米)。Grand-Lahou 周辺では稲作が行われていないので、ローカル米を買うことは無い。土地は Dida 村長からの借地で、1 世帯あたり 2 万 CFA/年借地料を納めているが、面積は関係無いという。従来から Dida 村では農業はあまり行われていなかった(人口が少なすぎて)ので借地は簡単だったが、最近移住者が増えてきた(N’Gorankro 以外)ので面積を拡充することはできない。

2. オイルパーム

- オイルパーム生産者の M. Kra Alain より聞き取り。
- 生産地 4ha+5ha、計 9ha を有し、CNRA から購入した改良品種を栽培(写真 1)。
- 収穫期は 1 月~6 ヶ月で各月 2 回収穫する。
- オイルパームは投入財を多く必要とし、株下半径 1m は除草剤を散布して雑草を抑え、肥料を投入する。
- オイルパーム園には意図的にマメ科植物 (*Pueraria mirifica*¹) が植えられ、雑草の繁茂を抑制するとともに、チッソ供給源の 1 つにもなっている(写真 2)。
- オイルパームは収穫後 48 時間以内に加工場へ持ち込んで処理しないと酸化するので、

¹ タイ北部やミャンマーの山岳地帯など、亜熱帯地域の落葉樹林に自生するマメ科クズ属の植物。

ILOBOにある加工場を中心に半径30km圏内のオイルパーム園では工場が計画集荷している。この範囲を超えるオイルパーム園は集荷されないなので自分で運搬する必要があるが、舗装道路まで運べればトラックが集荷する。

- 殺虫剤の使用量は多い。
- 定植後3年目から収穫可能となり、約30年間は収穫できる。
- 生産年数を経過したら更新するが、伐採したヤシからは樹液を採集（バンギー²、クトク³の原料）するか、朽ち果てさせてキノコの菌床とする。



写真1 M. Kraのオイルパーム
(標高: 18m、北緯: 05°15.077'、
西経: 005°07.929')



写真2 オイルパーム園に広がる
Pueraria mirifica

3. ゴム

- ゴム生産者 M. Kouadio N'Guessan Francis より聞き取り。
- 7haのゴム園を有しているが、2007年から始めたのでまだ収穫はまだ無いが、3.5t/7haが年間生産量として見込まれる。カカオ園6haと小規模の自家消費食用作物を栽培しており、ゴムはそれまでの蓄えで始めた。
- 種子は近隣のゴム園で無償入手(写真3)し、改良品種の接ぎ穂(GT1)を民間業者(IDH)より200CFA/本で購入。GT1は耐風性、耐病性に優れるが、収量性は他の改良品種と比較するとやや劣り、収穫も7年目からと遅い(晩生)。
- 播種後6ヵ月で接ぎ木、植栽間隔は6m×6mでhaあたり555本移植(写真4)、ゴムは播種後6、7年目から収穫が可能となり、約30年間収穫できる。収穫方法は縦に傷をつける方法と円周に傷をつける方法の2種類あり、個体差を見て決め、採集量の多寡によって収液カップの大きさを変える。
- 収穫できる成木になるまでは地面に日差しがあたるので、キャッサバ、ラッカセイといった食用作物も混作できる。
- 栽培管理上雑草防除が大きな作業で、年4回除草剤をまくほか、手作業でも除草する。除草剤(Glyphosate)は7000CFA/kg/袋でhaあたり2袋使用する(9万8000CFA/7ha)。
- その他の投入財としてhaあたり尿素50kg/袋×3袋、人夫賃は月2万CFA/人×3人。
- ゴム生産者組合(Cooperative)はあるが、まだ植えた(planteur)だけで生産していない

² 樹液のアルコール発酵飲料。

³ 上記蒸留酒。

ので組合員にはなれない。

- 生産されるゴムは IDH に加入登録すれば全量引き取ってもらえ、同売却益は別途開設する COOPEC の口座に振り込まれるようにする。
- 栽培上の問題点は苗の定植時に降雨が多いと育ちが悪く、再植が必要となる。



写真3 ゴムの種子（在来種）



写真4 定植後の接ぎ木苗

4. カカオ

- M.Kouame Brou Jean-Louis より聞き取り。
- 1989年よりカカオ栽培を始めた（23ha）。収量は1.5t/ha、品種は人から無償入手したガーナの在来種で、改良品種ではない（写真5）。
- 播種後3～5年後に収穫が開始され、30年でも50年でも100年でも収穫可能（土地の肥沃土に左右される）。
- 植栽間隔は3m×2.5mでプランテーション・バナナやオレンジが間作され、成木前はキャッサバ、タロイモ、トウガラシ等食用作物が栽培される。
- 投入財は予算上除草剤以外使わない。去年は投入財に30万CFAもかかった。使えばたくさんとれることはわかっているが、作物残渣や動物の糞尿以外使っていない。
- 人夫は3名雇っている（@26万CFA/人/年）。
- 組合に加入しており、収穫物は組合を通じてGrand-Lahouの商人に売る（組合は組合員と現金取引）。
- 組合加入料は1万5000CFAで、入会すると以外年会費も払っていない（組合からも請求がない）。
- 産地仲買人がたくさん来るので、彼らにも販売することがある。
- カカオは開花後5、6ヵ月で収穫できる（写真6）。収穫期は10～2月頃までで、収穫後はカボス（カカオの実）を割って白い果肉のついた種子を黒いプラスチック（昔はバナナの葉）にくるみ、1週間ほどで発酵し、その後4～7日かけて天日乾燥させた種子を販売している。
- カカオは剪定（①全枝剪定 or②1本残して剪定）して新しい枝を出させ、2年後から再収穫開始。
- カカオは病気が多いのが難。



写真5 幹になるカカオのカボス



写真6 カカオの開花とミニ・カボス

5. コーヒー

- コーヒー生産者 M.ILBOUD Koudtiga dit Joenmy より聞き取り。
- 1985年生産を始めた。コーヒー園は4.25haあるが、間作としてカカオ、ゴムも植えている。
- 若い頃は4300kg収穫できたが、今は少ない。
- 1995年600CFA/kgで売っていたが、今年は550CFA/kgで販売した。
- 組合には入っていない。商人や企業と結託している組合を信じていないし、産地仲買人がたくさん来るので、組合に入会する必要も無い。
- ネッスル他企業と契約をした経験は無い。
- コーヒーの収穫期は10～12月の3ヵ月、品種は在来種、播種後3年目から収穫を始めた。
- とくに病害虫の被害が多いということはないが、人に噛みつく蟻が多い。
- 人夫は頼まない。息子と2人で仕事をしている。



写真7 収穫が遅れたコーヒーの実(チェリー)



写真8 コーヒー樹に巣を作る蟻

6. その他

リヤリング後に Grand-Lahou 農業機械化訓練センター (CFMAG) に立ち寄ったが就業時間後だったので圃場管理人夫とガードマン以外いなかったなので話を聞くことができなかった

が、稲作圃場は視察した。一見して移植では無く直播栽培であることがわかる。雑草（ヒエ、アワを含む）も繁茂しており、これで APRAO から種子生産を請け負っているのかと思うと残念でならない。



写真 9 APRAO から請け負った種子生産圃場



写真 10 直播栽培で雑草が多いことがわかる同圃場接近画像

会議種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、■その他		
件名	コラ生産者からの聞き取り調査		
日時	2012 年 12 月 14 日（金） 16：30～18：00	場 所	PASEA 事務所、Caistab 4F
主要参加 機関（者）	先方：M. Assemien KOFFI/コラ生産者 当方：小林裕三/総括、M. Adjiri Eby/Coordonnateur National des Filières Hévée et Palmier à huile, ANADER		
配布資料	□無、□有		
収集資料	□無、□有		

●概要：

ANADER (M. Adjiri) の仲介で、Gomon 在住のコラ生産者と面談した。概要は以下の通り。

- Sikensi のそば Gomon 村に住み、父親から譲り受けた 8ha の農地でコラ (1ha)、カカオ、ヤムイモ、タロイモ、プランテーション・バナナ、野菜を栽培する (混作栽培)。
- コラは 2009 年から始めた。種子 (改良品種) を Divo にある CNRA から購入、9～10 月が収穫期。
- 植栽は 1a あたり 5 本植えて 500 本/ha。播種後 9 日程度で出芽し、育苗 6 ヶ月の苗を定植する。4、5 年で最初の収穫があり、以降カカオ同様長期に亘って収穫できる。
- 肥料は毎年尿素を 5 袋 (50kg/袋×5) 施用。
- コラは保存性に優れているが、農家では長期保存できないので収穫後 1 ヶ月以内には売却する (現金取引)。コラ集積の中心地は Abidjan の Anyama で取り扱い業者は 1 年間貯蔵でき

る倉庫を持っている。

- 村には Pisteur と呼ばれる産地仲買人が現れ、彼らが畑で購入したコラのカボスを村に運び込み、カボスを割ってコラナッツ (Noix) の塊を大商人に販売し、大商人は Anyama でアチャケと呼ばれる樹木の葉に塊からほぐしたコラナッツ (Noix) を包んで保存する (冷蔵不要)。生産者が取引する Pisteur はほぼ固定され、1回の取引量は 50~100kg。
- 売値は 125~150CFA/kg とシーズン中は安値だが、シーズンを外れると 700CFA/kg にもなる (12月の価格)。概ね6月頃から少しずつ収穫され、9、10月が最盛期となり、12月頃が収穫後期とされている。
- 収量は 1t/ha。
- 組合は無い。
- 生産上の大きな問題は回転資金が無いこと。このことによって input も少なくなる。また、リスやネズミの食害を受ける。
- 主食の比重はプランテン・バナナ>タロイモ>コメ (輸入米) の順。

以上

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	■日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	日本大使館で調査内容の意見交換		
日時	2012年12月14日(金) 15:00~16:00	場所	日本国大使館 大使室 alpha 2000
主要参加 機関(者)	先方：井上 進/特命全権大使、徳若正純/一等書記官 当方：小林裕三/総括、南谷貴史/稲作開発、藤野/JICA事務所		
配布資料	□無、■有 コートジボワール国農業分野情報収集・確認調査団中間報告 —稲作分野—		
収集資料	■無、□有		

●概要：

冒頭、JICA 藤野所員より調査の概要を説明し、配布資料を基に小林、南谷両名より調査団中間報告を行った。以下、意見交換。

大使—コートジボワールにとって農業の重要性はかねてから政府関係者が口にしていて、わが国としても同分野の協力は是非進めたいところである。とくに稲作は日本がアドバンテージを持っている分野であり、保存性が高いコメは食料安全保障にも十分貢献できる。コ国政府は将来的な輸出も視野に入れたコメ増産を推進しており、日本はこの分野に協力できるノウハウを有していると思われる。生産だけでなく、流通面の支援も重要と考える。

大使—他の作物の可能性は？

小林—ご案内の通り今次調査は稲作支援を優先しながらも他の作物の調査も行っている。ワタ

は政府が補助しており、コーヒー・カカオ、パームオイル、ゴムといった換金作物は民間企業が囲い込んでいるので、域内に流通する食用作物、収穫後以降半分以上が廃棄されるという野菜・果樹の加工・商品化は政府・生産者ともに期待する分野である。

大使－PASEA に対する期待はそれほど高いのか？

南谷－PASEA の位置する Yamoussoukro は中部・中北部地域の中心であり、周辺地域は生産性が高い灌漑稲作が中心である。10 年のブランクを乗り越え施設は維持管理されており、C/P も残っている。この人的・物的資源を活用しない手はない。

大使－先の G8 会合に参加した際、コートジボワール参加者から 1960-70 年代の農業風景のフィルムが上映されたが、大型機械がたくさん稼働し、今以上に発達していたのではないかと思われる程であった。

徳若－流通する国産米の割合として Abidjan が 0%、Bouaké が 57%、Yamoussoukro が 87%という数字は以外であった。確かに Abidjan ではまず見ることがない国産米だが、その品質はそれほど悪いのか？

南谷－収穫後の脱穀・乾燥処理の段階で夾雑物（石や雑草の種）が混入するケースが多く、精米機の能力にも問題があつて粒が不揃いである。

徳若－他のドナー、とくに中国の動向が気になるが、何か情報は掴んでいるか？

小林－Divo で 450ha の稲作プロジェクトが古くからあるが、その全貌は未だにわからないが、Toumodi で農家を訪問した際、同プロジェクトから中国品種を分けてもらって試作していると聞いた。同プロジェクトはプロモーションのように種子を中部・中北部地域の稲作農家に配付しているとも聞いたが、いったい誰が買い、誰が食べるのかがわからない。また本当に中国の品種なのかもわからない。

南谷－中国の農業機械販売代理店は調査した。日本が 2KR を再開するのか気にしていたが、例え再開されたとしても戦中撤退しなかった中国には揺るぎないほどの自信が垣間見えた。しかしながら中国製農業機械の性能は非常に低く、農民には不評である。

小林－2月の第二次調査では中国大使館を訪問してみたい。また、今回訪問が叶わなかった他のドナーも候補と考える。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議	
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、■その他	
件名	Morounou 州 Bongouanou 県、Arrah 県、M'batto 県における農業省が提案するプロジェクトサイト視察	
日時	2013 年 1 月 7 日（月） ～9 日（水）	場 所 ARRAH, KOTOBI, BONGOUANOU, M'BATTO
主要参加 機関（者）	当方：南谷貴史/稲作開発、農業省計画局：M.Djiré Adama PASEA 事務局：M.Yavo Abel, Directeur Cabinet Développement Conseil Général Bongouanou：M. Kanga Koffi Arbert, 農業省 Bongouanou 地方局長：Mme. Koffi Adjoya Emma,	
配布資料	■無、□有	
収集資料	□無、■有（プロジェクト計画書）	

●概 要：

NZI-COMOE 地方南部の Morounou 州は従来からコーヒー・カカオの栽培が盛んであり、近年では天然ゴムの生産も開始され、換金作物を中心とした農業開発が展開されてきた。一方で豊かな自然環境を利用した食用作物栽培も盛んであるが、優良種子の入手が困難であることと、灌漑農業への投資が少ないことで、その生産量は伸び悩んでいるといえる。こうした背景を踏まえ、「コ」国政府は首相府主導の下、開発計画省傘下の BNETD（BUREAU NATIONAL D'ETUDES TECHNIQUES ET DE DEVELOPPEMENT：国家技術調査開発事務局）により Morounou 州における農業投資 F/S 調査を 2004 年に実施し、その結果、Bongouanou 農業多様化プロジェクトを立案している。この素案に基づき、農業省は「Morounou 地区食用作物（コメ・トウモロコシ）種子生産モデルプロジェクト」、「野菜・食用作物灌漑生産プロジェクト」の 2 つを提案し、現在ドナーを募っているところである。

上記 2 つのプロジェクトは活動拠点やモデルサイト等の選定を既に済ませているわけではなく、また活動の詳細についても未定な部分が多い。このため今回の視察においては、コメを中心とした生産圃場・開発可能地・生産者組織等を視察し、当該地区の農業生態環境や水文条件、組織化の進展具合を判断することで、将来的なプロジェクト実施の可能性を探ることを目的とした。

以下に提案されているプロジェクト 2 件の概要を記す。

プロジェクト名	Morounou 地区食用作物（コメ・トウモロコシ）種子生産モデルプロジェクト
対象地区	Arrah 県、Bongouanou 県、M'batto 県（Morounou 地方）
背景および現状の問題点	Morounou 地方は農業収入の 62.5%が食用作物および野菜栽培であるにもかかわらず、生産性向上には欠かせない優良種子が不足していると同時に、農業資材の供給網が整備されていない。
プロジェクト目標	生産物の単収向上のため、優良種子と農業資材を安定的に供給する

期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> * 優良種子使用割合が 50%となる * 生産物の単収が 20～33%増加する * 生産物の販売割合が 50%に増加する * 生産者の所得が 20%向上する
成果の指標	<ul style="list-style-type: none"> * 生産者が使用する優良種子量 * 優良種子および農業資材の生産者数または供給者数 * 生産物販売量
指標データ入手先	<ul style="list-style-type: none"> * プロジェクト報告書 * 県議会報告書 * 農業省地方支局報告書
プロジェクト活動	<ul style="list-style-type: none"> * 種子・苗増産農家支援 * 都市・農村間の種子・苗および農業資材流通網の構築 * 原種生産研究分野への支援 * 種子・苗の品質保証・検査・販売促進に関わる支援 * 国内・国際経済オペレーターに対するマーケティング活動
プロジェクト期間	3年
プロジェクト予算	7億 7096万 6000 FCFA
出資計画	県議会 3%、受益者 7%、ドナー 90%
実施機関	県議会
その他 C/P 機関	農業省地方支局、ANADER、生産者組織および農業資材供給者組織
受益者	生産者、農業資材生産者および供給者
前提条件	国家の政治意志、食用作物生産者の若さ・活力
リスク	農道の整備状況、飛び地になった生産地区、クレジットと農業資材供給者へのアクセス

プロジェクト名	野菜・食用作物灌漑生産プロジェクト
対象地区	Arrah 県、Bongouanou 県、M'batto 県 (Morounou 地方)
背景および現状の問題点	Morounou 地方には 38 の灌漑施設が存在し (ダム 16、貯水池 22)、灌漑面積は 26.5ha を有するが、これら施設は 1980 年代に整備されたものであり、老朽化が激しい。また同地区には多くのバフォンが存在するが、その多くは未整備である。
プロジェクト目標	野菜および食用作物の灌漑生産を促進する
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> * 灌漑施設 38 ヶ所のリハビリ * 新規野菜栽培面積を年 50ha 拡大 * 野菜栽培生産者 100 名の育成 * 乾期の食用作物生産者 500 名の育成
成果の指標	<ul style="list-style-type: none"> * 灌漑施設のリハビリ件数 * バフォン整備面積 * 生産者育成数 * 生産物販売量
指標データ入手先	<ul style="list-style-type: none"> * 県議会報告書 * 農業省地方支局報告書 * 現場訪問調査
プロジェクト活動	<ul style="list-style-type: none"> * リハビリが必要な灌漑施設目録の作成 * 整備するバフォンの目録作成 * 整備対象地区の土地所有者の特定、リハビリ・開発条件の確認 * 対象地区の調査・リハビリ * 生産者・販売者・灌漑施設管理者の選定および育成 * 生産者に対するクレジット・農業資材調達支援
プロジェクト期間	3 年
プロジェクト予算	3 億 5000 万 0000 FCFA
出資計画	県議会 3%、受益者 10%、ドナー 85%
実施機関	県議会
その他 C/P 機関	農業省地方支局、ANADER、開発関係者
受益者	Morounou 地方生産者
前提条件	耕地の確保、若者・女性の参加
リスク	クレジットへのアクセス困難、指導・研修機会の不足



図 1 訪問地区（赤丸）

● 視察地区の詳細

【COPRORIZ Abongoua（Arrah, Abongoua）】

COPRORIZ Abongoua はコメ生産者組合（Cooperative）であり、近隣の5ヵ村における農民組織を統合して2012年に結成されている。組合員数481名、圃場面積は539ha、多くは陸稲栽培であるが、パフォンでの稲作も近年開始されている。組織の主活動は生産者から籾の買取り・精米・貯蔵・販売であり、組織メンバー以外の農民からも籾を買って取っていることから昨年度の精米量は4200tに及んでいる。精米機は約25年前にAbongouaの農民組織が導入した中国製が稼働している。

組織には役員11名が専任されており、Cooperativeとしての活動は活発といえる。組合員の生産物は基本的に組織が全量買い取るため、農民は籾を精米所まで輸送し販売することとなる。その後の精米や風選、袋詰め、販売等はすべて組織としての活動となり、販売による収益が役員報酬に当てられるという理想的な組織運営体制が構築されている。



【写真1】
農民のより建造された穀物貯蔵庫

穀物貯蔵庫やコンクリート製の乾燥場もすべて農民により整備されている他（写真1、2参照）、脱穀機や唐箕（選別機）も自ら製作している等（写真3参照）、外部からの支援・働きかけがないにもかかわらず **Cooperative** としての活動は多岐にわたり、また実質的に機能している貴重な事例といえる。とくに販売面ではオリジナルブランドのコメ袋を作成し（写真4参照）、アビジャンのコメ卸売業者と直接取引しており⁴、こうした流通・商品化における積極的な展開は他に例を見ないものといえよう。

組織代表者が指摘する問題点としては、農民に対する技術指導が不十分であること⁵、生産拡大には耕うん機が必要であること、精米機の性能が悪く（写真5参照）、販売促進には品質向上が急務であることが挙げられた。



【写真2】
コンクリートが打たれた籾乾燥場



【写真3】
自家製の唐箕（選別機）

⁴ 販売単位は10～20t。

⁵ ANADERの普及員が来ることもあるが、普及指導は不十分。



【写真 4】
オリジナルブランドのコメ袋



【写真 5】
精米の品質向上が販売促進のカギ



【写真 6】
Cooperative のカレンダー

【EHUOLO Andé (Kotobi, Andé)】

EHOULO は構成員数 20 名（女性 19 名）の生産者組合であり、組織名はバウレ語で「友情」を意味する。2003 年に農民により自主的に設立され、コメ・トウモロコシ・ラッカセイ・ナス・オクラ等の生産による多角経営を目指した組合活動が認められ、2008 年から FAO 出資による ANADER の種子生産プロジェクトが 1 年間実施されている。トウモロコシ・ラッカセイ

の種子を生産したものの、販路が確保できなかったことにより、現在では種子生産は中止されている。

種子生産には生産面の技術的フォローだけでなく、肥料等の投入材・貯蔵・輸送・販売各面で条件が整備されていることが求められるが、こうした配慮が足りないままの生産支援であったために活動の継続性が保たれなかったことは、農民自身も認識している。生産者支援のあり方を改めて提起する事例として、今後の協力活動にその教訓をどう生かしていくかが問われているといえよう。

【YEFETIO (M'batto Diekadiokro)】

農民個人での脆弱な生産形態の強化を目的に、2009年に設立された生産者組織であり、組織名はバウレ語で「連合する」を意味する。構成員は30名(女性7名)、トウモロコシの食用および種子生産と養蜂を主な活動としている。養蜂はUNDPの出資により過去に1年間のプロジェクトが実施され、現在でも蜂蜜生産を継続している。トウモロコシの種子生産はANADERからの技術指導により開始され、前作期は8.5tを生産した(通常年2回作付け)。

生産した種子は町の市場で販売する他、卸売商が村に買取りに来ることもあるが、決まった販路はなく、安定した販売体制が構築されているとはいえない。このため、生産拡大の意志はあるものの、販売・流通面をどう補強するかが課題となっている。

また、生産圃場は借地であり、農地拡大に制約があることも生産の阻害要因となっている。「コ」国では農地の取得を容易にする土地制度改革政策が進められているが、地方における土地問題は依然として開発のネックとなることが多く、案件形成の際には注意が必要である。

【CODERIZ Assoumoukro (Assoumoukro Bongouanou)】

コメ生産に特化した生産者組織であり、2010年に設立されている。組合員は33名、村に隣接するバフォン約30haでWITA-9が作付けされており、無施肥栽培における単収は約1.5tである。ONDRの前身であるPNRがバフォンを整備したとされるが、貯水設備・水路等はなく、生産圃場は未整備に等しい。その他、外部からの支援としては2010年、FAO出資のプロジェクトにより中国製耕うん機1台が導入されたが、既に故障して不動となっている。またコメ生産プロジェクトAPRAOの対象圃場となったことから、14ha分の種子の提供を受けている(写真8)。

販売は精米所に籾を持ち込む他、精米後に市場にて販売、またアビジャンから来るコメ卸売商へも販売しているが、基本的に農民個人によって行われている。一方で稲作作業全般にわたり組織メンバーによる共同作業が行われており、組織としての実質的な活動が認められる。提示された問題点としては、バフォンに貯水設備がなく作付け時期が限られること、肥料が投入できないため無施肥栽培であること、種子の入手が困難、耕うん機・精米機のないことが挙げられた。



【写真 7】
Assoumoukro のバフォンにおける収穫作業



【写真 8】
FAO から提供された品質保証種子



【写真 9】
生産圃場に散見される異株（品質保証種子にも異品種が混入）

【灌漑稲作圃場（Bongouanou）】

Bongouanou 市内には 1970 年代に整備された灌漑施設（ダム）が整備されており、その下流部には数十 ha において稲作が行われていた⁶。しかしながら今回の視察時においては、その作付面積は約 0.5ha に留まっており、その他は作付け放棄されている状況であった。

⁶ 2000 年時点において、広範囲にわたり稲作が行われていることを確認している。

この地区の耕地は1人の地主の所有地となっていることから、過去に耕作していた農民もすべて地主から土地を借り受けており、常に立ち退きの不安を抱えた上で稲作を営んでいた。現在、地主自らが耕作する約0.5ha以外の耕地は利用されておらず、農民たちの不安が現実のものとなったといえる。

今回の視察では地主に会うことができなかつたため、農民たちが立ち退かされた理由を確認するには至らなかつたが、ダム下流という農業適地が一部の地主に管理されている現状は問題が多いといえる。前述した生産者組織「YEFETIO」において耕地拡大の障害となっている土地問題も同様であるが、農業省地方局または県レベルにおける地方政府介入の可能性も含め、問題解決の道筋を探ることが必要と考える。



【写真 10】
Bongouanou の灌漑稲作圃場

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	農業省計画局（DPPF）での補足調査		
日時	2013年2月5日（火） 11：00～12：00	場所	農業省 12F DPPF 局長室
主要参加 機関（者）	先方：M.Comoe Bernard/Directeur、Melle.KOUASSI Jeannine/農業金融担当官、 M.DJIRE Adamo/農業土木調査官,DPPF、M.Yavo Abel/PASEA、 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Djenzou/通訳、M.Joseph Koffie NIAMKEY/ローカルコンサルタント		
配布資料	□無、■有（現地調査日程）		
収集資料	■無、□有（ただし、後日 E-mail 添付にて下記資料を入手） ①RAPPORT GENERAL DE L'ATELIER SUR LA STRATEGIE DE FINANCEMENT DES EXPLOITATIONS AGRICOLES, 29-31 OCTOBRE 2012 ②同 Atelier sur la stratégie de financement des exploitations Agricoles, Synthèse des travaux groupe 2 (ppt) ③同 GroupeTravailN°1 (Excel) ④同 Atelier financement groupe 2 (Excel) ⑤ PROJET DE CATALOGUE DES PROJETS ET PROGRAMMES AGRICOLES, Décembre 2011, DECOP, DGPPS, MINAGRI		

●概要：

参加者紹介後に mission 側より以下の通り今回訪問の趣旨を説明し、Comoe 局長との質疑を行った。

（1）訪問趣旨：

- ① 10月～12月にかけて実施した第一次調査の補足調査が主目的。
- ② 稲作が重要であることは理解できるが、それを論理的に主張するためには他の主要作物との比較が必要なので、イネ以外の主要作物に関する州別生産量と消費量を把握したい（資料あるいは情報提供依頼）。
- ③ 農業関連プロジェクトに介入するドナー国・機関とその対象とする作物の把握（資料あるいは情報提供依頼）。
- ④ 今回 Bongouanou の現地調査を予定。主に ANADER 所管の Kotobi 研修センターの活用可能性の把握と伝統的食用作物集積地である Kotobi 卸市場の流通調査。同調査に関する協力要請（調査同行者の依頼を含む）。

（2）質疑応答：D は DPPF（主に Comoe 局長）、M は Mission 側の意。

D-①に関し、南谷団員が帰国直前報告に来たが、ppt によるプレゼンテーションだったので手元に資料がない。上司に報告する義務があるので近いうちに仏語版報告書を用意願いたい。

M-我々はコンサルタントなので調査結果のハードコピー提出については JICA の承認が必

要と思われるが、報告済みの ppt は南谷を通じて入手可能。Bongouanou 調査前後にも提供できるとと思われる。

M-②に関し、食用作物の生産量はともかく、州別消費量の把握は難しいと思われるので、別途 BNETD を訪問し、情報を入手することとした。

D-最近食料安全保障局で編纂した報告書に言及されていたと記憶しているので、部下に調査させ、見つけ次第提供したい (M. DJIRE が引き受けた)。

M-③に関し、JICA が協力を実施するにあたり、プロジェクトの重複を避ける、あるいは共同できる分野も考えられるので、他のドナー国・機関の動きを作物別に把握したい。

D-DECOP (Direction de l’Evaluation et du Contrôle des Projets) で作成したプロジェクトカタログが存在するので後日提供する (M. DJIRE が引き受けた)。ただし、稲作関連プロジェクトは ONDR が所管しているので、詳細が必要なら ONDR に照会されたい。

D-④に関し、最近 Bouaké の卸市場に MINAGRI が所管する Bureau de Vente(営業所)を IFAD の資金援助を受けて開設した。Abengourou にも計画があるが予算の目処がたっていない。Bongouanou まで行くのであれば、足を伸ばして Bouaké に行つてはどうか？農産物流通の調査をするのであれば必要な情報である。

M-Abidjan 以外の調査実施には JICA の承認が必要なので約束できないが検討したい。

M-第一次調査の際 OCPV を訪問し、Abidjan に卸市場建設の計画があると聞いたが、同卸市場建設に MINAGRI は介入しているのか？

D-直接的には商業省が所管している案件だが、MINAGRI も協力している。OCPV は商業省が主管官庁だが、国家監理下の独立法人 (ANADER や ONDR と同じ) なので、商業省以外にも MINAGRI、財務省その他関連官庁の監理下にある。食用作物の流通や統計情報の収集も OCPV の任務なのでそこから情報も取れるはず。

M-MINAGRI は卸市場建設に予算的介入もしているか？

D-MINAGRI に実施予算は無い。comité pilotage (運営委員会) のメンバーである。担当部署は食料安全局 (同省 5 階、Directorate of Food Security)。

M-今回は MINAGRI、商業省といった関係機関では補足調査を、OLAM、CIC といった民間企業では農産物流通とマーケティングを、BFA、APSFD-CI、UNACOOPEC では農業金融について調査し、どうしたら小規模農業者がクレジットにアクセスできるようになるのか調査したい。

D-農業金融に関しては先般ワークショップを開催し、問題点を把握し、その改善点について提言したレポートを作成しているので、後日提供する (Melle.KOUASSI が引き受けた)。

M-詳細は未定だが、ミッション滞在中の最終週あたりで JICA 本部より稲作プロジェクトの担当が来象する。MINAGRI、商業省、ONDR といった関係機関との協議も予定されている。JICA 事務所の M.Edi から後日連絡があるのでその節は対応方宜しくお願ひしたい。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	商業・手工芸・中小企業振興省（商業省）大臣官房での補足調査		
日時	2013年2月6日（水） 17：30～18：30	場所	Alpha2000 23F 商業省大臣官房副長官室
主要参加 機関（者）	先方： M.Alexis Amichia (Directeur de Cabinet Adjoint)、 M.Nkon Minanou(Directeur de DECC), M.Djacore Max(Coordonnateur de DOCIR), M.Ouloupohi Victer(Inspecteur de Inspection Générale), M.Traore Mamadou(Directeur de DPME), 当方： 小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally/通訳、M.Joseph Koffie NIAMKEY/ローカルコンサルタント、小林邦康（民間セクター調査団）、西山あけみ（民間セクター調査団通訳）		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有 商業省実施予定プロジェクトリスト		

●概要：

参加者紹介後に mission 側より今回訪問の趣旨を説明し、以下の2点について情報提供をお願いした。

- ◆ 商業省が実施しているプロジェクトのリスト（できれば農産物流通に関連するもの）
- ◆ 農産物の輸出・輸入税の詳細

（1）商業省のプロジェクトリスト（トラオレ氏による説明）

- ◆ プロジェクトリストについては既に JICA に提示した3つのプロジェクト（専門人材育成センターの設立、ミニマルシェ建設と仲介業者育成、Abobo 木工村の建設）のほかに10の新プロジェクトのリストが提供された（実施中のプロジェクトリストではない）。
- ◆ 商業省下の OCPV が実施している卸売市場建設プロジェクトは、OCPV の実施能力に問題があり、現在止まっている。プロジェクトそのものの見直しを検討しており、商業省が OCPV を指導する形で将来進めることになる。アビジャン以外の予定地（アベングロ、ダロア）に関しては予算が全くないので、見通しが立たない。

（調査団所管）

- ◆ 新プロジェクトリストの中では、9番目の「食用作物商業化支援」が唯一農業セクターとの関わりがあると思われるが、内容は失業女性に農産物流通の研修を実施するという内容（失業対策がメインの目的か?）。
- ◆ プロジェクト実施予定地がヨブゴン・アボボなどアビジャン郊外の貧困層が多く住む土地に集中しており、貧困対策を雇用創出で解決しようとしている印象を受けた。他のプロジェクトも産業育成というよりは貧困対策指向。

（2）農産物の輸出税・輸入税（Inspecteur からの説明）

- ◆ 農産物にかかる貿易関連の税は輸入税と輸出税の2つ。対象も植物か動物で分類される。

- 輸入税に関しては、UEMOA で域外共通関税が 2000 年 6 月から実施されている。輸入税は CIF 価格に課税。内訳は①関税(農産物は 5%か 10%)、統計税 1%、UEMOA Solidarité (UEMOA 連帯課徴金)1%。
- 輸出税は 1 種類に統一されており、特定の農産物の FOB 価格に課税。コラナツは 14%、コーヒーは 50cfa/kg、カカオは 200cfa/kg (民間セクターミッションの情報と矛盾*)。税率は 2000 年から変わっていない。
- 輸入税は UEMOA との協議で決まるが、輸出税は「コ」国だけで決めることができる。
- 税率は国会で決まっており、草案は経済財務省が起草するので商業省は関わっていない。詳しい税率は税関の HP で確認できる。関税以外の諸税については良く分からない。
- また、農産物の輸出・輸入税に関する資料を mission 側は持っているようだが、入手先に詳細は問い合わせで欲しいとのこと。

会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	運輸省での情報収集		
日時	2013 年 2 月 8 日 (金) 9 : 15 ~ 10 : 40	場所	Postel 2001 12 階 運輸省大臣官房副長官室
主要参加 機関(者)	先方 : M.Konate Lamine/Directeur Cabinet Adjoin、M.Abdouale Toure/Couseiller Technique(GR)、Teya Yao Pascal/ Couseiller Technique(Maritime)、Baffah Kone/Couseiller Technique(Trasnports) 当方 : 小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally/通訳、M.Joseph Koffie NIAMKEY/ローカルコンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有 鉄道拡大計画図 (スキャンコピーにて入手)		

●概要 :

参加者紹介後に mission 側より今回訪問の趣旨を説明し、調査団の質問に先方が答える形で情報収集を行った。

(1) 道路改修の状況

- 改修はゆっくりだが進んでいる。特に食用作物の運搬は国にとって重要事項である。ワタラ大統領は食用作物および換金作物の運搬に対する支援を明言している。
- 改修の優先地域についての明言はなく、全ての地域が対象になっている。最も大きなプログラムは世界銀行の資金による道路整備で、都市部・農村部の全てが対象になっている。
- 資金は民間を含め様々なところから出ている。例えばアビジャン-ヤムスクロの高速道路に

* CIF 価格の 14.6%

は中国の資金が入っている。

- ◆ 改修の進捗状況や地域ごとの詳細は、経済インフラ省の関連機関である AGEROUTE から入手可能である。
- ◆ 優先地域がないとはいえ、実際にはコーヒー・カカオの生産地の道路補修が先行している。昨年 2012 年は ZANZAN 州と西部が多かった。
- ◆ 国家計画は 1 次幹線道路だけでなく、2 次、3 次道路も総合的に開発するプランになっている。農産物の運搬には 2 次・3 次道路が重要なことが認識されている。実際に地方で道路整備をする際には、AGEROUTE、州・郡政府、農業省間で協議して計画を決める。

(2) 道路運営

- ◆ UEMOA の合意に従い、現在「コ」国内には 33 のチェックポイントがある。主な業務は必要書類の確認等で、税金や手数料は一切取っていない。将来、高速道路が開通すれば高速料金は取る予定。
- ◆ 運送税はかつて取っていたが、現在は取っていない。

(4) 運送業者の状況・支援

- ◆ 運送業者への支援は OCPV が行っている。女性グループの Union に対して、車両入手のサポートをしている。
- ◆ 運送業者の組合としては、大きな Union が 1 つ、3000 の Cooperatives がある。
- ◆ 現在、古い車両を新しくするプロモーションを行っている。銀行・車会社・運送業者が協力して活動を進めている。2012 年までに 550 億 CFA が準備された。内戦前はこうした活動は SAFCA 社が行っていたが、今この会社は存在しない。

(5) 交通分野の課題

- ◆ 内戦後の主な問題は 2 つ。①道路のコンディション、②運送手段（車）の不足
- ◆ チェックポイントで税を徴収しなくなった代わりに、マリヤブルキナから往来する車両数の把握ができなくなっている。
- ◆ 内戦前は様々な業者が食料を運搬していたが、内戦中は比較的大きな会社のみ食料運搬に関わるようになった。しかし、あまり組織化しているとはいえ、車両の入れ替えも必要。
- ◆ 運送業者は重量制限を守らないので、道路・車両の傷みが早い。結果として「コ」国の運送費が高くなっている。

(6) 鉄道

- ◆ 鉄道は内戦の影響を全く受けず、現在も改修・拡張が進んでいる。国内ではサンペドロから鉱山のある西部を抜けて Ouangolodougou でブルキナ方面に合流するルートの開発が計画されている。
- ◆ 鉄道の運営は国営会社（State Company）
- ◆ 鉄道は運賃さえ払えば誰でも自由に利用できる（農産物輸送手段の 1 つ）。

(7) その他

- ◆ 交通関係は基本的に民間だが、アビジャンの市バスは公営。株の50%を国が持ち、フランスの会社が運営パートナーとなっている。
- ◆ アビジャン近郊では、物資の運搬にラグーンを行き来するボートが使用されることも多い。
- ◆ 運送費に関する調査はあるが、古い（内戦前？）。必要なデータのリストを提供してくれれば、次までに準備する。

◆
(8) 運輸省からの質問・意見

- ◆ 内戦前に JICA と進めていた活動で、ラグーンを航行する船舶からの積み荷、あるいは出るゴミの保管庫を作るものがあつた（2000 年まで日本人専門家が常駐）。この活動を今後 JICA がどうするかを知りたい。
- ◆ JICA は公的機関だが、例えば Region や District を直接支援する方法は可能か？
- ◆ 食用作物の運搬で問題なのは Logistics が存在しないこと。保管庫の状態は悪く、ロスも多い。集荷場も足りない。→この点は、調査団の最終報告書内で提言するつもりだと回答すると、「車両の援助もして欲しい」とのこと。

以上

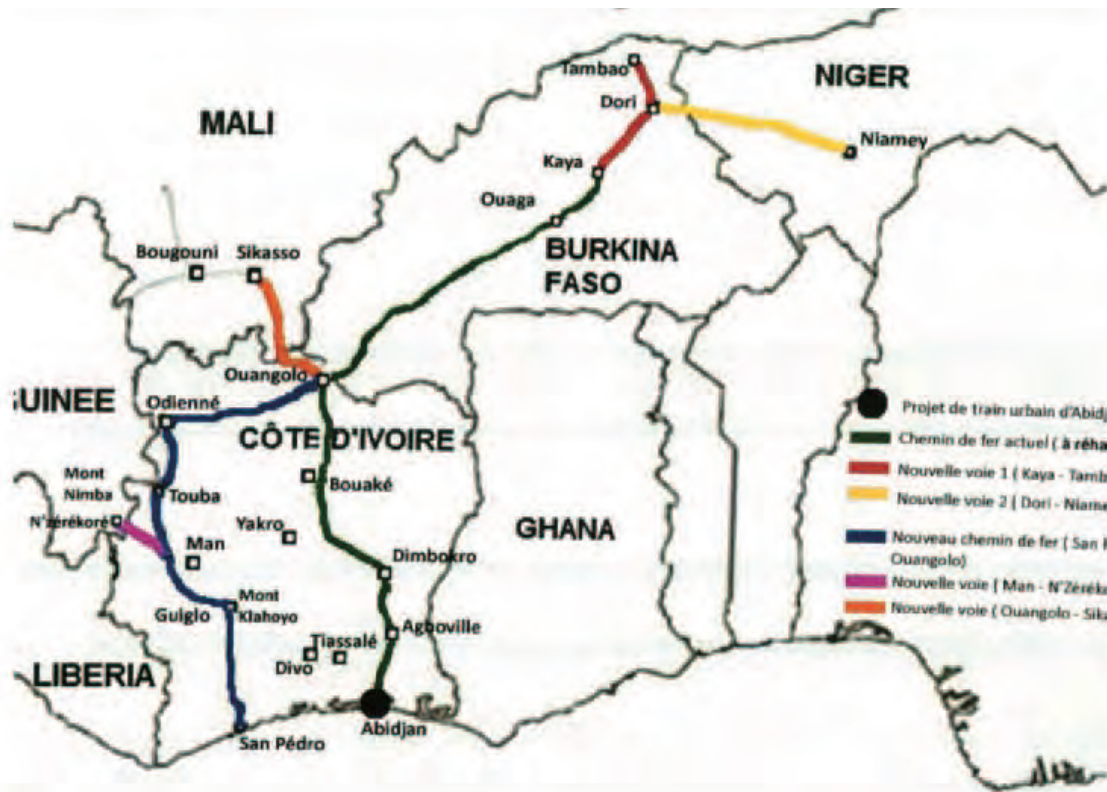


図 鉄道拡大計画

上図の補足：PPP のポテンシャル・プロジェクトに次の案件が掲げられている。

- ① SAN PEDRO-NIMBA 山間鉄道建設（エネルギー関連プロジェクトと鉄鋼業促進）
- ② 域内鉄道の相互乗り入れ（Ouangolodougou-Sikasso）
- ③ SAN PEDRO – MAN – ODIENNE間鉄道建設
- ④ OUANGOLODOUGOU – NIELLE – MALI国境間鉄道建設
- ⑤ ABIDJAN-LAGOS線の建設および改修

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	在 Kotobi で ANADER の所管する研修センターの訪問調査		
日時	2013年2月11日(月) 11:25~12:45	場 所	Centre de Formation-ANADER-Kotobi (Kotobi 研修センター)
主要参加 機関(者)	先方：M. Kouadio N'Guessan/Directeur de Centre, M.Kanga Koffi Arbert/Conseil Général de l'Agriculture-Bongouanou, Mme.Koffi Adjoya Emma/Directrice de la Direction de Département-Bongouanou, その他センタースタッフ6名 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.DJIRE Adama/Chargé de l'étude, DPPF-MINAGRI, M.YAVO Abel/PASEA-MINAGRI, M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(センター紹介リーフレットを後日入手)		

●概要：

Kouadio 所長の説明を聞きながらセンター施設を視察後、研修室で質疑応答を含め協議した。

1. 研修センター視察

(1) センターの背景

同センターはかつて存在した SATMACI (コーヒー・カカオ公社) の買い取りセンターであったが、同分野の民営化によって公社解体後、1994年に ANADER に所有移管された。

(2) センターの人員

センター所長(1)、秘書(1)、経理(1)、圃場管理・ロジスティックス担当(1)、作物栽培研修担当(1)、総務(2)、運転手(2)。なお、秘書、経理は電気・水道が十分でないため Bongouanou の ANADER に仮住まいしているが、2013年中には Kotobi に移る予定。

(3) 施設

- ① 敷地内の総面積は 6.5ha (内柵を巡らせた施設は 2.5ha)、農地 17ha (内訳は SATMACHI から引き継いだコーヒー園 8ha と未開墾地 9ha)。
- ② 電気、水道のライフラインに不具合。電気は 2003 年(紛争による事故)から止まっていたが、2009-10年に CIE と交渉し通電するようになった。その間、発電機を利用してきた。水道は Kotobi の町自身に給水塔がなく、水道局は地下水を汲み上げて町中に供給しているが水圧が弱く、よく断水する。センターでは 2009 年に 1000ℓ タンク×2 槽を購入・設置して夜間の小水量を貯める工夫をしているが不十分。
- ③ 所長室(秘書室、経理室を含む)、研修棟(25 名収容×2 棟)、職員室、研修員宿泊棟とも手狭なので、2013 中に改修すべく ANADER 本部に申請、見積もりを準備中(写真 1、2 参照)。
- ④ センター職員・研修員用に食堂(最大 70 名収容可)と調理室有り。
- ⑤ 男性研修員 40 名(4 床/部屋×10 部屋)、女性研修員 8 名(2 床/部屋×4 部屋)、シャワールーム・トイレ完備の宿泊棟有り。



写真1 改装予定の所長室



写真2 同改装予定の研修棟

2. 協議（質疑応答を含む、Mはmission側、Cはセンター側の意）

C-Kotobi は ANADER が所管する4つの研修センター（Grand-Lahou、Bingerville、Kotobi、Gagnoa）の1つで、コーヒー、カカオ、ゴムといった永年生作物とイネ、トウモロコシ、キャッサバ、料理用バナナ、野菜といった食用作物の研修を受け持っている。研修棟で座学を行うとともに、Abongouaに位置する農地17haで実践的研修を実施する。

C-同センターの抱える問題を総括すると；

① ライフラインの不具合

- ・電気は2010年から供給されるようになった
- ・水道は水圧不足につき1000ℓタンク×2槽を購入・設置→恒常的に不足。
- ・シロアリの害が顕著で木材だけでなく送電ケーブルも食害する。

② センターインフラ（秘書室、経理室を含む所長室、研修棟、職員室、研修員宿泊棟とも狭い→要拡張工事

③ 研修資教材・機材（オーディオビジュアル機器、PC等情報処理機器）の不足

M-研修の対象者は？

C-①ANADERの職員、とくに村落部に住み着いている末端普及員への教育、②ANADERの活動に協力してくれるコーヒー、カカオ、ゴムといった生産者。2013年はFIRCAの基金によりANADERの4研修センター全体で1000名の農業経営者訓練が予定されている。③その他ANADERのパートナー機関（アフリカライス、ONDR、FAO、Projet CIDA、etc）から依頼を受けた研修を実施している。

M-Kotobiは永年生作物の研修を行っているとするが、GagnoaでもGIZの支援を受けてコーヒー・カカオの研修を行っている。棲み分けはできているのか？

C-ANADERではセンターの作物・分野特化（下表参照）に向けて準備をしておき、2013年2-3月中にデマケに関するワークショップが開催される予定。

表 Kouadio 所長によるデマケ案

センター	従 来	分野特化後
Bingerville	組合指導・管理、 ウサギ飼育等一部の畜産	協同組合
Gagnoa	コーヒー・カカオ、 アグチ養殖等一部の畜産	コーヒー・カカオ
Grand-Lahou (CFMAG)	稲作と農業機械	稲作と農業機械
Kotobi	永年生作物	食用作物

M-研修を実施するには教材 (Fiche Technique et/ou Pédagogique) はどのように作成しているのか？

C-各地域の ANADER スタッフに研修チーム (équipe de formation) がいて、Bingerville で適宜ミーティングを行い、作成している。研修で使われる教材はすべて Bingerville に配属された研修部長の承認を得る必要がある。

M-CNRA でも研修教材を作成していたと聞くが？

C-アフリカライス同様、病虫害防除といったアカデミックな分野で依頼することはある。だが、内容は常に Bingerville で確認し、承認を得る。

M-研修費はいくらか？

C-2000 年まではだいたい 1 人当たり 5 万 CFA/日であったが、現在とは物価も異なるので改めて計算し直す必要がある。とくに実習や宿泊を伴う研修では保険や医療費を含める。

M-研修費は本来受益者負担と思うが、主に誰が負担しているのか？

C-FAO や ONDR といったパートナー機関主催の研修であれば彼らが賄う。ANADER 職員の研修であれば FDFP (専門研修開発基金) から資金を得ている。ANADER は同基金のメンバーで、多くの公社・民間企業がメンバーとなり、職員の数に応じた分担金を納入している。コーヒー・カカオといった生産者の研修では FIRCA が同セクターから徴収した分担金で賄われている。

M-研修対象者はどのように選ばれているのか？

C-例えばコーヒー・カカオは CCC が対象者を選抜し、Gagnoa のセンターに研修員として送り出している。テーマごとに必要とされる講師を ANADER で選定して、各地・各分野の職員を Gagnoa に派遣している。ANADER 自身が研修生を選ぶことはない。すべては契約に基づいて実施されている。

3. 調査団所感

(1) どこが使われているのかわからない研修センターであった。かつて 6 つあった研修センターから 2 つを閉めて 4 つ残したうちの 1 つでもあるので存在意義はあると思うが水道、電気といったライフラインに問題があって本当に使えるようになるのか現段階では甚だ疑問。今後の ANADER の処遇如何で協力の可否が明らかになると思われる。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	OCPVの管理するKotobi農産物集荷場の見学および関係者からの聞き取り、 ならびに併設する小売市場の視察		
日時	2013年2月11日(月) 8:10~11:10	場 所	Kotobi農産物集荷場(伝統作物)
主要参加 機関(者)	先方:M. Agnero Lath/Responsable OCPV, M.Digbeh Abib Ismael/OCPV, Mme. Brou Yah/Producer, Mme. Brou Akoua/Producer, M. Bobochi/Transporter, M. Kouadio N'Guessan/Directeur de Centre, M.Kanga Koffi Arbert/Conseil Général de l'Agriculture-Bongouanou, Mme.Koffi Adjoya Emma/Directrice de la Direction de Département-Bongouanou, 当方:小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.DJIRE Adama/Chargé de l'étude, DPPF-MINAGRI, M.YAVO Abel/PASEA-MINAGRI, M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(OCPV-Kotobi 2012年活動レポート、OCPV活動紹介文書)		

●概要: OCPVが全国に3カ所所有している農産物集荷場の1つであるKotobi農産物集荷場の見学および関係者への聞き取りを行った。併せて、併設する小売市場の視察を行った。

1. Kotobi農産物集荷場(地元の人には「卸市場」と呼んでいる)

(1) 設立経緯・施設スペック

- 1997年にFED(欧州開発基金)の資金で建設された。生産者、運送業者、商人のUnionでプラットフォームを作って運営し、5年ほど使用した。その後Unionは解体し、現在Unionは存在しない。Associationがあるのみ。Bongouanouの70km圏内の村で事前集荷(Pre-collect)し、Kotobiの集荷場に集め、Bouakeの卸売市場に集める予定だった。
- 他の2つの集荷場の内、Meaguiの集荷場も似たような状況で機能していないが、Sinematialiはマンゴーの取り扱いが多くあるので機能している。
- 25m×10mのコンクリ打ちの敷地に、鉄製屋根付コンクリ製の取引場が6連設置されている(写真1、3)。敷地の3方を囲むように事務所用建物があり、正面の中心にはトラック用のゲートがある(写真2)。電燈はない(農産物は主に夜間集荷されるが、照明が無いことによって取引が困難であったことも集荷場が使われなくなった一因)。
- 取引場の屋根の一つが盗難被害でない。
- ゲート脇に冷蔵室(Cold Room)を設置する予定だったが、実現しなかった。



写真1 取引台場



写真2 正面ゲート



写真3 台場の屋根

(2) 集荷場に関する関係者からの聞き取り (Pは生産者、Tはドライバー)

- P-昔は、村で集荷・買い付けをし、集荷場に運んで売り先行き (アビジャンやブアケ) のトラックを探して出荷した。Buyer はほぼ固定されていた。当時の集荷場使用料は野菜の場合 100CFA/Bag。運賃はアビジャン 500CFA/bag、ブアケ 700CFA/bag。
- P-村への集荷用のトラックが配備されるはずが来なかった。また、運搬中の事故に対する保険が掛けられないのも問題だった。
- P-使用料の支払いに不満があった。また、建設時にメンバー当たり 1000CFA を拠出した。運送保険は使用料などで賄えたはずなのに、お金がどこに行ったか分からない。
- P-集荷場の設備や場所は良いので、使用料や運送保険の問題が解決できれば、また使用したい。
- T-集荷場設置時に、生産者・運送業者・商人のプラットフォームを形成し、運営理事会を組織した。だが、集荷の範囲に限られる、生産量などが足りないなどの問題があった。当初、参加した村は4つしかなく、最初から無理があったと思う。
- T-集荷場を通すと、書類提出やルールが多く時間がかかった。村から直接アビジャンに運んだ方が早くて簡単。このまま集荷場を再開しても生産者は戻らないのではないかと。商品供給のルール (義務化) 整備や全ての村を取り込む努力が必要。また、集荷場の使用料・電気代は高い。圃場から集荷場までの集荷用トラック/トラクタがないのは問題。

(3) 現在の流通状況 (Pは生産者、Tはドライバー)

- T-どんな商品が Abidjan で需要があるかは、OCPV に電話して聞いたり、アビジャン OCPV オフィス前の掲示板で値段を確認したりする。Abidjan の仲買人 (Buyer) からお金を預かって、村から直接集荷することもある。量を揃えないと赤字になる。
- P-現在は道端に集荷したものをおいて、トラックが通るのを待つ。事故のことも考えて運送費は後払い。
- P-売上はアビジャンで販売後に受け取る。1週間ぐらいかかる。現金払い。
- P-アビジャン近郊では、農民がゴム栽培に転換していることからキャッサバの生産量が減り、Kotobi に仲買人が買付けに来るようになった。周辺の農家は換金作物としてキャッサバの栽培を増やした。ヤムイモは自家消費用に生産している。

2. OCPV の役割 (M.Lath の説明)

- OCPV は全国に 10 の地域センター (Regional Center) があり、Kotobi はジンボクロ地域センターの下部組織である。
- 農産物の卸価格と小売価格の収集を毎月行う。1 山は kg 換算している。Kotobi には有線電話がなかったので大変だったが、現在は携帯を使用する。
- 価格情報は提供できるが、可能な供給量の情報提供が困難。村から直接アビジャンに行く農産物の量 (全体の 50% ぐらいと推定) の把握ができないので、Kotobi からどの農産物をどの時期にどれだけの量供給できるかを示すのが困難。集荷場が機能すれば量のデータを提供するのが可能になる。
- 農家は最近野菜よりも収入の良いゴム栽培をしたがる。

3. 小売市場 (集荷場に併設)

- 50-60 の木製の小屋が立ち並ぶ小規模な小売市場、一部はコンクリ製の台とトタン屋根付き (写真 4)。
- 取扱商品は野菜類が多い。トマト、ナス、ハーブ、タマネギ、トマト、キャベツ、ニンジン、スパイス類など (写真 6)。乾季のため、商品の状態は著しく悪い。野菜のほか干物魚・燻製魚 (アビジャン・ヤムスクロ産)、コメ、トウモロコシ粉、キャッサバ、料理用バナナなどを取り扱う店がある。
- 使用料は、以前は Arrah の市役所から徴収人が来たが、今は払っていない。市場管理委員会なども存在しない。
- イモ類、野菜の売り子はほとんどが生産者。普段は自分の生産物だけ売るが、乾季は量が足りない所以他の生産者から買い付ける。野菜の売上は 1 日 700-800CFA 程度。野菜は乾季に入手が困難になるが、ひと山の量を減らすことによって、通年価格/1 山は変化しないようにしている。
 - ◇ トマトは Arrah で買付け
 - ◇ キャベツは Bougouanou から仲買が売りに来る。電話すると来る。10kg ほど 350CFA/kg で買う。
 - ◇ ヤムはベテベテと Elopa の 2 品種。移住者の村 (campement) に買付けに行く。
- 野菜の内、タマネギ (ブルキナ、ニジェールあるいはオランダ産)、ニンジン (フランス産) は輸入物。買付けは市場内の店かアビジャンに買付けに行く。
- 1 軒だけ状態のよいサラダ用トマトを販売している店がある。現在 600CFA/kg で販売するが、雨期には 200CFA/kg 程度まで落ちることがある。仲買人を通さず、農家から直接買う。運搬は農家と本人の両方が行う (交通費 1000-800CFA 往復)。300-400CFA/箱 (10kg?) で仕入れる。種子購入代を時々農民に貸す。信頼関係があるので、買いはぐれはない。
- コメはローカル種 2 種 (ダナネ 450CFA/kg、品種不明 400CFA/kg)、輸入米 1 種 (400CFA/kg)。Abongoua の仲買人から 200CFA/kg で購入。国産、輸入米ともに相当石が交じっている。
- トウモロコシ粉は、プランテーションから粒を購入し、製粉して販売している (写真 5)。白・黄の 2 種がある。



写真4 小売市場



写真5 国産米（ダナネ）



写真6 野菜

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	M'Battoのキャッサバ女性組合およびCODERIZの聞き取り		
日時	2013年2月12日（月） 9:00～12:00	場 所	在 M'Batto の Plate-Forme de Services (PFS) オフィス
主要参加 機関（者）	先方：Mme. Kaku/Women' Association, M. Bende Yao/CODERIZ, M. Amakua/CODERIZ, M. Akun/PFS、M. Afian/PFS、他組合メンバー数人、M. Kanga Koffi Arbert/Conseil Général de l'Agriculture-Bongouanou、 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M. DJIRE Adama/Chargé de l'étude, DPPF-MINAGRI, M. YAVO Abel/PASEA-MINAGRI, M. Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有（PFSパンフレット）		

●概要：BongouanouのGeneral Councilに紹介されたM'Batto（Bongouanouの南西30km）の女性キャッサバ組合とコメ組合のCODERIZへの聞き取りを行った。会場のPFSはフランスの支援で若者の失業対策を行うプログラムのオフィスで、女性組合はPFSの支援を受けている。

1. キャッサバ女性組合（Association）

- ◆ AssociationからCooperativeにしたいと思っているので支援が欲しい。現在問題なのは、運送費と商業化。事務所や作業場所の確保も必要。
- ◆ AssociationにはM'Batto地区の女性なら誰でもメンバーになれる。メンバー数は把握していない。地区に村は144あり、この内50名程度が会議に来る（Association事務局のメンバーとして21人のリストがある。具体的な活動がないのでメンバー数の把握ができていない模様）。
- ◆ 個人での取引ではキャッサバの量が少ないので、組織して量を確保したいと思っている。量がまとまれば固定の仲買と取引できる。現在は個人が生キャッサバを仲買人に売っている。キャッサバを加工したプラカリやアチャケを販売したい。生キャッサバよりも利益が高い（現在共同で作業や販売を行っているわけではない）。

- 生キャッサバ販売価格：不明（1山いくら）
- プラカリ販売価格：1万 5000CFA/50kgbag
- アチャケ販売価格：4000-5000CFA/たらい（35-40kg?）
- ◆ （PFSの補足説明）この地区では地元での販売用にプラカリやアチャケを製造している。売りやすいので活動として選定した。
- ◆ General Councilの代表（President）からキャッサバ粉砕機（ディーゼルエンジン）の供与を受けた。まだ、使用はしていない。設置場所の確保が必要（写真）。
- ◆ 現在、女性一人当たりのキャッサバ生産量はピックアップ1台分（1t-2t）/作期程度。バイヤーはピックアップや3t程度のトラックでやってくる。女性が共同でトラックを借り上げて、アビジャンに運ぶこともある。
 - 畑から舗装道路まで（トラクタ or ピックアップ）：2万 CFA（距離と道路状態による。距離が短ければ頭上に載せて徒歩も可。雨季はぬかるんだ悪路となるのでピックアップは不可）
 - 舗装道路から M'Batto 市場まで（ピックアップ）：2万 CFA（15km）
 - M'Batto からアビジャン（30tトラック）：40万～50万 CFA
- ◆ 買付け・販売は現金だが、Buyerの買付け金が足りないときなど売り上げは後払いになることもあり、その場合は3-7日後に支払いがある（基本は信用取引）。

粉砕機の写真



2. CODERIZ

- ◆ 2005年にAssociationとして設立され、2009年にCooperativeになった。
- ◆ M'Batto, Arrah, Anoumaba, Tiemelekre, Bongouanouの5地区を管轄し、メンバーは2500人、生産量は年2000-2500t程度（1人1tで少なすぎる?）。ただし、政治的な理由から機能しているのはM'BattoとArrah地区のみで、実質メンバーは460人、生産量は1700t/年。メンバーに女性が多いのが特徴（現在女性割合が30%）。
- ◆ 過去にPUR（コメ緊急プログラム）とAPRAOの支援を受けた。PURでは投入材と種子の提供および脱穀機の供与を受けたが、脱穀機は既に故障。APRAOでは投入財の提供と耕うん機2台の供与を受けた。
- ◆ 組合所有の精米機はない。民間のものが17基ある。精米料金は20CFA/kg。

- メンバーは生産量の大体 30%程度を販売。組合が預かり、仲買人に精米で売る。売値は 240CFA/kg（白米）。売上の 5%を組合が手数料として取る。手数料 5%では十分な投入財を買えない。
- 以前はアビジャンまで売りに行くこともあったが、コストが高かったのでやめた。バイヤーは先に来た順に売っていく。収穫期には 2 日おきに 20t-30t トラックで買付けに来る。
- 組合に乾燥場はない。倉庫は M'Batto でない場所に 1 ヶ所あるのみで、M'Batto では民間倉庫を借りている。
- 集荷は農家が運んでくるのが基本だが、遠い場合は組合が集める。集荷用 3t トラックは 4 万-6 万 CFA 程度。10 月から 1 月の 4 ヶ月で運送費が 600 万 CFA かかった。負担になっている。
- 耕うん機が供与できないのなら、耕作用のウシを提供して欲しい。牛耕の方法を知っているメンバーがおり、ウシなら故障しない。
- 耕うん機の使用料は 6 万 5000CFA/ha

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	NOVEL 社の稲作栽培参入に関する聞取り		
日時	2013 年 2 月 15 日（金） 15：00～17：15	場 所	Novel 社オフィス（アビジャン港近く）
主要参加 機関（者）	先方：M. Albert C. DIADHIOU, Directeur General 当方：藤野浩次郎/JICA-CI 所員、M.Edi Bruno/JICA-CI, 小林裕三/総括、大谷華子/ 農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要：ヤムスクロ地域でコメ栽培、流通、販売に参入するとの情報がある NOVEL 社に、活動の進捗情報の聞取りを行った。

（1）背景

- NOVEL 社は食料・日用品貿易を行う企業である。貿易だけでなく、栽培にも多角化しており、アジアではコメの栽培も行っている。「コ」国では 2007 年にカカオ・コーヒーの栽培を開始した。
- コメ栽培への参入は 2008 年の食料危機が契機になった。それまではコメは NOVEL 社にとって主要ビジネスだったが、110 万 t の取引（2008-09 年）が食料危機で 60 万 t に縮小した。アジアでの栽培だけに依存しないように、アフリカでの栽培を考えるようになった。

（2）計画・進捗状況

- ◆ 2010年にプロジェクトを立ち上げた。「コ」国以外にもガーナ、ナイジェリア、ギニアセネガルで同じモデルを使った活動を展開する。
- ◆ 「コ」国ではヤムスクロを選定した。2012年、ヤムスクロ郡（district）農業部とパートナーシップを結んだ。ヤムスクロはコメ以外にも、カカオ・コーヒー、養殖などのポテンシャルもある。これらの作物で成功したらトウモロコシ、トマト、ダイズ、養鶏などにも手を広げる。
- ◆ コメに関しては、ヤムスクロ郡政府と協力し、ジョイントベンチャーYAMNOVEL を設立した。NOVEL はヤムスクロの活動に直接介入せず、全て YAMNOVEL を通して行う。この活動モデルは NOVEL モデルとして他の地域でも使用する。現在、農家とのやり取りはヤムスクロ郡を通して行っている。NOVEL は外部社だが、郡政府は農家のことを良く知っている。
- ◆ NOVEL モデルの特徴は；
 - ① 配当金の支払い：NOVEL は農村に投資（農地開発など）し、農家は NOVEL に土地を貸す。NOVEL は利益に応じた配当金を農村に支払い、この資金で村落インフラなどを整備する。
 - ② NOVEL は土地を購入しない：農民との関係はパートナーなので、パートナーから土地を奪う事はしない。この方法なら農民との合意も容易。
 - ③ 生産者の生産意欲の刺激（encourage）
- ◆ YAMNOVEL の活動目的
 - ① 総合的村落開発：活動内容は1万 ha の機械化による耕作、種子生産（販売用、自家用）、サイロ建設、加工施設、流通センターなどに加え、学校（小学校・農業専門学校）の設立、病院、村落道路など社会的開発も手掛ける。
 - ② 新しい取引システムの創造：機械化（トラクタの供与・貸与、トレーニング）、農業投入財の支援、買取保障など。YAMNOVEL の耕作地以外の農家からも買い取る。こうした活動により、他のインベスターよりも地元の信頼を得られる。また、農家が別の商人に販売するのは自由。
- ◆ NOVEL は生産者ではないため、生産にかかるトレーニングなどは技術パートナーに依頼する。現在の技術パートナーは Syngenta（スイスに本部を置くアグリビジネスの多国籍企業）、ANADER、MINAGRI、CNRA、ONDR など。技術パートナーには誰でもなれる。現在、韓国政府が灌漑部門に興味を持っている。農業機械の製造・販売会社である AGCO とは既に合意が結ばれた。西アフリカに拠点を構えたいと思っていた AGCO と、農業トラクタを仕入れたいと思っていた NOVEL の利害が一致した結果である。
- ◆ 予算は1億2500万 USD の予定だが、まだ固まっていない
- ◆ プロジェクト調査は既にコンサルタントが行った。
- ◆ 長期のスケジュールはまだ固まっていないが、2014年には活動を始めたい。ヤムスクロのスビアクロ地区では種子生産を700haで行う予定であり、農家は予算執行を待っている。
- ◆ 現在はパイロット・フェーズとして5haからスタート。
- ◆ JICA との協力は歓迎する。とくに社会開発面でのパートナーが必要になっている。また、灌漑開発や精米、ポストハーベスト面でのパートナーはまだ決定していないので、この分野での協力が欲しい。

- ヤムスクロに農業技術のトレーニングセンターを作りたい。ANADER の研修センターは内戦中にほとんど活動ができなかった。ANADER のものより、もっと高度な研修をできるセンターを作りたい。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	OLAM 社の稲作栽培参入に関する聞取り		
日時	2013 年 2 月 18 日 (月) 09:50~11:15	場 所	OLAM 社オフィス
主要参加 機関(者)	先方：M. Bhuwan Saurav/Vice President, Head of Food Staples、M. Augustin Kouassi APETEY/General Manager, Strategic Investments 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、■有		

●概要：NOVEL 社、Louis Dreyfus 社同様、コートジボワール（以下「コ」国とする）政府との PPP でコメ栽培、流通、販売に参入するとの情報がある OLAM 社に、活動進捗の情報等聞取りを行った。

1. M. Bhuwan Saurav/Vice President, Head of Food Staples からのヒヤリング

(1) 背景

- OLAM 社はシンガポールに本社を置く食料品を扱う商社 (trader & supplier) である。
- 22 品目の食料品を扱っており、「コ」国ではカシューナッツ、コメ、カカオ、コーヒー、木材を含む 7、8 品目を扱っている。
- 稲作への投資は初めてではなく、アフリカではナイジェリア、モザンビークで実績を出し、アジアではラオスでも実施している。
- ナイジェリアでは 2005 年から政府との契約において 1 万 ha のイネ・プランテーションを経営（モザンビークでは 8000ha）し、日産 20t、時間当たり 5t の生産体制（精米工場）を構築した。
- 投資環境はコストがかかるので、灌漑施設、水道光熱、アクセス道路は政府からのサポートを必要としている。
- コメは利益を生む作物と認識している。

(2) 計画・進捗状況

- 昨年 ONDR との契約で投資実現性調査を実施中。同調査は少なくとも 1 年間は必要。
- Bouake 以北の中部地域を対象に、1 万 ha のプランテーション（借地）と 1 万 ha の周辺農家からのコメ買い取りを予定。

- ◆ 投資額は 7000～8000 万 US ドルを想定。
- ◆ ナイジェリアの経験から、一般の生産者だけに生産を任せるのは難しいと認識しており、ラオスでもプランテーション生産が中心。
- ◆ イネ生産に関しては、農学系、経済学系、資機材選定を司る研究チームを有しており、彼らは現在ナイジェリアとラオスで活動しているが、事業化が決まれば「コ」国でも活動することとなる。

(3) Products について

- ◆ 「コ」国の精米機は精米 (polish) ではなく碎米 (broken) であり、肥料、農薬、種子と併せて機械 (脱穀機、精米機、刈り取り機) 等必要とされる資機材を投入する。
- ◆ ナイジェリアで OLAM が契約する篤農家 (modern farmer=proper farmer and good practice) の単収は 7t/ha。「コ」国のポテンシャルはそれ以上 (ANADER から 12t/ha の Lab データがあるとのこと)。
- ◆ ナイジェリアではパーボイルドライスが要求されるが、「コ」国ではほんの数パーセントの需要しかないので、OLAM が扱うには経済的でない。
- ◆ 生産するイネ種子は当地の人気品種である WITA-9、Danané が候補といえるが、ハイブリッドの導入も検討している。ナイジェリアの種子部門ではハイブリッドの採種を行っている。条件さへ整えば、いつでも投入可能。
- ◆ NOVEL 社や Louis Dreyfus 社といった競争他社も ONDR と契約で参入することは承知しているが、OLAM はナイジェリア、ラオスの経験から何が必要で、どうしたらいいのかすべて把握している。
- ◆ コメはビジュアルな商品である。香りも重要なファクターだが、売れるために一番重要なのが穀粒の均一性 (見た目) で、次に香り、見た目も悪く、香りも無いのは売れない。
- ◆ OLAM の扱う staple food はコメ、乳製品、油、サトウであり、コムギやトウモロコシといった他の穀物は扱っていない。
- ◆ マンゴーやパイナップルのジュース加工は年間 600 万 US ドルの小さなマーケット商品なので扱わない。

2. M. Augustin Kouassi APETEY/General Manager, Strategic Investments からのヒヤリング

(1) コメの流通に関する投資

- ◆ 現在国産米に関する流通販売は扱っていない。
- ◆ 国産米の消費は生産地域 (middle range) にとどまっていた資金があまり動いていない。また、流通経路も整理されていない。
- ◆ 「コ」国にとって重要な政策は地域の食料安全保障にあるので、日本がコメ物流の強化に乗り出すなら、長期間貯蔵できる倉庫が推奨できる。
- ◆ その他コメに関する生産～マーケットまでは M. Bhuwan Saurav に照会されたい。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	CIC社の稲作栽培参入に関する聞取り		
日時	2013年2月19日(月)	場 所	CIC社オフィス
	10:20-11:40		Abidjan 06, Ave.Delafosse prolongee
主要参加 機関(者)	先方: Mme. Fortunee TE/アビジャンマネージャー 当方: 小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要: ガニョア、ダロア地域でコメ栽培、流通、販売に参入するとの情報があるCIC社に、活動の進捗情報の聞取りを行った。

(1) 背景

- CICのコメ栽培プロジェクトは、MINAGRIおよびONDRの「輸入米の量を減らし、国産米の量を増加する」という政策に沿ったものである。

(2) 計画・進捗状況

- 現在、一番の問題は土地に関する事。今度の木曜(2月21日)に現地の農家と土地に関する協議をするために、ONDRに割り当てられた地域を回る。協議結果を持ち帰り、ONDRと内容を検討する予定である。具体的な活動はまだ始まっていない。
- 土地を農家から購入することはしない。農家とはパートナーシップを結び、CICは配当金などを支払う。土地問題はONDRが解決すべきだが、ONDRは活動を早くやれと言うばかりで、あまり土地については動いていない。
- 確保できる土地の面積が明らかになってから予算を組むので、総予算額は不明
- コメのほかにトウモロコシをやる予定。
- 2年ほど前にSinflaの女性グループ(20-30人)とコメ生産をしたことがある。CICが肥料を提供し、収穫は投入財費を差し引いたのち、CICと女性グループで分けた。技術指導がなかったためと栽培面積が小さかったため、思ったほど収穫はなかった。取れたコメは精米してDivoで売ったが、すぐに売り切った。
- 今回のプロジェクトではヤムスクロの農業学校の生徒が技術指導する予定。
- 今回はoutgrowerからも買い取る予定。
- CICは肥料などを与え、収穫から投入財費を差し引いてから、収穫物をCICと農家で分ける。クレジットなどを与える予定はない。
- 社会インフラ投資については決まっていない。先に生産を始めてから、農家のニーズを探る。
- 道路の整備に関わる気はないが、農村道路(畑～精米所)の整備は考えている。ただし、灌漑は明らかに政府の仕事。Sinflaで収穫量が少なかったのは灌漑施設(canal)がなかつ

たことも一因。

- ◆ Sinfla では機械の供与はしなかったが、今回は脱穀機や精米機（中国製以外が良い）を導入予定。
- ◆ 国産米は輸入米よりも高く売れる。輸入米に対する競争力に関しては、今消費者に選択の余地はないので何とも言えない。個人的には国産米が好き。アビジャンではマーケットでは見られないが、ヨプゴンなどでは道端で時々売っている。仲買人が消費者から注文を取ってから仕入れ、販売してしまうケースもある。
- ◆ DIVO の中国のプロジェクトについては知っており、技術面での協力を検討する予定。ONDR も技術指導面で協力する。
- ◆ 種子はスペインの種子会社（アビジャンには代理店はない）と協議している。

（3）輸入米

- ◆ 現在、約 18,000t/月の輸入がある。アビジャンでスーパーマーケットや仲買に売るので、国内の流通がどうなっているかは分からない。
- ◆ パッケージも注文時に指定すると、注文した袋に輸出元で詰められる。
- ◆ パーボイルド米の輸入販売も行っているが、マーケットの状況がまだよく分からず様子見の状態。

協議メモ

会議種類	<input type="checkbox"/> 関連省庁との協議、 <input type="checkbox"/> 他ドナー協議、 <input checked="" type="checkbox"/> 民間団体・NGO 等との協議		
	<input type="checkbox"/> 日本大使館との打合せ、 <input type="checkbox"/> JICA 関係者との打合せ、 <input type="checkbox"/> その他		
件名	農業分野への融資に関する聞取り		
日時	2013 年 2 月 20 日（水） 11：00-12：00	場 所	BFA オフィス Plateau
主要参加機関（者）	先方：M.Yebouet Yao Barnabe/Directeur General Adjoint par Interim, M. Kouatelay Albert Junior/Directeur de l'Exploitaion, Mme. Annette Bakouka/ Chef de Service Marketing & Communication, M.Miah/Agropastoral 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	<input checked="" type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		
収集資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input checked="" type="checkbox"/> 有（パンフレット）		

- 概要： 農業分野への融資を行う BFA（Banque pour Financement de l'Agriculture）に農業分野への融資についての聞取りを行った。

（1）農業分野への融資の状況

- ◆ 過去の経験から、農業分野（特に食用作物）の組合にはマネージメントの問題があり（きちんとお金を管理できない）、保証金（guarantee）を求めることにしている。例えば、100 万 CFA の保証金を銀行に預ければ、200 万 CFA の融資をする。保証金さえ、納めれば、個人への融資も可能。Cooperative でなくとも Association や Group でも可能。

- 融資件数は数多くある。多いのはコーヒー・カカオの仲買人への買付け資金の融資。彼らは良く組織されており、融資しやすい。一方、食用作物の組合は返済の遅延が時々起る。
- 農業セクターへの融資の利率は約 13%。他のセクターよりも低く抑えられている。中央銀行が定める最低利率は 10.75% であり、分野ごとに利率が上乘せされる。私企業や大企業への利率は高い。
- 食用作物に関しては政府が準備した特別ファンドがある。だが、これは主に販売のための買取資金の融資であり、生産者向けではない。このファンドで小さな加工機械（キャッサバ粉砕機、トウモロコシ製粉機）を流通・小売の組合が買った事例はある。
- FENACOVICI（生産者から小売りまでの食用作物組合連合）は、農業分野では優秀な顧客のひとつ。連合代表の女性（Mme. Irie Lou Collet）Cooperative は加工、運搬、流通を行っているが、近いうちに栽培に活動範囲を広げる予定。販売物を自分で育てた方が効率的との観点からである。

（２）新しい融資の動き

- コメセクターに関しては ONDR と協力して新しいファンドを作る予定である。ONDR が BFA と組合の間の仲介をし、ONDR が guarantee になる。ONDR は guarantee 資金を国の補助金と International Group（国際企業）からの資金で準備する。パームやゴムのセクターの融資では国際企業が Guarantee になる事例は既に存在している。
- 農民組織との間に仲介者が入れれば、利率は下げられる。日本政府はこうした融資事業に興味はないか？
- この仕組みでは、BFA は ONDR に融資し、ONDR はその資金で肥料を購入したり、民営の生産ユニット（private production unit）の設備をそろえる。ONDR からの融資は全て現物で、農家に現金が渡ることはない。回収（コメ、現金）も ONDR が行い、BFA への返済も ONDR が行う。
- コメセクターではまだ始まっていないが、若者向けプロジェクトでは同じシステムの融資が既に始まっている（M'Batto のプラットフォームの活動か？）。

（３）その他

- 農業分野の投資先としては、パームオイルにポテンシャルがあると思う。既に食用油に加工しているのに加え、油から色々な 2 次加工品（石鹼・マーガリン）ができるため。

会議 種類	<input type="checkbox"/> 関連省庁との協議、 <input type="checkbox"/> 他ドナー協議、 <input checked="" type="checkbox"/> 民間団体・NGO等との協議		
	<input type="checkbox"/> 日本大使館との打合せ、 <input type="checkbox"/> JICA関係者との打合せ、 <input type="checkbox"/> その他		
件名	農業分野の調査に関する聞き取り		
日時	2013年2月21日(木) 15:20-16:20	場 所	BNETD事務所
主要参加 機関(者)	先方：Mme. Kone Karidjatou/Director of Agri. Dept., Mme. Kakou-Djety Anastasie, M. Mariko Drissa, 他数名 当方：小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	<input checked="" type="checkbox"/> 無、 <input type="checkbox"/> 有		
収集資料	<input type="checkbox"/> 無、 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (BNETDパンフレット)		

●概要：建設コンサル会社 BNETD が各地で農業関連の調査を行っており、地域別のデータを持っているとの情報があったため、聞き取りを行った。

- ◆ 農業生産や流通量の地域別データは持っていない。こうした調査は行ったことがない。90年代に農産物輸入に関する調査を行ったことはあるが、アップデートされていない。
- ◆ Bouake の卸売市場、Meagui, Kotobi, Sinematiali の集荷場の建設に関しては、BNETD がコンストラクターのリーダーとして調査を実施し、建設の主導をした。周辺の農産物流通調査は行っていない。卸売市場・集荷場の建設された場所は元から農産物が集まる場所だった。
- ◆ アビジャンに建設予定の卸売市場のチームにも BNETD は入っている。国家開発計画の一部だが、まだ調査は始まっていない。
- ◆ 中央地域のダムの建設に関しては、BNETD が調査を行うことが決まっているが、政府に予算がなく、ゴーサインが出ない。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	NOVEL社の稲作栽培参入に関する聞取り		
日時	2013年2月21日(木) 09:00~10:00	場 所	NOVEL社オフィス (アビジャン港近く)
主要参加 機関(者)	先方: M.Denis Y. KOKO, Chef du Projet-YAANOVEL 当方: 小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要: NOVEL社がヤムスクロの自治体とJV結成した株式会社 YAANOVEL のプロジェクト代表に、活動の進捗情報等の聞取りを行った。

(1) 背景

- コートジボワール(以下「コ」国とする)からの呼びかけに応じ、PPP事業の一環としてNOVEL社はヤムスクロ郡自治体と合弁会社(YAANOVEL)を設立した。

(2) 計画・進捗状況

- プロジェクトは①コーヒー・カカオ、②イネ、③内水面養殖の三つを軸としたもので、対象地域はベディエ州内となる。
- ①はすでに2000haを自治体から譲渡(借地ではないという)され、開発総面積は1万5000haを見込んでいる。
- ②も開発総面積に1万5000haを見込んでおり、1万haをYAANOVELが自前で運営し、5000haは近隣稲作農家(Petit Bouake、Soubiakro、Koriakroの3地域)とする。
- ③は稲作開発の副産物的存在で、灌漑で貯留する水(河川水 or ため池)を利用するものである。

(3) 稲作プロジェクト

- 現在フィージビリティ調査を6ヵ月の予定で実施中。
- 1万5000haから生産されたコメはYAANOVELが買い上げ、YAANOVELのラベルで国内販売する。
- これまでNOVEL社は「コ」国物流網を持っていなかったが、フィージビリティ調査と併せて今年7月を目途に国内コメ流通網を整備する。
- 稲作開発と付随する社会的サービス(学校、保健医療施設等)にも資金提供する(30%は自治体、30%は住民負担)。
- プロジェクトはスイスのSyngenta(農産業開発商社)、AGCO(農業機械開発販売会社)らとパートナー関係を結び、農業生産にかかるコンサルタントとして参入してもらう。
- 水田の拡張開発、灌漑システムのリハビリは政府の役割だが、他のドナーからの協力申し出は歓迎したい(e.g.日本)。
- 1980年頃開発された灌漑稲作地域Yabraの650haを自治体から譲渡され、これを総面積

2000ha まで拡張する予定。

- ◆ **Soubiakro** では 120ha で稲作が行われており、現在パイロット・プロジェクトとして 5ha で種子を生産中。今年の 7 月から同種子を使って 100ha でイネを生産する予定。種子は苗代を作って移植（正条植え）を実施。元種は **AfricaRice** から入手した **WITA-9**。想定収量 4t/ha だが、**WITA-9** は高収量品種なので 8t/ha の単収は可能。**ANADER** の報告では 11t/ha とある。
- ◆ 今年 7 月から二期作目のデモ 15ha を **Syngenta** に実施してもらう。

（４）その他

- ◆ カカオは **Nesle** とパートナーを結び、**CNRA** から入手した優良種子の増殖を予定（ベディエ州内）。
- ◆ 内水面養殖では魚の冷凍施設建設を予定。
- ◆ 今回のプロジェクトの目的は食料自給にある。「コ」国は 1200 万 t 消費している。**NOVEL** 社はその内 80～90 万 t 輸入して国内に供給している。国の政策に則り、国内のイネ生産性を上げて、持続的食料自給に貢献する。
- ◆ 24 日（日）の **Soubiakro** 視察は歓迎する。**Hotel President** に投宿しているので、到着前に TEL 願いたい。現場を案内する。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	食用作物組合連合 FENACOVICI (Federation National des Cooperative de Vivries Cote d'Ivoire) への聞き取りおよび連合が運営する精米所の視察		
日時	2013年2月22日(金) 9:30-10:45	場 所	FENACOVICI オフィス、2 Plateau (精米所)Tiassale、2月26日訪問
主要参加 機関(者)	先方:(アビジャンオフィス) M. Clotaire Allegra/managing Director, M. Goly Jean Louis/Production, M. Boti/Commercialization (精米所) M. Aka Kodjane/Rep. Commercialization, M. Bouazo Touali/Mechanic (生産者組合) M. Attioua Koffi/president, Mr. Yao Koffi/Diretor 当方: 小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M. Dally Anselme/通訳 *精米所の視察には小林は不参加		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要: 食用作物組合の連合である FENACOVICI に活動内容の聞き取りを行い、後日、連合が所有・運営する精米所を視察した。

(1) 組合概要

- FENACOVICI は食用作物・野菜・果実全て(コメ、ソルガム、トウモロコシ、ラッカセイ、トマト、トウガラシ、ヤムイモ、キャッサバ、料理用バナナ)を取り扱う連合。メンバー組合には生産者組合、加工組合、流通・小売組合等、全てのアクターが含まれている。
- Cooperative として法的に登録しているメンバーは約 200、Association なども含めると約 1000 の団体関わっている。メンバーは全国に散らばる。ただし、流通・小売組合はアビジャンにしかない。
- 連合は組合の代表から構成される総会(Assemble General)、その下の district 地区代表(14名)、その下の Region 地区代表(190人)で構成される。
- 連合は組合が融資を受ける際の保証人になる。
- 最初は女性生産者組合が、生産物販売の促進のために流通・小売関係者を取り込んで、2002年に連合(Federation)を設立した。「コ」国で最初に設立された組合連合である。現在の連合代表(Mme. Collet)は小売人組合の代表だった。

(2) 活動内容

- 生産組合に対しては投入財の支援をしている。連合独自の農地を Tiassale に持つ計画があり、ここにモデルファームを開き、技術的問題の解決を図りたい。
- 加工は、Tiassale では精米(精米機は連合が所有)を、その他の土地ではキャッサバの加工(加工機械は連合から組合に贈与されている)がおこなわれている。
- 流通に関しては、内戦前は連合のトラックがあったが、今はない。運送コストの問題は大きく、中身よりもトラック代の方が高いこともある。距離によってトラック 1 台あたり

200,000-1,000,000CFA 程度。

- ◆ 連合独自の小売店はない。コメの専用倉庫をアビジャンに2つ所有しているが小型のもの。
- ◆ 政府のサポートには、研修・加工機械・機材（material）などがある。海外からの援助を直接受けたことはない。海外からの支援は必ず農業省を通して行われる。

（3）国産米の販売

- ◆ 国産米に関しては Tiassale に連合の所有する精米所がある。周辺の生産者組合から籾を買い取り、精米して 15kg 袋（FENACOVICI ブランド）に入れてアビジャンなどで販売する。今までは1日に3-5tの精米量だったが、強化して20t/日にしたい。コメは小売市場に出る前に、個人注文で売れてしまう。
- ◆ アビジャンの国産米への需要は強くなっていると思う。昔は、消費者は国産米には石が入っていると思っていたが、性能の良い精米機で除去できるようになったので評判が良くなった。2012年は1000t以上売ったが、2013年は3000tを越える予想。
- ◆ コメの乾燥状態が問題なため、乾燥機を導入する予定。
- ◆ コメの生産は十分あり、今後も増加が可能。問題なのは精米量のキャパシティ。Tiassale 以外にも Bouake や Man に精米機を導入したい。
- ◆ 畑から生産者組合までの運送は大きな問題。この問題解決のために連合所有の車両（KIA やトラクター）を入手しようとしている。
- ◆ 運送以外に、買取資金も問題。現在ファンドを探している。

（3）精米所（2/26 視察）

バナナ倉庫だった建物（10m×10m）のなかに、籾すり・精米・選別の3段式の精米機（中国製）を設置している（キャパ 1t/時、歩留まり 65%）。夾雑物除去装置も付いているので小石の除去も可能。ドライヤー（キャパ 5t）が納入されているが、使用はこれから。精米所スタッフは5人、バイトが16人。視察時はコメがないため稼働はしていなかった。建物は District のもので賃料を払っている。

- ◆ 現在の精米機は2010年に FENAOVICI が購入。それまでは、小型の機械を使用していた。FENACOVICI 所有の小型精米機は Man, Issia, Danane, Odiene にもある。
- ◆ 籾は生産者組合から 125-200CFA/kg（大体 175CFA）で買取り、175,000/50kg（350CFA/kg）で売る。精米所がアビジャンに運ぶ際は運賃を上乗せして 360-375CFA/kg で販売する。
- ◆ コメが足りない。精米所が農協に集荷に行くが 100km 先から 14t トラックで運ぶと運賃が 300,000CFA 前後。足りないときは Man まで集荷に行く（事前に人を送って栽培量を確認する）。このときの運賃は 1,000,000CFA 以上になる
- ◆ 条件（値段・決済方法）が合えばメンバー外との取引も可能。通常は現金決済だが、資金が足りないときは後払いになる。
- ◆ アビジャンでの販売には問題なく、メンバーの小売組合から注文が入る。Tiassale はアビジャンにも近く、小売組合とのコネクションも深い。
- ◆ 問題は、①選別機の性能を上げたい。現在は Whole と Broken の2種選別だが、選別種類を増やしたい。②精米機のキャパを 3t/時に挙げたい。③運搬用トラックが欲しい。
- ◆ 精米所の経営コストについては教えられない。

(4) 精米所と取引をしている生産者組合 (Cooperative Adjoko)

- ◆ 2007年にコメ栽培をスタートし、2009年に FENACOVICI に加入した。FENACOVICI に加入して良かったのは、大量に買ってくれるところ。年に 2000t ぐらい売る。
- ◆ 籾の価格はあまり安定しない。倉庫は持っていない。
- ◆ 畑から道路に出すのは農家がやる。トラクターや KIA トラック (3t) は 50,000CFA/day かかる。
- ◆ 生産コストの中で一番負担になるのは投入財。
- ◆ 支援は基本的に FENACOVICI から受ける。技術的な研修を ANADER から受けたことはある。栽培は直播でライン植え。この地域に昔から耕作機械は全くなく、すべて手作業で行っている。労働者は草取り 30,000CFA/ha、種まき 50,000CFA/ha。



会議 種類	■関連省庁との協議、□他ドナー協議、□民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	OCPV ヤムスクロ支所訪問		
日時	2013年2月25日(月) 14:20-15:30	場 所	OCPV ヤムスクロ支所
主要参加 機関(者)	先方：M. Ohoussan 当方：大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳、M.Koffi Niamkey/ローカル ンサルタント		
配布資料	■無、□有		
収集資料	□無、■有(ヤムスクロ地域の農産物価格・流通データ)		

●概要： OCPV ヤムスクロ支所を訪問し、ヤムスクロでの活動状況と、農産物情報の提供を求めた。

- 農産物の価格・流通状況は2013年2月から情報収集が止まっている。新しい商業大臣が、OCPVによる情報収集の手法や・コストについて検討に入ったためである。
- 1月までは、価格に関してはヤムスクロ市内の2つのマーケット、流通量に関してはヤムスクロ市と郊外を結ぶ4つの道路ポイントでチェックし、税金(重量に課税)を取っていた。
- 農家の消費・販売行動は人によって様々。例えばトウモロコシは、バウリは全て売るが、他の人は80%程度を売る。トマトはヤムスクロでは100%販売用。
- 集めた価格情報は、①OCPVの掲示板に週毎に掲示、②金曜日にラジオ放送、③市役所での掲示、④電話対応によって、周知していた。
- 価格収集はAgency(調査員)が毎週火曜・木曜に調査していた。
- ヤムスクロは農産物の中継地なので、流出する物がヤムスクロ産なのか、他から流入してきたものなのかを見極めることが困難。よって、地元から外へどれぐらい供給されているかが分からない。
- アチャケ、プラカリ、トマト、料理用バナナの流通量はある程度把握できるが、コメに関しては分からない。ヤムスクロではコメはほとんど地元消費だろう。近郊のSinflaやBonafliから入ってくるコメもある。
- 水・金・日曜日はヤムスクロでのマーケットデーなので、アビジャンからの買付トラックがたくさん来る。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA関係者との打合せ、□その他		
件名	BVP(Bureau de Vente de Productur)への聞き取り		
日時	2013年2月24日(月) 9:30-11:40	場 所	ブアケ卸市場内 BVP オフィス
主要参加 機関(者)	先方:(BVP) M. Nguessan Alexis/Director, M. Egau Kakou/Resp. of Mobilization, M. Yao Bekanti Bonespour/resp. information, Trabi Soli/Animatour (Regional MINAGRI, Bouake) Mme.Bleou/Director of Collaboration Dept., 当方:大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要: MINAGRI のプロジェクトの一つに、ブアケ卸売市場に BVP (生産者販売営業所) の設置があり、IFAD の支援が入っていることから、活動内容と支援状況についての聞き取りを行った。

(1) 農業省ブアケ支所表敬 (Mme.Bleou)

- BVP は内戦前に農業省のプロジェクトとして始まっていたが、内戦で活動を停止した。内戦後、地元の法学部の学生が NGO 活動として再開した。運営は NGO だが、プロジェクトの Owner は MINAGRI。
- 活動内容は OCPV と近いもので、農産物の価格と需要に関する情報を農家に提供すること。
- ブアケでオラム社がコメ栽培で動いていることは知らない。カシューと綿花では工場がある。オラム社は直接農家に行き、あまり役所には来ない。最近、土地問題に関する協議で人が来ていたようだ。

(2) BVP 概要

- 現代表の M. Nguessan Alexis 氏が法学部の学生だったときに始めた NGO 組織。スタッフの M. Egau Kakou 氏は内戦前は MINAGRI の職員で、内戦前の BVP 事業の担当だった。
- 内戦前の BVP は 1998 年から 2002 年まで機能していた。2004 年に BVP の機能は農家に移管されたがそのまま止まってしまった。
- 当時、学生だった Alexis 氏がアビジャンの MINAGRI に要望し、2007 年に NGO 活動として再開した。BVP は GIE (Group of Economical Interest) という法人格を 2009 年に取得。
- 活動初期は内戦でバラバラになった農民間の対話を促進し、Association として再組織をした。2007 年に 27 だった Association は現在 96 に増加している。今は、Cooperative 化への訓練をしている。
- BVP の目的は農家の商業化であり、役割は 2 つ。①市場情報 (価格と量) を提供する、② Association のトレーニング。
- 運営費は参加 Association からの会費 (tax?) で賄っており、独立運営。会費は売上の 5%

で村の Association がまとめて支払ってくる。農産物の値が下がった時などは、会費の支払いをしない団体もあるが、頻繁ではない。

- 事務所スタッフは 5 名。その他、各地の Association のメンバーがボランティアベースでの活動をしている。
- ピックアップ車両の提供を MINAGRI を通して IFAD (FIDA) から受けた。オフィスは卸売市場に 150,000CFA/月で借りている。フェルケセドゥグには FAO が建設した 25 万 t の農産物倉庫がある。
- 情報の提供方法は色々ある。①各地の agent (Association のスタッフ) が地域を回って提供、②農家が BVP オフィスに電話してくる、③SMS での提供 (一括送信ではなく個別対応)。価格情報は毎日チェックし、需要は価格から推測。
- 活動範囲は中北部 (Central Nord : ブアケ、フェルケセドゥグ、コロゴ、ブンディアリ)。しかし、範囲外の農民組織からの電話にも対応する。
- BVP はコーディネーションのみを行い、農産物の売買はしない。車両の手配なども行う。
- 農家の中には、農産物を売らないと運搬費を払えない人もいる。この問題に関しては、最近、会合があり、51 人の車両オーナーと話し合った。そこで提案された方法は、①BVP が運搬費を先払いし、②農産物販売後に農家が運搬費を BVP に払うというもの。
- (OCPV と機能が重複していないかとの質問に対し) OCPV は村には行かず、商人 (buyer) と消費者の観点から農産物価格を決定しようとしている。これに対し、BVP は農家との活動がメイン。

会議 種類	□関連省庁との協議、□他ドナー協議、■民間団体・NGO 等との協議		
	□日本大使館との打合せ、□JICA 関係者との打合せ、□その他		
件名	ブアケ卸市場内精米所		
日時	2013 年 2 月 24 日 (月) 10 : 20-11 : 40	場 所	ブアケ卸売市場内
主要参加 機関 (者)	先方 : 精米機テクニシャン (氏名不明) 当方 : 小林裕三/総括、大谷華子/農産物流通、M.Dally Anselme/通訳		
配布資料	■無、□有		
収集資料	■無、□有		

●概要 : ブアケ市場内にある中規模の精米所から聞き取りを行った。

- 中国製の精米機。異物除去機、選別機は無し。1 日に大体 5t 精米する。
- 粳を農家にまで買付けに行く。粳の価格は 150-175/kg。運賃は 10-15CFA/kg (距離による)。買付先は sakassou、Daoukro, Katiola など。粳の買付には特に困っていない。
- 精米の売値は 15,000-16,000/50kg。バイヤーが買い付けにやってくる。アビジャンから一回に 30t 程度買付に来る。需要は安定しない。
- 電気代は 25,000CFA/月、労働者 3 人給与が 15,000CFA/月、このほかゴミ (もみ殻) を捨て

るのにお金がかかる（35,000CFA 程度

- ◆ 糠は 50CFA/kg で売る。



以上

ドナー国・機関	プロジェクト内容	対象作物
1. マルチ協力案件		
BAD(アフリカ開発銀行)、FAD(アフリカ開発基金)	北西地域ダイズ栽培開発プロジェクト 協力期間：1989/12～22年 対象地域：オディエンネ、トゥーバ	ダイズと食用作物（陸稲、トウモロコシ、ヤムイモなど）
BAD、FAD、BADEA	中部コモエ農村開発プロジェクト(PADER-MC) 協力期間：2003～7年 対象地域：Abengourou, Agnibilékrou, Bédié	農民のキャパビル
BID（イスラム開発銀行）	上部ササンドラ・フォマージェ州農業水利整備プロジェクト(PAHAHSF) 協力期間：2006/2～未定 対象地域：Daloa, Gagnoa, Issia et Vavoua	農業基盤・灌漑開発（稲作、野菜）
BM（世銀）	農村部土地管理およびコミュニティインフラ開発プロジェクト 協力期間：1997-2010年 対象地域：Abengourou, Bangolo, Béoumi, Bouaké, Bondoukou, Dabakala, Daoukro, Daloa, Ferké, Korhogo, Sakassou, Soubré, Odienné	土地管理とコミュニティインフラ開発
CEDEAO(西アフリカ諸国経済共同体)	ダオクロ農業開発プロジェクト（PLDA Daoukro） 協力期間：1998/7～5年（F/U 2007-2008） 対象地域：Daoukro	多作物栽培（野菜、パフォン稲作、ゴム、ヒツジ飼養、キャッサバ等）
	ウエレ-エトウロクロ農業開発プロジェクト(PLDA OUELLE- 協力期間：2000/3～5年 対象地域：Daoukro（OUELLE-ETTROKRO）	多作物栽培（野菜、パフォン稲作、ゴム、養豚等）
EU	農地確保国家プロジェクト(PNSFR) 協力期間：2006/11～未定 対象地域：全国（ただし第1フェーズはAbengourou, Agnibiliékro, Daloa, Soubré, Tabou, San-Pedro, Sassandra, Aboisso, Adiaké	農地管理
FAD、BAOD(西アフリカ開発銀行)	ラック州農村開発プロジェクト(PADER- LACS) 協力期間：2002～5年 対象地域：Yamoussoukro, Tiébissou, Toumodi	稲作、水産（民間セクター支援）
FAO	CountrySTATプロジェクト 協力期間：2009～4年 対象地域：全国	農業統計
FED(欧州開発基金)	農業専門機関のリハビリおよび拡張ならびに機材整備プロジェクト(PROJET INFPA) 協力期間：1997～未定 対象地域：全国	農業専門職員のキャパビル
FIDA(国際農業開発基金)	サバンナ地域小規模野菜生産者支援プロジェクト 協力期間：2001～8年 対象地域：Korhogo, Boundiali, Ferké, Katiola, Bouaké, Béoumi, Sakassou	稲作および野菜
FIDA、BOAD	農業復興・貧困削減プロジェクト(PRAREP) 協力期間：2011～3年 対象地域：Bouaké Katiola, Béoumi, Sakassou, Boundiali, Ferké, Korhogo, Tengrela, Bouna	イネ、キャッサバ、ヤムイモ
IDA（国際開発協会）	西アフリカ農業生産性プログラム(PPAO/WAAPP) 協力期間：2011/9～10年 対象地域：全国	イネ、料理用バナナ
2. 二国間協力案件		
GTZ（GIZ）	農村ビジネスセンタープロジェクト（CMR） 協力期間：1994～10年 対象地域：全国	農民のキャパビル
GIZ	農村部における経済開発プログラム 協力期間：2007～2013年 対象地域：Taï National Park周辺	カカオ、天然ゴム、パームオイル、その他ミニプロジェクト対象物（養鶏、養殖など）

プロジェクト名	ドナー名	協力期間	対象地	協力形態
1. マルチ協力案件				
バグゥ渓谷総合農業プロジェクト	BADEA(アフリカ経済開発アラブ銀行)	2002年～11ヵ年	サバンナ州ブンジャリおよびテングレラ	借款
農業水利整備プロジェクト	BID(イスラム開発銀行)	2007年～7ヵ年	上部ササンドラおよびフォーマージュ州	借款
コメ緊急プログラム	BM(世銀)	2008年～3年	スブレ、ダロア、バンゴロ、ダウクロ、アベンゲル、ボンドゥク	借款
西アフリカ稲コンポーネントの農業生産性プログラム(WAAPP)	BM(世銀)	2011年～10ヵ年	全国	無償
バイアクロ農業水利整備計画	BOAD(西アフリカ開発銀行)/クウェート基金	2008年～5ヵ年	バイアクロ	借款
コメ緊急プログラム	BOAD(西アフリカ開発銀行)	2009年～2ヵ年	全国	借款
農民組織と中部灌漑地域の稲作農家へのサポートを通じて食料安全保障の基礎的知識の向上をサポートするプロジェクト	EU	2009年～2ヵ年	ラック州およびバンダマ渓谷州	借款
食料価格高騰に対応した西アフリカ稲作改善計画(APRAO)	FAO	2012年～	5県	無償
コメ緊急プログラム	FIDA(国際農業開発基金)	2009年～2ヵ年	サバンナ州およびバンダマ渓谷州	借款
イネ新品種の種子増殖・配布プロジェクト(CBSS)	UNDP/世銀	2001年～	全国	無償・借款
2. 二国間協力案件				
ギギドゥ農業水利整備計画	中国	1998年～	ギギドゥ	借款
中部カバリ地域住民生活安定化・気候変動対応プロジェクト/MINAGGRI	RFA(ドイツ)	2011年～1ヵ年	ギグロ	無償
西アフリカにおけるRYMV耐性水稻品種の評価・普及/CNRA	USAID	2009年～2ヵ年	ダバカラ、マン、ティアサレ、ガニョア、アビジャン	無償

国家優先プロジェクト一覧

PUBLIC

N°	Dénomination du projets	Coût Total	Acquis	Besoins en millions de	
				FCFA	Dollar (\$)
SECTEUR : AGRICULTURE					
Public 1	Projet de développement rural de la région de l'AGNEBY-TIASSA	29 400	0	29 400	59
Public 2	Projet de développement agricole de TRANSUA	11 000	0	11 000	22
Public 3	Projet de relance de la production vivrière dans la région de Ferkessédougou- Bouna	40 000	0	40 000	80
Public 4	Projet de développement agricole (PLDA) de Bongouanou	12 175	0	12 175	24
Public 5	Projet d' aménagement hydro-agricole des zones nord, centre et ouest	172 800	0	172 800	346
Public 6	Projet national de relance rizicole (aval)	74 000	0	74 000	148
Public 7	Appui à la diversification des productions vivrières autres que les céréales	14 384	0	14 384	29
Public 8	Programme national de sécurisation du foncier rural	55 000	0	55 000	110
Public 9	Programme d' appui au secteur coton	49 000	0	49 000	98
SOUS TOTAL		457 759	0	457 759	916
SECTEUR : ARTISANAT ET PME					
Public 10	Projet d' incubateur de PME	3 999	805	3 194	6
Public 11	Construction de la Casse moderne de Ndotré (superficie de 80 ha)	35 000	0	35 000	70
SOUS TOTAL		38 999	805	38 194	76
SECTEUR : CONSTRUCTION, ASSAINISSEMENT ET URBANISME					
Public 12	Réalisation de réseaux primaires et secondaires (assainissement du District d' Abidjan)	79 500	0	79 500	159
SOUS TOTAL		79 500	0	79 500	159
SECTEUR : EAUX ET FORETS					
Public 13	Projet intégré d' aménagement durable de 1.799.500 ha de forêts et de terres forestières sur le territoire national	25 470	1 630	23 840	48
SOUS TOTAL		25 470	1 630	23 840	48

SECTEUR : EDUCATION					
Public 14	Réhabilitation et équipement de 30 000 salles de classe du primaire (y compris points d' eau et latrines)	74 643	2 361	72 282	145
Public 15	Construction et équipement de 36 000 salles de classe	360 000	52 684	307 316	615
Public 16	Réhabilitation et équipement de 300 établissements du secondaire	18 452	13 843	4 609	9
Public 17	Construction et équipement de 99 lycées et collèges (10 collèges à base 4, 30 collèges à base 3 et 43 collèges de proximité, 16 lycées d' excellence)	205 991	92 498	113 493	227
Public 18	Construction de trois (03) CAFOP	10 650	300	10 350	21
SOUS TOTAL		669 736	161 686	508 050	1 016
SECTEUR : EMPLOIS					
Public 19	Création d' emploi jeunes et développement des compétences (100 000 emplois jeunes)	60 000	25 000	35 000	70
SOUS TOTAL		60 000	25 000	35 000	70
SECTEUR : ENSEIGNEMENT TECHNIQUE ET FORMATION PROFESSIONNELLE					
Public 20	Construction de dix (10) établissements de l' enseignement technique et de la formation professionnelle dont deux (02) dédiés aux filles	51 981	0	51 981	104
Public 21	Construction et équipement de huit (8) lycées professionnels (Abengourou, Bondoukou, Korhogo, Bouaké, Bouaflé, Adzopé, Séguéla, Daloa)	110 760	0	110 760	222
Public 22	Projets de réhabilitation et d' équipement de dix-sept (17) établissements de l' EFTP	9 994	655	9 339	19
SOUS TOTAL		172 735	655	172 080	344
SECTEUR : ENVIRONNEMENT ET DEVELOPPEMENT DURABLE					
Public 23	Projet de redynamisation du CIAPOL et de Mise en œuvre du plan POLLUMAR	16 418	121	16 297	33
SOUS TOTAL		16 418	121	16 297	33
SECTEUR : INFRASTRUCTURES HYDRAULIQUES					
Public 24	Réalisation de 500 systèmes HVA	61 425	0	61 425	123
Public 25	Réhabilitation de 6 000 pompes à motricité humaine et réalisation de 1 000 nouveaux points d' eau modernes	14 000	0	14 000	28
SOUS TOTAL		75 425	0	75 425	151
SECTEUR : INFRASTRUCTURES AEROPORTUAIRES					

Public 26	Réhabilitation/Renforcement et Développement de l' Aéroport International de Yamoussoukro	35 000	2 850	32 150	64
Public 27	Création d' un aéroport international à San-Pedro	60 200	0	60 200	120
SOUS TOTAL		95 200	2 850	92 350	185
SECTEUR : INFRASTRUCTURES ROUTIERES					
Public 28	Bitumage de la route Kani-Boundiali	59 030	127	58 903	118
Public 29	Bitumage de la route Tiébissou-Didiévi-Bocanda	41 468	397	41 071	82
Public 30	Bitumage BLOLEQUIN-TOULEPLEU-FRONTIERE LIBERIA	49 663	1 839	47 824	96
Public 31	Bitumage de la Route FERKESSEDOUGOU - NASSIAN - KONG	54 276	0	54 276	109
Public 32	Réhabilitation de 900 Ouvrages d' Art	11 500	500	11 000	22
Public 33	Construction de 1000 Ouvrages d' Art, de l' ouvrage sur la Tiemba (Odienné) et du pont de KANI	181 022	750	180 272	361
Public 34	Construction du Pont de Kouibly	14 500	0	14 500	29
Public 35	Bitumage de la route Korhogo-M' bengué-Niéllé/M' Bengué-Kanakono-Tengrela (210 km)	90 617	0	90 617	181
SOUS TOTAL		502 076	3 613	498 463	997
SECTEUR : ENERGIE					
Public 36	Valorisation du potentiel national des énergies renouvelables (biomasse, éolien, solaire et petite hydroélectricité)	6 615	574	6 041	12
Public 37	Programme d' électrification rurale (200 localités par an)	90 000	200	89 800	180
Public 38	Subvention de 80 000 branchements sociaux	16 000	1 500	14 500	29
SOUS TOTAL		112 615	2 274	110 341	221
SECTEUR : POSTE ET TECHNOLOGIES DE L' INFORMATION					
Public 39	Projet e-education/ e-santé	115 841	1 984	113 857	228
SOUS TOTAL		115 841	1 984	113 857	228
SECTEUR : RESSOURCES ANIMALES ET HALIEUTIQUES					
Public 40	Projet d' appui au développement de la pêche continentale	14 400	0	14 400	29

Public 41	Projet d' appui au développement de l' aquaculture	18 900	0	18 900	38
Public 42	Projet d' appui au développement de l' élevage en Côte d' Ivoire	24 300	2 200	22 100	44
Public 43	Projet de gestion intégré des ranches et stations (PROGIRS)	16 700	2 300	14 400	29
Public 44	Projet de relance de la filière porcine par l' amélioration génétique	2 400	100	2 300	5
SOUS TOTAL		76 700	4 600	72 100	144
SECTEUR : SANTE ET LUTTE CONTRE LE VIH SIDA					
Public 45	Réhabilitation et Rééquipement des Centres de Santé (600 ESPC)	25 500	418	25 082	50
Public 46	Construction et équipement de 450 ESPC (y compris CAT et SSSU)	58 250	0	58 250	117
Public 47	Programme Spécial Réhabilitation et équipement CHR et HG	81 800	1 741	80 059	160
Public 48	Mise aux normes des Plateaux Techniques des Structures sanitaires	16 900	260	16 640	33
Public 49	Construction/réhabilitation et équipement du Centre National de Transfusion sanguine	5 640	0	5 640	11
Public 50	Programme National de Lutte contre le Paludisme (PNLP) (Projet de passage à échelle des interventions de lutte contre le Paludisme dans un contexte de reconstruction nationale	15 116	0	15 116	30
Public 51	Programme National de Prise en Charge des Personnes Vivant avec le VIH (Renforcement du PNPEC)	42 633	0	42 633	85
SOUS TOTAL		245 839	2 419	243 420	487
SECTEUR : TOURISME					
Public 52	Développement de l' éco-tourisme (parcs du COMOE, MARAHOUE, TAÏ, îles EHOTILE)	10 000	0	10 000	20
SOUS TOTAL		10 000	0	10 000	20
SECTEUR : TRANSPORTS					
Public 53	Projet de construction des gares lagunaires de koumassi nord-est, niangon loko et mossikro	7 500	0	7 500	15
Public 54	Construction/réhabilitation des infrastructures de base des transports lagunaires (Construction de 8 des 15 gares lagunaires de transport interurbain de personnes et de marchandises, et réhabilitation des quais et appontements de 4 localités)	5 400	0	5 400	11

SOUS TOTAL	12 900	0	12 900	26
TOTAL	2 767 213	207 636	2 559 577	5 119

<http://www.gcpnd.gouv.ci/pppdoc.php?type=1&lang>

PPP

N°	Dénomination du projets	Coût Total	Acquis	Besoins en millions de	
				FCFA	Dollar
AGRICULTURE					
PPP 1	Relance production Maïs/Soja	17 400	0	17 400	35
PPP 2	Création de complexes rizicoles en CI	500 000	0	500 000	1 000
PPP 3	Projet pilote d' appui à la production, à la transformation et à la commercialisation du riz irrigué	11 907	0	11 907	24
SOUS TOTAL		529 307	0	529 307	1 059
COMMERCE					
PPP 4	Construction des marchés de gros d' Abidjan et de 07 chefs lieu de région	123 000	100	122 900	246
PPP 5	Parc d' exposition d' Abidjan	53 800		53 800	108
SOUS TOTAL		176 800	100	176 700	353
COMMUNICATION					
PPP 6	Infrastructures et équipements pour le passage à la Télévision terrestre numérique	60 000	445	59 555	119
SOUS TOTAL		60 000	445	59 555	119
CONSTRUCTION, ASSAINISSEMENT ET URBANISME					
PPP 7	Aménagement et vente de terrain AGEF/Secteur privé	109 000	0	109 000	218
PPP 8	Réhabilitation de l' immeuble de la Pyramide	18 000	0	18 000	36
PPP 9	Réhabilitation de la Cité Administrative (5 tours A, B, C, D et E)	105 000	2 373	102 627	205
SOUS TOTAL		232 000	2 373	229 627	459
ENSEIGNEMENT SUPERIEUR					
PPP 10	Construction de l' Université de Daloa	98 000	0	98 000	196
PPP 11	Construction de l' Université de Korhogo	98 000	0	98 000	196
PPP 12	Construction et entretien de l' Université de Bondoukou	184 000	0	184 000	368
PPP	Construction et entretien de l' Université de Man	184 000	0	184 000	368

13					
PPP 14	Construction et entretien de l' Université de San Pedro	184 000	0	184 000	368
PPP 15	Construction d' un Village Universitaire dans la zone d' Abidjan	300 000	0	300 000	600
SOUS TOTAL		1 048 000	0	1 048 000	2 096
ENVIRONNEMENT ET DEVELOPPEMENT DURABLE					
PPP 16	Aménagement du parc du Banco	11 900	121	11 779	24
PPP 17	Aménagement de Dalhia Fleur	7 500	2 500	5 000	10
SOUS TOTAL		19 400	2 621	16 779	34
INDUSTRIE					
PPP 18	AGROPARC industriel	34 600	0	34 600	69
PPP 19	Réhabilitation des zones industrielles d' Abidjan	55 000	0	55 000	110
PPP 20	Aménagement des nouvelles zones industrielles des villes de l' intérieur	105 000	0	105 000	210
PPP 21	Aménagement de nouvelles zones industrielles d' Abidjan	75 000	0	75 000	150
SOUS TOTAL		269 600	0	269 600	539
INFRASTRUCTURES FERROVIAIRES					
PPP 22	Réhabilitation de l' axe ferroviaire Abidjan-Ouagadougou-Kaya	115 000	0	115 000	230
PPP 23	PASP - Construction du chemin de fer minéralier SAN PEDRO - MAN et du quai minéralier du port de SAN PEDRO	870 000	0	870 000	1 740
SOUS TOTAL		985 000	0	985 000	1 970
INFRASTRUCTURES PORTUAIRES					
PPP 24	PAA - construction et exploitation d' un quai minéralier au port d' Abidjan	34 375	0	34 375	69
PPP 25	PAA - Création et exploitation d' un Terminal céréalier	30 000	0	30 000	60
PPP 26	PAA -Construction et gestion station de déballastage (unité de traitement des slops et effluents industriels	18 000	0	18 000	36
PPP 27	PASP - Aménagement d' une zone portuaire (181 ha)	84 500	0	84 500	169

PPP 28	PASP- Aménagement et exploitation d' un terminal à conteneurs	132 000	0	132 000	264
SOUS TOTAL		298 875	0	298 875	598
INFRASTRUCTURES ROUTIERES					
PPP 29	Réhabilitation et entretien de l' axe routier Abidjan - Yamoussoukro-Bouaké-Korhogo-Ferké-Ouangolo-Frontière	255 138	0	255 138	510
PPP 30	Réhabilitation et entretien de l' axe routier Abidjan-Abengourou-Agnibilékrou-Bondoukou-Bouna-Frontière et bitumage Bondoukou - Ghana	183 405	0	183 405	367
PPP 31	Réhabilitation et entretien de l' axe routier San-Pedro-Man-Touba - Odienné et bitumage Odienné-Samatiguila-Frontière Mali	181 244	0	181 244	362
PPP 32	Réhabilitation et entretien de l' axe routier de la côtière ABIDJAN-SAN PEDRO-TABOU	98 131	0	98 131	196
SOUS TOTAL		717 918	0	717 918	1 436
INTERIEUR					
PPP 33	Système intégré de Video-surveillance des institutions, des espaces et édifices publics (SIVIEEP)	75 000	0	75 000	150
SOUS TOTAL		75 000	0	75 000	150
LOGEMENT					
PPP 34	5000 logements Police, Gendarmerie, FRCI et autres fonctionnaires	100 000	0	100 000	200
PPP 35	Construction de 60 000 logements	428 000	0	428 000	856
SOUS TOTAL		528 000	0	528 000	1 056
ÉLECTRICITÉ ET HYDROCARBURES					
PPP 36	Construction du gazoduc Côte d' Ivoire-Ghana	122 500	0	122 500	245
PPP 37	Construction de dépôt d' hydrocarbures et d' un quai pétrolier à San Pedro	101 312	0	101 312	203
PPP 38	Construction du dépôt de produits pétroliers de Ferké.	57 500	0	57 500	115
PPP 39	Construction d' un terminal flottant de stockage et de regazéification de gaz naturel	115 000	0	115 000	230
PPP 40	Création de centres emplisseurs (gaz) dans les districts	29 100	0	29 100	58
PPP 41	Extension et réhabilitation du réseau de transport et de distribution d' électrique	400 000	0	400 000	800

SOUS TOTAL		825 412	0	825 412	1 651
POSTE ET TECHNOLOGIES DE L' INFORMATION					
PPP 42	Projet de maillage du pays en fibre optique	100 000	45 000	55 000	110
PPP 43	Projet de 5000 cyber centres dans les villages	20 000	0	20 000	40
SOUS TOTAL		120 000	45 000	75 000	150
RESSOURCES ANIMALES ET HALIEUTIQUES					
PPP 44	Construction du complexe abattoir-marché à bétail d' Abidjan-Anyama	21 200	0	21 200	42
SOUS TOTAL		21 200	0	21 200	42
SANTE ET LUTTE CONTRE LE VIH SIDA					
PPP 45	Achèvement, équipement et exploitation de l' Hôpital d' Angré	21 600	0	21 600	43
PPP 46	Construction, équipement et exploitation du Centre de médecine nucléaire	3 000	0	3 000	6
PPP 47	Réhabilitation, équipement et entretien du CHU de Yopougon	40 000	0	40 000	80
PPP 48	Réhabilitation, équipement et entretien du CHU de Cocody	20 000	0	20 000	40
PPP 49	Réhabilitation, équipement et entretien du CHU de Treichville	30 000	0	30 000	60
PPP 50	Réhabilitation, équipement et entretien du CHU de Bouaké	15 000	0	15 000	30
PPP 51	Réhabilitation, équipement et entretien du CHR de Korhogo	15 000	0	15 000	30
PPP 52	Réhabilitation, équipement et entretien de l' Institut de cardiologie d' Abidjan	10 000	0	10 000	20
PPP 53	Construction/équipement et exploitation du Centre National de radiothérapie et d' oncologie médicale d' Abidjan	10 500	0	10 500	21
SOUS TOTAL		165 100	0	165 100	330
SPORTS ET LOISIRS					
PPP 54	Construction du lycée Sport étude de Bouaké (1000 élève)	7 057	0	7 057	14
SOUS TOTAL		7 057	0	7 057	14
TOURISMES					
PPP 55	Réhabilitation exploitation Hôtel du Golf et de l' Ivoire Golf Club d' Abidjan	41 000	0	41 000	82

PPP 56	Réhabilitation exploitation Hôtel Président de Yamoussoukro, du Golf Hôtel de Yamoussoukro et du Parc Animalier de Abokouamékro	30 000	0	30 000	60
PPP 57	Réhabilitation de 5 ex-hôtels SIETHO et Construction de 25 hôtels 3 étoiles dans les capitales régionales	87 500	0	87 500	175
SOUS TOTAL		158 500	0	158 500	317
TRANSPORTS					
PPP 58	Création de centres d' examen du permis de conduire (10 centres)	4 500	0	4 500	9
PPP 59	Concession pour le financement, l' aménagement, la construction, l' exploitation et l' entretien de la nouvelle gare routière interurbaine d' Abidjan	45 000	100	44 900	90
PPP 60	Construction et exploitation de poste de péage (3 postes)	9 000	0	9 000	18
SOUS TOTAL		58 500	100	58 400	117
TOTAL					
		6 295 669	50 638	6 245 032	12 490

<http://www.gcpnd.gouv.ci/pppdoc.php?type=2&lang>

	県	村	個人情報				エスニック・グループ名	宗教	結婚	家族人数	家族内労働人数	識字	学歴
			氏名	性別	年齢	国籍							
1	YAMOISSOUKRO	SEMAN	YAO N'GUESSAN	M	44	IVOIRIEN	BAOULE	CATHLIQUE	MARIE	10	2	NON	
2			DIOMANDE ZANGON RENDI	M	60	IVOIRIEN	YACOUBA	CATHLIQUE	MARIE	9	3	NON	SECON
3			YAO ADJARE BERNADE	F	40	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	CELIBA	20	2	OUI	TD
4			KOUADIO N'GUESSAN	M	44	IVOIRIEN	BAOULE	CATHLIQUE	MARIE	10	2	OUI	TD
5			NZI TEHOUA ACHILLE	M	39	IVOIRIEN	AGNI	BAPTISTE	MARIE	3	1	OUI	CM2
6			YEOUA YAO KOUAMAN	M	40	IVOIRIEN	ABOU	MUSULMAN	MARIE	11	1	OUI	CM2
7			OUATIKA SALIA	M	45	IVOIRIEN	ANINMI	MUSULMAN	MARIE	10	1	OUI	CFT
8			KOUAKOU KOFFI PATRICE	M	29	IVOIRIEN	BAOULE	CELIBA	CELIBA	2	1	NON	
9			KOUASSI KOUADIO JEAN	M	35	IVOIRIEN	BAOULE	CELIBA	MARIE	4	2	OUI	CM1
10			KOANDA LOUMAILA	M	46	BURKINABE	MOSSI	MUSULMAN	MARIE	11	1	NON	
11			KONEN YAO ARSENE	M	36	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	MARIE	6	2	OUI	CM2
12			KONEN KOUASSI AUGUESTIN	M	58	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	MARIE	8	4	NON	CP2
13			KOFFI NIAMIEN NATHALIE	F	44	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	MARIE	7	4	NON	
14			KOUAKOU KOUADIO EDIE	M	35	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	MARIE	4	2	OUI	CE2
15			KOUASSI YAO	M	44	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	MARIE	15	3	OUI	CM2
16	TOUMODI	ANONGBLIN	MOUSA KANTE	M	53	GUINEEN	MALINKE	MUSULMAN	MARIE	11	5	NON	
17			BAMBARA CHARLES	M	26	IVOIRIEN	MALINKE	CATHLIQUE	CELIBA	5	2	OUI	PRIMAIRE
18			SOLO TENA	M	48	IVOIRIEN	SENOUFO	MUSULMAN	MARIE	6	4	OUI	SECON
19			SAMADOGO BRAHIMA	M	43	BURKINABE	MOSSI	MUSULMAN	MARIE	7	2	OUI	3E
20			SORO NAHOUA ADAMA	M	21	IVOIRIEN	SENOUFO	MUSULMAN	CELIBA	4	4	OUI	SUPERIEUR
21			SEKONGO DONAPOHO	M	33	IVOIRIEN	SENOUFO	MUSULMAN	MARIE	5	3	NON	
22			KOUAKOU KOUAKOU BERTIN	M	48	IVOIRIEN	BAOULE	MUSULMAN	MARIE	7	1	OUI	CM2
23			LOZENI OUAATTARA	M	41	IVOIRIEN	SENOUFO	MUSULMAN	MARIE	8	2	OUI	PRIMAIRE
24			KOLO SORO	M	38	IVOIRIEN	SENOUFO	CATHLIQUE	MARIE	7	3	OUI	CM2
25			SORO POTANGA	M	62	IVOIRIEN	SENOUFO	MUSULMAN	MARIE	4	2	NON	
26			DIALO OUSMANE	M	53	GUINEEN	PHEUL	MUSULMAN	MARIE	6	3	NON	
27			OUAATTARA OUAANDREMIN	M	17	IVOIRIEN	PHEUL	MUSULMAN	CELIBA	11	3	OUI	CM2
28			KANTE MORY	M	52	GUINEEN	MUSULMAN	MUSULMAN	MARIE	21	7	NON	
29			DRABO DAODA	M	35	BURKINABE	SAMOHO	MUSULMAN	MARIE	8	5	NON	
30			SINDE YACOUBA	M	30	BURKINABE	MALINKE	MUSULMAN	CELIBA	8	5	NON	
31	GRAND-BASSAM	YAOU	MAHOUMOU YOYO MELANIE	F	56	GUINEEN	GBRESSE	CHRETIEN	CELIBA	4	2	OUI	CM1
32			TRO ZE HELENE	F	62	IVOIRIEN	YACOUBA	CHRETIEN	MARIE	9	3	NON	SUPERIEUR
33			AYE EKRA JAQUES	M	32	IVOIRIEN	ABOURE	CHRETIEN	MARIE	3	2	OUI	
34			AMANI AKISSI DIA SARAKA	F	45	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	MARIE	5	2	OUI	
35			ASSOUJON ADJE AMBROISE	M	40	IVOIRIEN	ABOURE	CHRETIEN	CELIBA	6	2	OUI	SECON
36			KOUASSI SYDONIE	F	29	IVOIRIEN	BAOULE	CHRETIEN	MARIE	3	2	OUI	SECON
37			DOUA ERNEST	M	54	IVOIRIEN	YACOUBA	CHRETIEN	MARIE	9	3	OUI	PRIMAIRE
38			KOLIE ELIE	M	40	GUINEEN	GBRESSE	CHRETIEN	CELIBA	3	2	OUI	PRIMAIRE
39			DOLE NATHALIE	F	35	IVOIRIEN	YACOUBA	CHRETIEN	CELIBA	9	4	NON	
40			DABIRE OLE	M	45	BURKINABE	LOBI	CHRETIEN	MARIE	10	5	NON	
41			BANSE FATI	F	32	BURKINABE	BOUSANGA	MUSULMAN	MARIE	4	2	NON	
42			ANGUETE SOUMANHIN JEAN	M	34	IVOIRIEN	ABOURE	CHRETIEN	MARIE	7	4	OUI	SUPERIEUR
43			LESO ISSAKA	M	32	BURKINABE	MORE	MUSULMAN	MARIE	4	2	NON	
44			TIENDIEN BREDGO SENY	M	41	BURKINABE	MORE	CHRETIEN	MARIE	5	2	NON	
45			KABORE PAULIN	F	37	BURKINABE	MORE	CHRETIEN	MARIE	6	2	OUI	SECON
46	SIKENSI	SIKENSI	SEYDOU KONE	M	80	IVOIRIEN	MALINKE	MUSULMAN	MARIE	21	1	NON	
47			KRE N'GBAFFERE KOUASSI PHILIPPE	M	44	IVOIRIEN	ABIDJI	CATHLIQUE	MARIE	9	2	OUI	5e
48			SANA SALIFOU	M	72	BURKINABE	MOSSI	MUSULMAN	MARIE	10	1	NON	
49			BOUKARI SAWADOGO	M	42	BURKINABE	MOSSI	MUSULMAN	CELIBA	6	3	NON	
50			AYO GNAGORO DAVID	M	44	IVOIRIEN	ABIDJI	PROTESTANT	MARIE	7	1	OUI	5e
51			NDRI NIANGORAN YOUNINE	F	43	IVOIRIEN	AGNI	PROTESTANT	MARIE	6	1	NON	ISLAMIQUE
52			BARRO DRAMANE	M	47	BURKINABE	DIOULA	MUSULMAN	MARIE	8	6	OUI	1e
53			KOFFI KOUASSI	M	50	IVOIRIEN	BAOULE	AMINISTE	MARIE	17	1	OUI	
54			ABBOULAYE FOFANA	M	49	IVOIRIEN	MALINKE	MUSULMAN	MARIE	7	1	OUI	CM2
55			KONE LACINA	M	42	MALIEN	MALINKE	MUSULMAN	CELIBA	7	3	OUI	SUPERIEUR
56			GOLY KOUASSI	M	42	IVOIRIEN	BAOULE	MUSULMAN	CELIBA	3	2	OUI	CM2
57			OUEPRAOGO ASSANE	M	52	BURKINABE	MOSSI	MUSULMAN	MARIE	8	5	NON	
58			DJALLO SITA	M	35	BURKINABE	POULE	MUSULMAN	MARIE	4	3	NON	
59			SAMOUKA BAMBA	M	72	IVOIRIEN	MALINKE	MUSULMAN	MARIE	13	1	NON	
60			MANDE ADAMA	M	52	IVOIRIEN	MALINKE	MUSULMAN	MARIE	4	1	NON	

農協組織		普及機関			普及員への要望		MINAGRI/ANADERへの要望	
設立年	設立者	構成員数	役員	年会費	活動・委員会	指導内容	普及員への要望	MINAGRI/ANADERへの要望
1	2000	PRC	15	0	水管理 販売 会計 組合長	技術	技術 技術 技術	研修 投入材 技術 技術 技術 研修
2	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
3	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
4	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
5	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
6	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
7	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
8	2000	NOUS	17	0	水管理 機械オペレーター 機械管理 組合長 生産管理 会計	正条植え 正条植え 正条植え 栽培技術 正条植え—ONDR 正条植え	技術 技術 技術 技術 技術 技術 技術 技術 技術	新運機、投入材 耕運機、シート、貯蔵庫 農業機械、投入材、シート、貯蔵庫 種子、投入材、機械 機械、シート、種子、貯蔵庫 融資 種子、投入材、シート、貯蔵庫 販売、機械、投入材
9	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
10	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
11	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
12	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
13	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
14	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
15	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
16	1999	ANADER	15	0	取水口・水路整備 機械使用、資材購入	田植え、農薬	技術、研修 技術 訪問	組織化、技術、クレジット 投入材、技術 投入材、技術 種子、投入材、組織化 技術
17	↑	↑	↑	2,000	↑	↑	↑	↑
18	↑	↑	↑	0	↑	↑	↑	↑
19	↑	↑	↑	2,000	↑	↑	↑	↑
20	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
21	↑	↑	↑	↑	共同作業	技術	訪問	投入材、技術
22	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
23	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
24	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
25	↑	↑	↑	↑	共同作業	技術	訪問	投入材、技術
26	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
27	↑	↑	↑	↑	圃場整備 共同作業、	種子提供	技術、研修	機械
28	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
29	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
30	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
31	2004 未加入	ANADER	52	15,000	生産・加工・機械利用 興味なし	圃場準備、播種、投入材、単取測定	技術	機械、種子、投入材
32	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
33	2004	ANADER	52	15,000	生産・加工・機械利用	圃場準備、播種、投入材、単取測定	技術、種子 技術、訪問	普及サービスの充実 技術、資金 組織化、資金
34	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
35	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
36	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
37	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
38	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
39	未加入	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
40	2004	ANADER	52	15,000	生産・加工・機械利用	圃場準備、播種、投入材、単取測定	技術、種子 技術、訪問	普及サービスの充実 技術、資金 組織化、資金
41	未加入	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
42	未加入	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
43	未加入	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
44	未加入	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
45	未加入	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
46	なし	↑	↑	15,000	加入したくない 加入したくない	稲作子玉、組織化 播種、肥培管理	技術、水管理、土壌学 普及指導	資金 資金
47	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
48	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
49	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
50	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
51	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
52	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
53	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
54	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
55	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
56	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
57	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
58	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
59	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
60	なし	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

圃場情報		移動手段		所要時間	灌漑		灌漑タイプ	水源	劣働力不足
所有者	距離 自宅～圃場 km	移動手段		所要時間 mm	灌漑		灌漑タイプ	水源	劣働力不足
1	MOI	2	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
2	LOC	2	PIEDS	75	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	OUI
3	LOC	3	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	OUI
4	MOI	2.5	PIEDS	90	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
5	LOC	2	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
6	LOC	2	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
7	LOC	3	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
8	LOC	3	PIEDS	45	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	OUI
9	LOC	2	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	OUI
10	LOC	4	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	OUI
11	MOI	5	PIEDS	120	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
12	LOC	3.5	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
13	LOC	3	PIEDS	60	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	NON
14	LOC	3	PIEDS	20	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	OUI
15	LOC	3	VELO	15	IRRIGUEE	RETENUE	IRRIGUEE	RETENUE	OUI
16	LOC	0.1	PIEDS	1	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	OUI
17	MOI	0.1	PIEDS	5	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
18	LOC	2	VELO	15	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
19	LOC	1	VELO	10	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
20	LOC	5	MOTO	30	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
21	LOC	4	MOTO	15	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
22	MOI	4.5	MOTO	30	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	OUI
23	MOI	5	VELO	60	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
24	LOC	4	VELO	15	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
25	LOC	5	MOTO	30	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
26	LOC	2	VELO	10	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	OUI
27	LOC	5	VELO	50	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
28	LOC	0.1	PIEDS	5	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	OUI
29	LOC	0.5	VELO	30	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
30	LOC	0.1	PIEDS	3	BAS-FONDS	PLUIE	BAS-FONDS	PLUIE	NON
31	LOC	0.2	PIEDS	5	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
32	LOC	1.5	PIEDS	30	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
33	LOC	8	MOTO	10	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	OUI
34	LOC	5	TAXI BROUSSE	15	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
35	LOC	8	TAXI BROUSSE	15	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
36	LOC	8	TAXI BROUSSE	10	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
37	LOC	4	PIEDS	45	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
38	LOC	0.3	PIEDS	10	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
39	LOC	3	PIEDS	45	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
40	LOC	2	VELO	15	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
41	LOC	0.2	PIEDS	10	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	OUI
42	MOI	0.1	PIEDS	5	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
43	LOC	0.05	PIEDS	2	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
44	LOC	2	PIEDS	45	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	OUI
45	LOC	4	TAXI BROUSSE	20	INONDE	PLUIE	INONDE	PLUIE	NON
46	LOC	2.5	PIEDS	60	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
47	MOI	45	PIEDS	45	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
48	LOC	4	VELO	30	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
49	LOC	2	VELO	30	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	OUI
50	MOI	3	PIEDS	30	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
51	LOC	3	PIEDS	60	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
52	LOC	3	VELO	60	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
53	LOC	3	PIEDS	40	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	OUI
54	LOC	3	PIEDS	60	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
55	LOC	5	VELO	45	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	OUI
56	LOC	5	VELO	45	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	OUI
57	LOC	3	VELO	40	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	NON
58	LOC	1	PIEDS	25	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	OUI
59	LOC	9	VELO	40	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	OUI
60	MOI	2	PIEDS	30	PLUVIAL	PLUIE	PLUVIAL	PLUIE	OUI

稻作情報(1)

作付 回数 /年	理由	栽培 経験 年	作付 開始 月	收穫 開始 月	作付 開始 月	收穫 開始 月	取穫 開始 月	栽培 面積 ha	畝數	乾期水	栽培 方法	種子		入手先	
												播種量 kg/ha	F		
1	資金	20	7	12			1.5	44	A	F	F	450	40	27,000	ONDR
2	資金	7	9	1			1	25	A	F	F	450	40	18,000	ONDR
3	資金、人手	3	8	12			1	30	A	F	F	150	15	2,250	PAYSAN
4	資金	9	8	12			1	25	A	L	F	200	50	10,000	MARCHE
5	資金	5	1	6		8	12	20	A	F	F	200	70	14,000	MARCHE
6	資金	1	8	12			1	24	A	F	F	450	40	18,000	MARCHE
7	資金	9	1	6		8	12	36	A	F	F	450	40	18,000	MARCHE
8	人手、機械	1	4	7		11	2	22	A	F	F	450	40	9,000	ONDR
9	人手、機械	12					1	25	A	F	F	450	40	18,000	ONDR
10	人手、機械	1	30	A			1	30	A	F	F	450	40	18,000	ONDR
11	耕運機	21	8	11		12	4	36	A	F	F	450	45	54,675	ONDR
12	耕運機	5	6	10		1	0.5	10	A	F	F	450	40	9,000	ONDR
13	耕運機	6	10	1		4	0.5	4	A	F	F	450	30	6,750	ONDR
14	資金	3	1	4		6	9	15	55	A	L	450	53	35,775	ONDR
15	資金	2	6	9		12	3	15	40	A	F	450	40	27,000	ONDR
16	水	20	3	6		10	1	20	M	F	F		33	0	PROPRE
17	水	30	8	11		1	1.5	30	M	F	F		50	0	PROPRE
18	水	22	8	12		12	0.5	9	M	V	F		60	17,100	PAYSAN
19	水	20	8	12			0.95	10	M	F	F	300	100	0	PAYSAN
20	水	22	8	12		10	0.5	10	M	F	F		0	0	PROPRE
21	水	5	6	10		10	2	30	M	F	F		40	60,000	ONDR
22	水、人手	16	5	8		6	2.5	58	M	L	F		50	0	PROPRE
23	水、人手	30	3	6		1	0.75	14	M	F	F		56	0	PROPRE
24	水	6	9	1			1.5	44	M	F	F	600	27	24,300	ONDR
25	水	25	8	12		11	1.5	15	M	F	F		50	0	PROPRE
26	水、資金	18	8	11			0.5	15	M	F	F		66	0	PROPRE
27	水	20	10	1		6	10	18	M	F	F		0	0	PROPRE
28	水	14	3	6		12	1.5	32	M	F	F		0	0	PROPRE
29	資金	25	9	12		9	1	10	M	L	F		0	0	COOP(ONDR)
30	資金	20	3	7			0.1	1	M	V	V		40	10,000	PROPRE
31	水	8	4	8			0.5	1	M	V	V		40	240,000	JARDINERIE
32	水	20	3	7			12	1	M	V	V		0	0	PAYSAN
33	水	4	4	8			1	1	M	V	V		50	80,000	JARDINERIE
34	水	8	4	8			1	1	M	V	V		40	20,000	PAYSAN
35	水	8	4	8		10	4	1	M	V	V		50	25,000	COOP
36	水	4	4	8			1	1	M	V	V		50	21,875	PAYSAN
37	水(過剩)	30	4	8			0.5	1	M	V	V		50	3,750	PAYSAN
38	水(過剩)	3	4	8			0.25	1	A	V	V		100	22,500	PAYSAN
39	水(過剩)	3	4	8			1.5	1	M	V	V		120	24,000	DON
40	資金	22	4	8			0.5	1	A	V	V		50	10,000	PAYSAN
41	資金	3	4	8			0.5	1	A	V	V		300	67,500	PAYSAN
42	手作業	20	4	8			0.5	1	M	V	V		200	15,000	DECORTIQUE
43	他活動	12	4	8			0.5	1	A	V	V		150	3,000	DECORTIQUE
44	水	14	3	8			0.5	1	M	V	V		200	12,000	PAYSAN
45	水(過剩)	22	3	8			1.5	2	M	V	V		400	60,000	PAYSAN
46	水	36	3	7			1.5	1	M	P	P		200	15,000	DECORTIQUE
47	水	2	3	7			1.5	1	M	P	P		150	3,000	DECORTIQUE
48	種子	4	3	7			1.5	1	M	P	P		33	12,375	DECORTIQUE
49	水	12	3	8			2	1	M	P	P		15	3,000	DECORTIQUE
50	水	7	3	7			2	1	M	P	P		10	3,000	PAYSAN
51	水	4	3	7			1	1	M	P	P		20	3,000	DECORTIQUE
52	水	15	3	7			2	1	M	P	P		25	15,000	PAYSAN
53	水	7	3	6			2	1	M	P	P		0	0	PAYSAN
54	水	25	3	6			2	1	M	P	P		300	12,000	PAYSAN
55	水	3	3	7			2	2	M	P	P		250	6,000	PAYSAN
56	水	2	3	8			1	1	M	P	P		50	12,500	PAYSAN
57	水	2	3	8			1	1	M	P	P		50	12,500	DECORTIQUE
58	水	3	3	7			2	1	M	P	P		30	15,000	DECORTIQUE
59	水	28	3	6			2	1	M	P	P		50	30,000	DECORTIQUE
60	水	5	3	7			0.5	1	m	P	P		200	5,000	DECORTIQUE

稲作情報(2)

No.	肥料				除草剤				殺虫剤				農業資材 投入額 F/ha
	NPK		除毒剤		殺虫剤		殺虫剤		総額(F)	使用量(L)	単価(F/L)	入手先	
	単価(F/袋)	施肥量(kg/ha)	総額	単価(F/L)	施肥量(L)	使用量(L)	総額(F)	入手先					
1	20,000	100	60,000	150	90,000	ONDR	ONDR	38,000	4	9,500	ONDR	ONDR	143,333
2	20,000	100	40,000	200	80,000	ONDR	MARCHE	22,000	2	11,000	MARCHE	MARCHE	160,000
3	20,000	100	40,000	50	20,000	ONDR	MARCHE	9,000	3	3,000	MARCHE	MARCHE	76,250
4	20,000	100	40,000	200	80,000	MARCHE	MARCHE	30,000	3	10,000	MARCHE	MARCHE	162,000
5	20,000	100	40,000	200	80,000	MARCHE	MARCHE	20,000	2	10,000	MARCHE	MARCHE	156,000
6	20,000	100	40,000	200	80,000	MARCHE	MARCHE	22,000	2	11,000	MARCHE	MARCHE	160,000
7	20,000	100	40,000	200	80,000	MARCHE	MARCHE	22,000	2	11,000	MARCHE	MARCHE	160,000
8	20,000	50	10,000	75	15,000	ONDR	MARCHE	2,500	1	2,500	MARCHE	MARCHE	73,000
9	20,000	50	20,000	150	60,000	ONDR	MARCHE	7,500	3	2,500	MARCHE	MARCHE	110,500
10	20,000	50	20,000	100	40,000	ONDR	MARCHE	6,000	2	3,000	MARCHE	MARCHE	89,000
11	20,000	50	54,000	200	216,000	ONDR	ONDR	23,000	2	11,500	MARCHE	MARCHE	138,028
12	20,000	50	10,000	75	15,000	ONDR	MARCHE	0	1	2,500	MARCHE	MARCHE	68,000
13	20,000	50	10,000	150	30,000	ONDR	MARCHE	2,500	1	2,500	MARCHE	MARCHE	98,500
14	20,000	50	30,000	150	90,000	ONDR	MARCHE	5,000	2	2,500	MARCHE	MARCHE	107,183
15	20,000	100	60,000	200	120,000	ONDR	ONDR	30,000	4	7,500	ONDR	ONDR	174,667
16	20,000	100	60,000	100	60,000	MARCHE	MARCHE	30,000	4	7,500	MARCHE	MARCHE	102,400
17	20,000	100	60,000	100	60,000	MARCHE	MARCHE	9,000	3	3,000	MARCHE	MARCHE	88,000
18	20,000	25	5,000	25	5,000	MARCHE	MARCHE	6,000	2	3,000	MARCHE	MARCHE	32,000
19	20,000	100	0	0	0	MARCHE	MARCHE	6,000	2	3,000	MARCHE	MARCHE	27,474
20	20,000	100	20,000	100	20,000	MARCHE	MARCHE	10,500	3	3,500	MARCHE	MARCHE	105,800
21	20,000	100	60,000	100	60,000	MARCHE	MARCHE	36,000	12	3,000	MARCHE	MARCHE	107,200
22	17,000	300	255,000	350	332,500	ONDR	ONDR	119,000	17	7,000	MARCHE	MARCHE	309,800
23	22,000	100	44,000	50	22,000	MARCHE	MARCHE	12,000	4	3,000	MARCHE	MARCHE	81,000
24	20,000	150	60,000	0	0	MARCHE	MARCHE	15,000	5	3,000	MARCHE	MARCHE	20,000
25	20,000	150	90,000	100	40,000	MARCHE	MARCHE	9,000	3	3,000	MARCHE	MARCHE	109,000
26	20,000	150	90,000	100	57,000	MARCHE	MARCHE	24,000	8	3,000	MARCHE	MARCHE	145,200
27	20,000	100	20,000	100	21,000	MARCHE	MARCHE	9,000	3	3,000	MARCHE	MARCHE	100,000
28	17,500	100	70,000	200	148,000	MARCHE	MARCHE	17,500	5	3,500	MARCHE	MARCHE	122,750
29	20,000	50	10,500	0	0	MARCHE	MARCHE	3,000	10	3,000	MARCHE	MARCHE	24,000
30	21,000	50	10,500	50	10,500	MARCHE	MARCHE	6,000	2	3,000	MARCHE	MARCHE	58,000
31	17,000	100	3,400	150	5,700	COOP	COOP	5,000	2	2,500	MARCHE	MARCHE	141,000
32	20,000	200	0	0	0	MARCHE	MARCHE	2,500	2	2,500	MARCHE	MARCHE	30,000
33	16,000	100	32,000	150	57,000	COOP	COOP	78,000	24	3,250	MARCHE	MARCHE	27,667
34	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	3,200	0	8,000	COOP	COOP	92,200
35	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	87,200	32	2,723	MARCHE	MARCHE	41,800
36	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	3,250	2	6,500	MARCHE	MARCHE	26,500
37	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	10,000	5	2,000	MARCHE	MARCHE	35,000
38	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	3,500	1	7,000	MARCHE	MARCHE	20,300
39	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	12,500	5	2,500	MARCHE	MARCHE	65,000
40	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	18,000	6	3,000	MARCHE	MARCHE	27,000
41	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	28,000	4	7,000	MARCHE	MARCHE	72,000
42	20,000	100	20,000	0	0	COOP	COOP	14,000	2	7,000	MARCHE	MARCHE	48,000
43	20,000	50	20,000	0	0	COOP	COOP	15,000	6	2,500	MARCHE	MARCHE	55,000
44	20,000	16	7,200	25	11,250	MAGASIN	MAGASIN	7,500	1	7,500	MAGASIN	MAGASIN	27,300
46	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	0	4	3,000	MAGASIN	MAGASIN	1,500
47	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	12,000	4	3,000	MAGASIN	MAGASIN	16,250
48	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	1,500
49	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	1,500
50	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	3,000
51	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	22,000	4	5,500	MAGASIN	MAGASIN	22,500
52	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	24,000	4	6,000	MAGASIN	MAGASIN	12,000
53	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	5,500	1	5,500	MAGASIN	MAGASIN	8,750
54	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	2,500	5	2,500	MARCHE	MARCHE	9,250
55	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	5,500	4	5,500	MARCHE	MARCHE	34,500
56	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	30,000	12	2,500	MARCHE	MARCHE	42,500
57	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	2,500	4	2,500	MARCHE	MARCHE	38,500
58	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	55,000	10	5,500	MAGASIN	MAGASIN	42,500
59	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	11,000	2	5,500	MAGASIN	MAGASIN	32,000
60	15,000	0	0	0	0	MAGASIN	MAGASIN	11,000	2	5,500	MAGASIN	MAGASIN	32,000

班 方法	数量 (人·台)	所要 日数	播種		車取り		馬追い		取獲		脱穀		車用労働量
			所要 日数	所要 日数	所要 日数	所要 日数	所要 日数	所要 日数	所要 日数	所要 日数	所要 日数	所要 日数	
1 MOT	2	2	75,000	67,500					0	20,000	40,000	MANUEL	203,667
2 MOT	2	2	75,000	55,000					0	10,000	20,000	MANUEL	258,000
3 MOT	1	1	37,500	37,000					15,000	30,000	MANUEL	139,500	
4 MOT	2	2	75,000	50,000					0	50,000	MANUEL	230,000	
5 MOT	2	2	75,000	50,000					0	15,000	MANUEL	213,000	
6 MOT	2	2	75,000	49,000					0	19,980	MANUEL	235,980	
7 MOT	2	2	75,000	49,000					0	333	MANUEL	226,980	
8 MOT	2	2	80,000	24,000					22,500	500	OP	179,000	
9 MOT	2	2	80,000	36,000					30,000	500	OP	116,000	
10 MOT	2	2	80,000	24,000					30,000	500	OP	184,000	
11 MOT	2	2	80,000	216,000					21,060		FAMILLE	127,126	
12 MOT	2	2	80,000	28,800							FAMILLE	137,600	
13 MOT	2	2	80,000	40,000							FAMILLE	80,000	
14 MOT	2	2	75,000	18,000							OP	193,667	
15 MOT	2	2	75,000	96,000							OP	172,333	
16 MANUEL	4	10	2,000	30,000							MEC	154,000	
17 MANUEL	5	7	1,500	52,500							MEC	90,000	
18 MANUEL	8	1	2,000	12,000							MEC	60,000	
19 MANUEL	10	3	1,500	30,000							MEC	101,000	
20 MANUEL	10	3	60,000	30,000							MEC	116,842	
21 MOT			80,000	50,000							MANUEL	320,000	
22 MOT			155,000	120,000							MEC	233,333	
23 MOT			13,000	32,500							MEC	152,200	
24 MANUEL	24	4	2,500	20,000							MEC	73,500	
25 MANUEL	5	4	5,000	30,000							MEC	206,000	
26 MANUEL	5	8	1,500	52,000							MEC	141,067	
27 MANUEL	3	7	2,000	42,000							MEC	72,500	
28 MANUEL	5	5	62,500	72,000							MEC	170,133	
29 MOT	5	5	2,500	38,000							MEC	135,000	
30 MANUEL	50	1	55,000	70,000							MEC	71,000	
31 MANUEL	2	5	27,900								FAMILLE	145,000	
32 MANUEL	2	5	2,730	2,730							FAMILLE	647,900	
33 MOTO	3	3	100,000	22,500							SOIEME	45,000	
34 MOTO	3	3	100,000	1,200,000							SOIEME	234,953	
35 MOTO	3	3	112,000	100,000							MEC	207,000	
36 MOTO	3	3	100,000	486,000							MEC	234,000	
37 MOTO	2	2	35,000	100,000							MEC	370,000	
38 MOTO	2	2	30,000	35,000							MEC	330,000	
39 MANUEL	6	2	27,000	15,000							MEC	196,000	
40 MOTO			無料	27,000							FAMILLE	174,600	
41 MOTO				25,000							FAMILLE	100,000	
42 MANUEL	4	7	FAMILLE	0							FAMILLE	23,333	
43 MOTO	2	10	FAMILLE	75,000							FAMILLE	75,000	
44 MANUEL	2	10	FAMILLE	42,000							FAMILLE	0	
45 MOTO	1	1	42,000	83,000							FAMILLE	0	
46 MANUEL	5	2	20,000	20,000							FAMILLE	58,667	
47 MANUEL	5	2	6,000	100,000							FAMILLE	40,000	
48 MANUEL	8	2	25,000	0							FAMILLE	100,000	
49 MANUEL	50	1	50,000	50,000							FAMILLE	41,667	
50 MANUEL	10	1	25,000	50,000							SOIEME	0	
51 MANUEL	10	1	25,000	25,000							FAMILLE	125,000	
52 MANUEL	53	1	25,000	25,000							FAMILLE	75,000	
53 MANUEL	54	1	25,000	50,000							FAMILLE	75,000	
54 MANUEL	55	1	25,000	30,000							FAMILLE	102,500	
55 MANUEL	56	1	FAMILLE	30,000							FAMILLE	45,000	
56 MANUEL	57	1	FAMILLE	FAMILLE							FAMILLE	0	
57 MANUEL	58	1	FAMILLE	1,500							FAMILLE	0	
58 MANUEL	59	1	FAMILLE	15,000							FAMILLE	15,000	
59 MANUEL	60	1	FAMILLE	12,500							FAMILLE	12,500	
60 MANUEL			FAMILLE	FAMILLE							FAMILLE	50,000	

問題点		その他作物		販売額
		時期作付 準備金	面積 ha	F
1	機械、投入材	188,000	0.5	
2	機械、投入材	100,000	0.5	
3	機械、投入材、労働力	200,000	1.75	50,000
4	機械、投入材、シート、排水路浚渫	450,000	0.4	
5	機械、投入材、排水路浚渫	300,000	1.25	
6	機械、投入材	300,000	1	
7	機械	250,000	1	
8	機械、シート、乾燥場、貯蔵庫	250,000	0.9	
9	機械	400,000	0.25	
10	機械、投入材、シート、乾燥場	400,000	0.25	
11	機械、投入材、シート、貯蔵庫	400,000	0.75	
12	耕う心機、投入材、加工、販売	150,000	1	
13	耕運機、乾燥場、貯蔵庫、シート、噴霧器	200,000	1	
14	資金、耕運機、シート、貯蔵庫、販売	250,000	0.2	
15	機械、乾燥場、販売、労働力	350,000	1.5	
16	刈り取り機	200,000	1	200,000
17	水、投入材、機械	300,000	1	310,000
18	投入材、水源(ダム無し)	90,000	0.5	150,000
19	資金、水、投入材	100,000	0.2	130,000
20	資金、水源、投入材、機械、販売			
21	水路、鳥害		1	50,000
22	労働力、販売		1	150,000
23	資金、投入材	100,000	1	
24	資金、投入材		1	
25	投入材、水源(ダム無し)	100,000	1	110,000
26	投入材、機械		0.24	
27	投入材、耕運機、土壤肥沃土		0.5	31,500
28	肥料		0.5	112,500
29	資金、投入材	160,000	1.5	340,000
30	土壤肥沃土、投入材			
31	資金			
32	種子、耕耘、投入材	2,000,000		
33	水管理、刈り取り機、乾燥場	1,500,000		
34	耕耘、水管理(収穫時の排水不良)			
35	耕耘、種子			
36	水管理			
37	機械、資金			
38	機械、資金			
39	資金	500,000	0.5	
40	機械、資金	500,000	0.75	
41	投入材、鳥害		0.25	
42	耕耘、投入材	100,000		
43	鳥害	150,000	0.5	
44	除草、投入材	500,000		
45	除草機	0	0.005	
46	圃場面積小	100,000	1	210,000
47	種子、投入材、噴霧器		1.5	150,000
48	種子、投入材、機械化			
49	種子、投入材、噴霧器、機械、研修		0.5	150,000
50	種子、投入材、噴霧器、投入材、精米機	50,000	1.5	150,000
51	種子、投入材、機械化		1	200,000
52	種子、投入材、噴霧器、運輸用トラクター		2	350,000
53	資金、普及サービス、投入材	50,000	1.5	150,000
54	圃場面積小、種子、機械		3	600,000
55	圃場面積小、除草、投入材、ゴム栽培と競合		1	200,000
56	圃場面積小、労働力不足、投入材、投入材		2	600,000
57	圃場面積小、労働力不足、投入材、投入材	150,000	1	100,000
58	噴霧器、除草剤		1	125,000
59	噴霧器、種子、栽培指導		1	80,000
60	種子、投入材、機械		2.65	

調査データ略字対訳表

栽培作物	YAMUYMO
IGN	キャッサバ
MAN	トウモロコシ
MAI	ナス
AUB	オクラ
GOM	トマト
TOM	バナナ
BAN	レタス
LAI	キュウリ
IGN	キャベツ
CHO	ズッキーニ
COU	ズッキーニ
ARA	ラッカセイ
COC	ココヤシ
CAN	サトウキビ
PIM	トウガラシ
栽培方法	L 正条植え
	F 乱雑植え
	V 直播
	P 点播

組合を通して精米を販売した場合の収益
 出典)ローカルコンサルタツ調査データより調査団算出
 注: Fは現地通貨FCFAの略

コスト詳細(生産) Cost. detail-Production

LOCALITES	LABOUR F/ha	SEMECE F/ha	REPIQUA GE F/ha	ENGRAIS F/ha	HERBICIDE F/ha	INSECTICIDE F/ha	GARDIEN NAGE F/ha	RECOLTE F/ha	RAMASSAGE après récolte F/ha	VANNAGE F/ha	SECHAGE F/ha	TRANSPORT ET MANUTENTION F/ha
場所	労働力(耕起) F/ha	種子 F/ha	移植 F/ha	肥料 F/ha	除草剤 F/ha	殺虫剤 F/ha	見張り F/ha	収穫 F/ha	収穫後の運搬(畑→収穫後処理場) F/ha	風選 F/ha	乾燥 F/ha	運搬(収穫後処理場→精米所) F/ha
ADZOPE	70,000	8,000		75,000	19,500	15,000	20,000	23,000	0	17,000	3,400	0
YAMOUS	65,000	18,000	30,000	115,000	26,850	14,000	36,000	50,000	20,000	40,000	12,000	0
DALOA	60,000	16,000	25,000	100,000	12,000	14,000	40,000	35,000	20,000	35,000	10,500	15,000
GAGNOA	60,000	10,000	30,000	109,000	26,000	12,000	30,000	35,000	15,000	20,000	6,000	0
SOLBRE	40,000	28,000	30,000	91,000	28,000	15,000	40,000	40,000	20,000	20,000	15,000	0
SAN PEDRO	75,000	35,000	35,000	145,000	18,000	14,000	30,000	30,000	20,000	30,000	7,000	0
BOUJAKE	90,000	20,000	25,000	130,000	28,000	16,000	45,000	50,000	10,000	10,000	0	50,000
KORHOGO	60,000	14,000	25,000	114,000	14,000	14,000	30,000	35,000	10,000	35,000	40,000	47,000
MOYENNE	65,000	18,625	27,500	103,500	21,544	14,250	33,875	32,875	13,750	28,375	12,988	24,375

コスト(生産)

LOCALITES	sub-total (labour+Ma chine) F/ha	sub-total (input) F/ha	sub-total (transport) F/ha	Cost TOTAL F/ha	RENDEMENT t/ha	sub-total (labour+Ma chine) F/kg paddy	sub-total (input) F/kg paddy	sub-total (transport) F/kg paddy	COUT PROD ^o PADDY F/kg
場所	コスト1 (労働力+機械) F/ha	コスト2 投入財 F/ha	コスト3 運搬 F/ha	(1+2+3) コスト計 F/ha	単収 t/ha	コスト1 (労働力+機械) F/kg paddy	コスト2 投入財 F/kg paddy	コスト3 運搬 F/kg paddy	コスト計 F/kg paddy
ADZOPE	153,400	117,500	7,000	277,900	4	38	29	2	69
YAMOUS	233,000	173,850	45,000	451,850	4	58	43	11	113
DALOA	207,000	142,000	29,000	378,000	3	69	47	10	126
GAGNOA	191,000	157,000	45,000	393,000	4	48	39	11	98
SOLBRE	185,000	162,000	40,000	387,000	4	46	41	10	97
SAN PEDRO	207,000	161,000	27,000	395,000	3.5	53	46	8	113
BOUJAKE	205,000	194,000	55,000	454,000	3	41	39	11	91
KORHOGO	240,000	136,000	57,000	433,000	3.5	69	45	16	129
MOYENNE	202,675	157,919	38,125	398,719	4	54	41	10	105

生産コスト(精米換算:歩留り65%) Cost(Polished equivalent)-Production

LOCALITES	sub-total (labour+Ma chine) F/kg polished equivalent	sub-total (input) F/kg polished equivalent	sub-total (transport) F/kg polished equivalent	sub-total (labour+Ma chine) F/kg polished equivalent	sub-total (input) F/kg polished equivalent	sub-total (transport) F/kg polished equivalent	COUT PROD ^o Paddy F/kg
場所	コスト1 (労働力+機械) F/kg 精米換算	コスト2 投入財 F/kg 精米換算	コスト3 運搬 F/kg 精米換算	コスト1 (労働力+機械) F/kg 精米換算	コスト2 投入財 F/kg 精米換算	コスト3 運搬 F/kg 精米換算	コスト計 F/kg 精米換算
ADZOPE	59	45	3	59	45	3	107
YAMOUS	90	67	17	90	67	17	174
DALOA	106	73	15	106	73	15	194
GAGNOA	73	60	17	73	60	17	151
SOLBRE	71	62	15	71	62	15	149
SAN PEDRO	91	71	12	91	71	12	174
BOUJAKE	63	60	17	63	60	17	140
KORHOGO	105	69	25	105	69	25	199
MOYENNE	82	63	15	82	63	15	161

利益(精米販売) Benefit-Paddy Sales

LOCALITES	PRIX MOYEN PADDY (F/kg)			REVENU Paddy F/kg			COUT PROD ^o PADDY F/kg
	MINI	MAXI	MOYEN	MINI	MAXI	MOYEN	
ADZOPE			150			69	81
YAMOUS			200			113	87
DALOA	100	170	135	126	-26	44	9
GAGNOA			175	98		77	71
SOLBRE	100	180	140	97	3	83	43
SAN PEDRO	150	175	165	113	3	62	52
BOUJAKE	150	180	165	91	59	89	74
KORHOGO	135	175	155	129	6	46	26
MOYENNE	127	176	160.6	104.6	15.8	64.8	56.1

利益(籾販売) Benefit-Paddy sales (Polished equivalent)

LOCALITES	PRIX MOYEN PADDY equivalent of 1kg of polished rice (F/kg polished)			REVENU Paddy equivalent of 1kg of polished rice (F/kg polished)			COUT PADDY equivalent of 1kg of polished rice (F/kgG)
	MINI	MAXI	MOYEN	MINI	MAXI	MOYEN	
ADZOPE			231			107	124
YAMOUS			308			174	134
DALOA	154	262	208	194	-40	68	14
GAGNOA			269	151		118	118
SOLBRE	154	277	215	149	5	128	67
SAN PEDRO	231	269	254	174	57	96	80
BOUJAKE	231	277	254	140	91	137	114
KORHOGO	208	269	238	199	9	70	39
MOYENNE	195	271	247	161	24	100	86

コスト(精米費) Cost-Polishing

LOCALITES	COÛT DECORTICAGE F/kg		SACHERIE 50kg		COÛT DECORTICAGE Total F/kg 精米コスト 計 F/精米 kg
	精米代 F/kg	精米代 F/精米kg	コメ袋代 (50kg袋) F/精米kg	コメ袋代 F/精米kg	
ADZOPE	30	30	200	4	34
YAMOUS	25	25	200	4	29
DALOA	20	20	200	4	24
GAGNOA	25	25	200	4	29
SOUJRE	25	25	200	4	29
SAN PEDRO	33	33	250	5	40
BOUJAKE	10	10	200	4	14
KORHOGO	15F Paddy	23	175	4	27
MOYENNE		24.1	203.1	4.1	28.2

利益(精米販売) Benefit-Polished Rice Sales

LOCALITES	PRIX MOYEN RIZ BLANCHI (F/kg)			COÛT PROD' PADDY equivalent of 1kg of polished rice (F/kgG polished)	COÛT DECORTICAGE Total F/kg	Transport Moen to Abidjan (Transported by Cooperative e) F/kg	REVENU RIZ BLANCHI F/kg
	MINI	MAXI	MOYEN				
ADZOPE	350	400	375	107	34		209
YAMOUS			400	174	29	14	183
DALOA	275	325	300	184	24		57
GAGNOA	375	500	450	151	29	12	183
SOUJRE	275	400	350	149	23		97
SAN PEDRO	300	350	325	174	40		86
BOUJAKE	300	350	325	140	14		146
KORHOGO	250	350	300	199	27		24
MOYENNE	303.6	382.1	353.1	160.9	28.2		114.8

アビジャンへの運送費 Transport to Abidjan

LOCALITES	Transport (F/kg)		
	MINI	MAXI	MOYEN
ADZOPE	10	13	11
YAMOUS	13	15	14
DALOA	20	25	23
GAGNOA	8	15	12
SOUJRE	20	25	23
SAN PEDRO	20	30	23
BOUJAKE	15	20	18
KORHOGO	20	30	25
MOYENNE	15.7	21.6	18.6

利益の比較(精米販売と粗販売) Comparison of Benefit (Paddy and Polished)

LOCALITES	REVENU RIZ BLANCHI F/kg			REVENU Paddy equivalent of 1kg of polished rice (F/kg polished)	Difference (Polished - Paddy)
	MINI	MAXI	MOYEN		
ADZOPE	209	259	234		
YAMOUS			183	124	
DALOA	57	107	82	134	
GAGNOA	183	308	258	68	
SOUJRE	97	222	172	118	
SAN PEDRO	86	136	111	67	
BOUJAKE	146	196	171	80	
KORHOGO	24	124	74	137	
MOYENNE				70	

仲買手取り Revenue (Distributor)

LOCALITES	PRIX MOYEN RIZ BLANCHI (F/kg)			Transport Moyen (F/kg)	Wholesale Price in Abidjan (F/kg)			Revenue/Distributor (F/kg)		
	MINI	MAXI	MOYEN		MINI	MAXI	MOYEN	MINI	MAXI	MOYEN
ADZOPE	350	400	375	11	350	450	400	-11	39	14
YAMOUS										
DALOA	275	325	300	23	350	450	400	53	103	78
GAGNOA										
SOUBRE	275	400	350	23	350	450	400	53	28	28
SANI PEDRO	300	350	325	25	350	450	400	25	75	50
BOUARKE	300	350	325	18	350	450	400	33	83	58
KORHOGO	250	350	300	25	350	450	400	75	75	75
MOYENNE	291.7	362.5	329.2	20.6	350.0	450.0	400.0	37.7	66.9	50.2

小売手取り Revenue (Retailer)

	MINI	MAXI	MOYEN
Abidjan retail price f/kg	450	550	500
Abidjan Wholesale price	350	450	400
Revenue retailer	100	100	100

Gagnoa

	MOYEN
Abidjan retail price f/kg	500
Abidjan Wholesale	450
Revenue retailer	50